

# 日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略 施策検証結果報告書（令和2年度）



令和3年12月

日野町総合計画懇話会

# 目 次

---

1. はじめに.....	1
2. 検証方法.....	2
3. 基本目標別検証結果.....	6
4. 施策検証結果一覧.....	16
基本目標（1）まちのたからで雇用を創る.....	17
基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る.....	20
基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	23
基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる...27	
5. 施策別検証内容（施策検証シート）.....	31
基本目標（1）まちのたからで雇用を創る.....	32
基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る.....	42
基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	53
基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる...68	
6. 地方創生交付金事業の検証.....	82
7. 検証のまとめ.....	84
1) 量的(KPI)検証のまとめ.....	85
2) 質的（取組内容）検証のまとめ.....	87
3) 基本目標別のまとめ.....	88
4) まとめ.....	92
8. 資料編.....	97
1) 用語解説.....	98
2) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会の開催.....	100
3) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会委員名簿.....	100

# 1. はじめに

## 1) 総合戦略の検証の実施について

まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定される市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として、平成27年10月に策定された「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」（以下「総合戦略」）では、日野町の人口が2060年には約15,900人に減少すると推計（国立社会保障・人口問題研究所推計）されているなか、「日野町人口ビジョン」で見通している将来展望人口18,000人台の維持と人口構造の安定をめざすため、平成27年度からの6年間の基本的な方向と施策の取り組みを定めています。

この総合戦略を進めることにより、安心して暮らせるまちをつくりそのまちの魅力で交流人口および定住者人口を増やし、持続的に発展する日野町をつくることを目指しています。

このことから毎年度の事業完了後に基本目標と施策についての取り組み状況を外部有識者等の参画のもとに効果検証することにより、その検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行うPDCAサイクルを確立し、総合戦略を着実に推進するために実施するとのことです。

## 2) 検証にあたっての着目点など

総合戦略の検証を進めるにあたって、次の着目点により検証を実施しました。

- ① 総合戦略に掲げる「めざす姿」の実現に向けて、4つの基本目標の総合的な自己点検が実施され、事業の見直しも含めた今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。

（めざす姿）

人と人がつながり、顔の見える関係のもと、いきいきと輝きながら活発に、地域をよくするため自分たちで考え、自分たちで行動して安心して暮らせる地域をつくり、そのもとで地域のコミュニティや文化、産業をつくれるまちとなっている。

また、地域内経済循環の活性化につながる、人をはじめ自然、歴史など地域の誇りと地域資源を活かすことにより、「ひと」・「まち」・「しごと」のつながりの好循環により持続発展可能なまちとなっている。

- ② 施策の取り組みについて、基本目標および基本的方向性を踏まえた取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ③ 施策の取り組みについて、施策の内容を十分に理解したうえで取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ④ 施策の取り組みについて、重要業績評価指標（KPI）の実績だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実ができていないか。

## 2. 検証方法

## 1) 施策の検証方法

施策の検証については、施策毎に取り組み状況等をまとめた「施策検証シート」を作成し、懇話会委員の合議性により検証を実施しました。

「施策検証シート」の検証項目には、施策毎の目標値にあたる「重要業績評価指標（KPI）の達成度」だけでなく、施策の取り組み内容の質について検証を行うため、「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」を加えた5項目としました。

## 2) 施策の検証結果

検証結果については、30点満点とし、「施策の検証基準」に基づき、量的検証項目として重要業績評価指標（KPI）の達成度、質的検証項目として4項目の採点を行い、5項目の合計点数により5段階の検証結果としました。

### 【量的検証項目】・・・点数配分10点

量的な検証として、年度別の重要業績評価指標（KPI）の目標値に対する実績値の達成度を検証しました。なお、重要業績評価指標（KPI）が複数設定されている施策については、平均点を点数としました。

検証による点数配分は、次のとおりです。

点数	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
KPI の達 成度	100%	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%
		未満～ 90%以 上	未満～ 80% 以上	未満～ 70% 以上	未満～ 60% 以上	未満～ 50% 以上	未満～ 40% 以上	未満～ 30% 以上	未満～ 20% 以上	未満～ 10% 以上	未満～ 0%以 上

年度別の重要業績評価指標（KPI）に関する検証結果を次のとおり5段階としました。

KPIの検証結果	重要業績評価指標（KPI） の達成度	重要業績評価指標（KPI） の検証点数
量S	100% ～ 90%以上	10点 ～ 9点
量A	90%未満 ～ 70%以上	8点 ～ 7点
量B	70%未満 ～ 50%以上	6点 ～ 5点
量C	50%未満 ～ 30%以上	4点 ～ 3点
量D	30%未満 ～ 0%以上	2点 ～ 0点

【質的検証項目】・・・点数配分20点

「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」の4項目について検証を行った。

検証による点数配分は、次のとおりです。

検証項目	5点	4点	3点	2点	1点
【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証が できているか	施策の内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	施策の内容を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	施策の内容を理解し取り組みができている	概ね施策の内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	施策の内容を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	施策の内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	施策の内容を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね施策の内容を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない
【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、取り組みにより達成している	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	基本目標と基本的方向を理解し取り組みができている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	基本目標と基本的方向を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない

質的検証を行った4項目の合計点数により、質的な検証結果を次のとおり5段階としました。


質的検証結果	質的検証結果の内容	質的検証を行った4項目の合計点数
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	20点 ～ 17点
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている	16点 ～ 13点
質B	内容を理解し、取り組みができている	12点 ～ 9点
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	8点 ～ 5点
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	4点 ～ 1点

## 【検証結果】

量的検証項目（KPI）および質的検証項目（4項目）の検証点数の合計点数により次のとおり、施策の検証結果とすることとしました。

検証結果	検証結果内容	5項目の合計点数
S	目標を達成している	30点～25点
A	優れている	24点～19点
B	実施できている	18点～13点
C	工夫が必要	12点～7点
D	改善が必要	6点～1点

## 【施行策の検証基準】

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略		施策の検証基準											
30点満点		達成		優		良		発展途上		改善が必要			
数量的検証	①	KPIの達成度 ※KPIが複数の場合は、平均点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
		100%	100%未満～90%以上	90%未満～80%以上	80%未満～70%以上	70%未満～60%以上	60%未満～50%以上	50%未満～40%以上	40%未満～30%以上	30%未満～20%以上	20%未満～10%以上	10%未満～0%以上	
質的検証	②	【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証ができていますか	5点		4点		3点		2点		1点		
	③	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	5点		4点		3点		2点		1点		
	④	【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができていますか	5点		4点		3点		2点		1点		
	⑤	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	5点		4点		3点		2点		1点		
	合計検証点数												
													
合計検証点数		30点～25点	24点～19点	18点～13点	12点～7点	6点～1点							
⑥検証結果		S 目標を達成している	A 優れている	B 実施できている	C 工夫が必要	D 改善が必要							

### 3) 基本目標別の検証

基本目標の検証については、めざす姿の実現に向けて、基本目標別にまとめられた取り組み状況と今後の取り組み、基本目標を構成する施策の検証結果を踏まえ、総合的に基本目標を検証し、その検証内容をコメントとしてまとめました。

### 4) 地方創生交付金事業の検証

地方創生交付金事業の検証については、国から外部有識者による効果検証が求められていることから、総合計画懇話会で検証を行うこととしました。効果検証については、重要業績評価指標（KPI）の達成度に加え、関連する施策の検証結果を踏まえ、事業として有効であったかを検証することとしました。

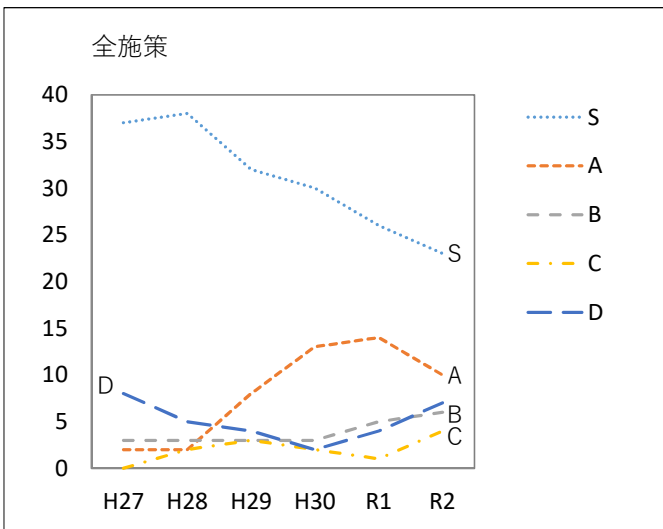
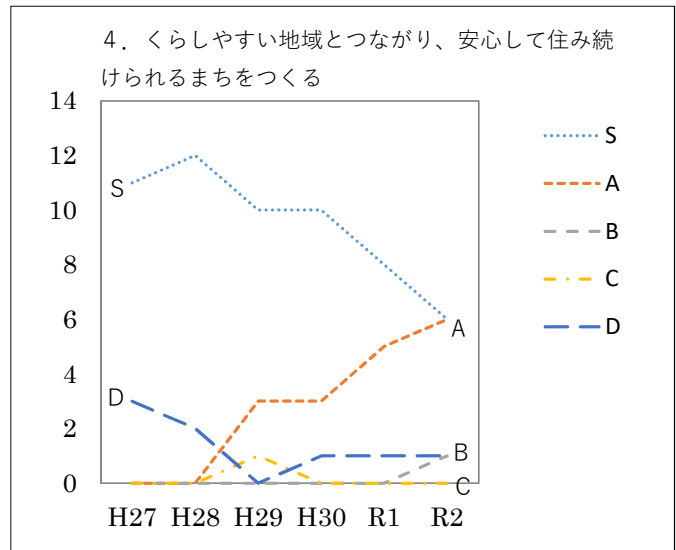
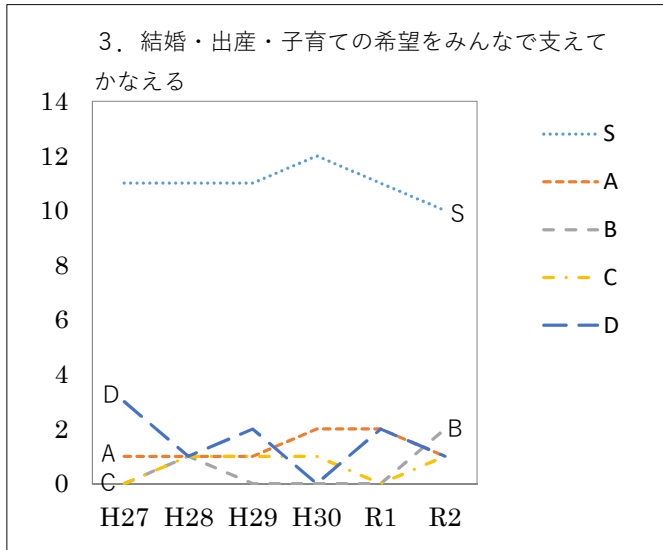
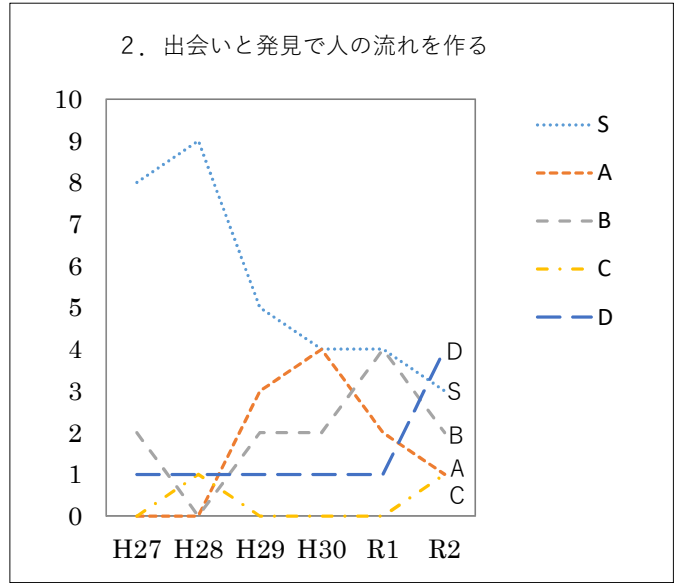
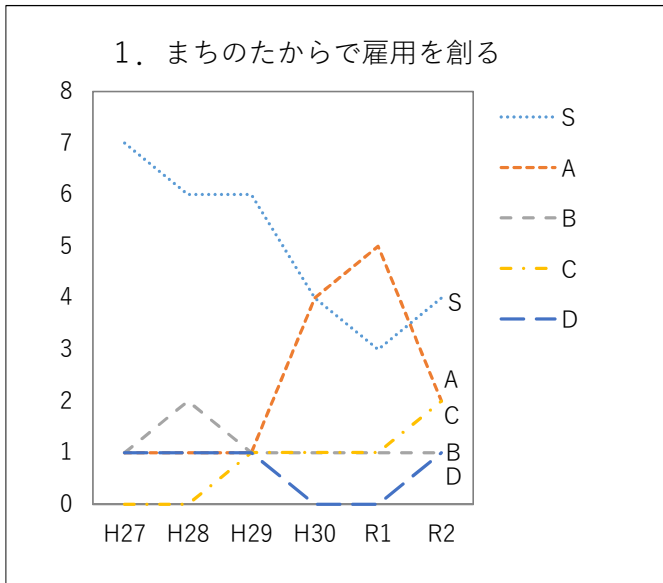




### 3. 基本目標別検証結果

No.	基本目標	年度	検証結果					合計
			達成度 100%～90%以上	達成度 90%未満～70%以上	達成度 70%未満～50%以上	達成度 50%未満～30%以上	達成度 30%未満～0%以上	
			量S	量A	量B	量C	量D	
1	まちのたからで雇用を創る	H27	7	1	1	0	1	10
		H28	6	1	2	0	1	10
		H29	6	1	1	1	1	10
		H30	4	4	1	1	0	10
		R1	3	5	1	1	0	10
		R2	4	2	1	2	1	10
2	出会いと発見で人の流れを作る	H27	8	0	2	0	1	11
		H28	9	0	0	1	1	11
		H29	5	3	2	0	1	11
		H30	4	4	2	0	1	11
		R1	4	2	4	0	1	11
		R2	3	1	2	1	4	11
3	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	H27	11	1	0	0	3	15
		H28	11	1	1	1	1	15
		H29	11	1	0	1	2	15
		H30	12	2	0	1	0	15
		R1	11	2	0	0	2	15
		R2	10	1	2	1	1	15
4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	H27	11	0	0	0	3	14
		H28	12	0	0	0	2	14
		H29	10	3	0	1	0	14
		H30	10	3	0	0	1	14
		R1	8	5	0	0	1	14
		R2	6	6	1	0	1	14
総合計		H27	37	2	3	0	8	50
		H28	38	2	3	2	5	50
		H29	32	8	3	3	4	50
		H30	30	13	3	2	2	50
		R1	26	14	5	1	4	50
		R2	23	10	6	4	7	50

# 基本目標別量的（KPI）検証結果

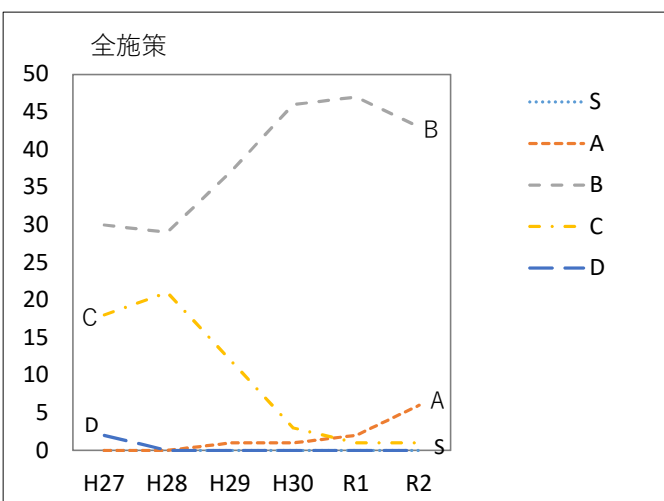
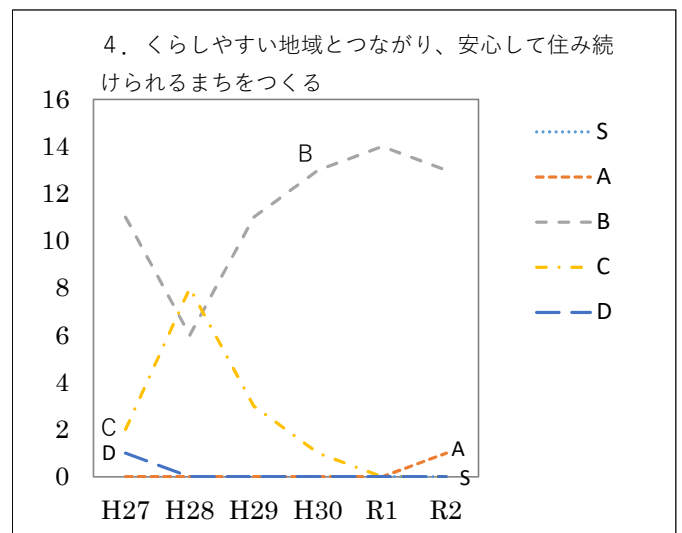
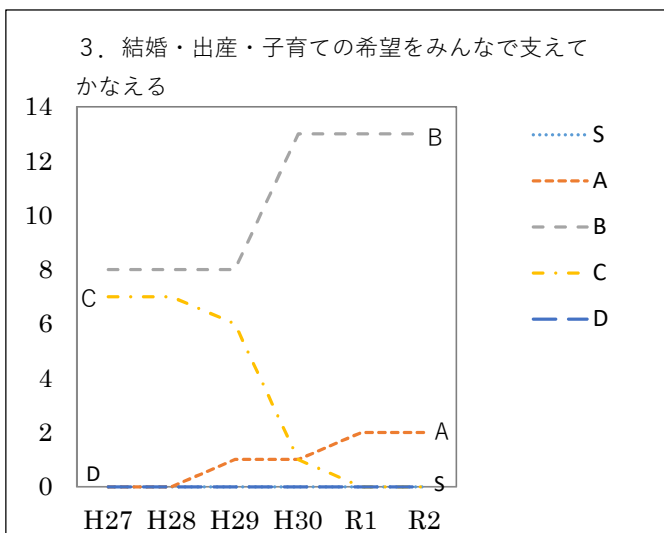
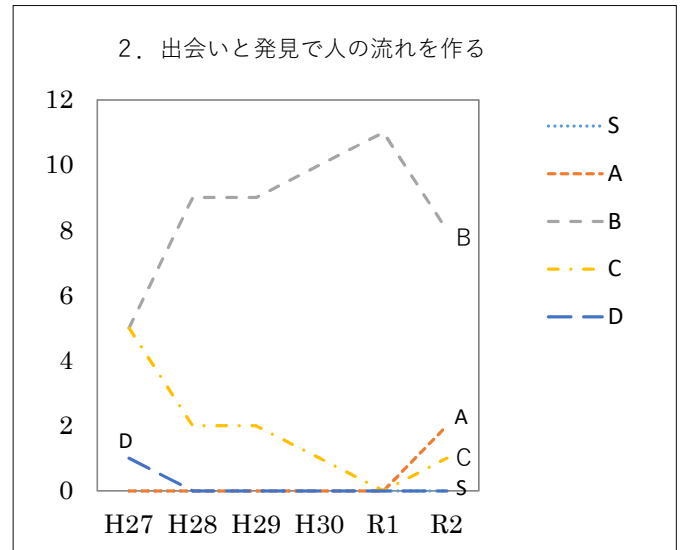
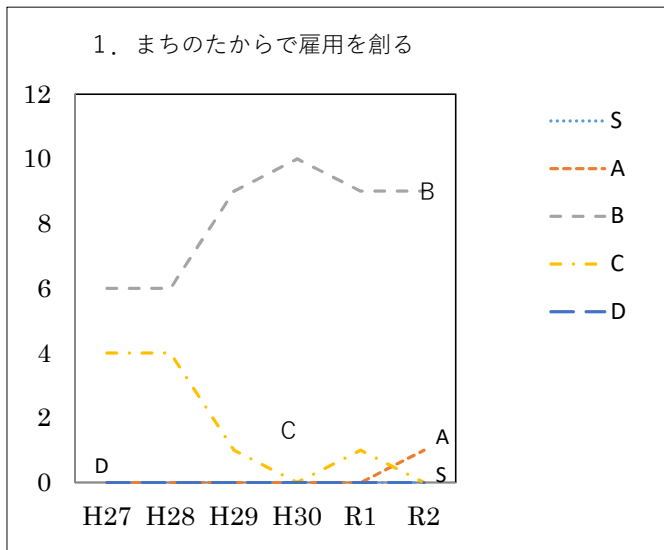


全施策の量的（KPI）検証結果では、量S（達成度100%～90%）は昨年度より3施策減って23施策となりましたが、依然最も多くなっています。量A（達成度90%～70%）は、10施策と昨年度より4施策減りました。

また、量B（達成度70%～50%）は6施策と昨年度より1施策、量C（達成度50%～30%）は4施策と昨年度より3施策増え、量D（達成度30%～0%）は7施策と昨年度より3施策増えています。

No.	基本目標	年度	検証結果					合計
			内容を十分に理解し、取組により達成している	内容を理解した取組みを実施し、課題解決や達成に向けた取組みができています	内容を理解し、取組みができています	概ね内容を踏まえているが、取組みが不十分	あまり内容を踏まえて取組めていない	
			質S	質A	質B	質C	質D	
1	まちのたからで雇用を創る	H27	0	0	6	4	0	10
		H28	0	0	6	4	0	10
		H29	0	0	9	1	0	10
		H30	0	0	10	0	0	10
		R1	0	0	9	1	0	10
		R2	0	1	9	0	0	10
2	出会いと発見で人の流れを作る	H27	0	0	5	5	1	11
		H28	0	0	9	2	0	11
		H29	0	0	9	2	0	11
		H30	0	0	10	1	0	11
		R1	0	0	11	0	0	11
		R2	0	2	8	1	0	11
3	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	H27	0	0	8	7	0	15
		H28	0	0	8	7	0	15
		H29	0	1	8	6	0	15
		H30	0	1	13	1	0	15
		R1	0	2	13	0	0	15
		R2	0	2	13	0	0	15
4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	H27	0	0	11	2	1	14
		H28	0	0	6	8	0	14
		H29	0	0	11	3	0	14
		H30	0	0	13	1	0	14
		R1	0	0	14	0	0	14
		R2	0	1	13	0	0	14
総合計		H27	0	0	30	18	2	50
		H28	0	0	29	21	0	50
		H29	0	1	37	12	0	50
		H30	0	1	46	3	0	50
		R1	0	2	47	1	0	50
		R2	0	6	43	1	0	50

## 基本目標別質的（取組内容）検証結果



全施策の質的（取組内容）検証結果では、質B（内容を理解し、取り組みができています）が昨年度より4施策減り、43施策となり、全体の86%を占めています。

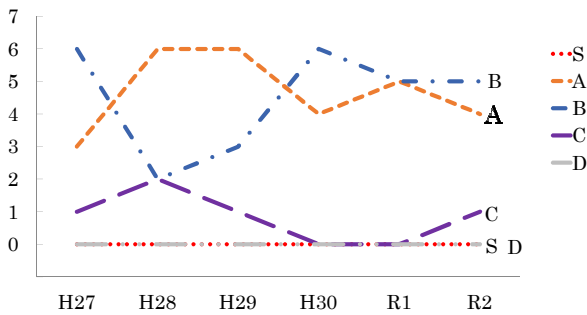
次いで、質A（内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができています）が昨年度より4施策増え、6施策となりました。

また、質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）が昨年度に引き続き1施策となりました。

基本目標 (1)	まちのたからで雇用を創る
まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	

指標名		基準値 (H26)	重要業績評価指標 (KPI)						
			H27	H28	H29	H30	R1	R2	
1	創業件数	0 件	目標	3 件 (累計)	6 件 (累計)	9 件 (累計)	12 件 (累計)	15 件 (累計)	15 件 (累計)
			実績	1 件 (累計)	1 件 (累計)	1 件 (累計)	2 件 (累計)	4 件 (累計)	5 件 (累計)
			達成率	33.3%	16.7%	11.1%	16.7%	26.7%	33.3%
2	町内企業への新規学卒就職者の町内在住者比率	21.2 %	目標	21.2 %	23.0 %	26.0 %	28.0 %	30.0 %	30.0 %
			実績	26.7 %	18.7 %	10.0 %	23.9 %	25.6 %	18.8 %
			達成率	100.0%	81.3%	38.5%	85.4%	85.3%	62.7%
講すべき施策に関する基本的方向		○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用結びつけます。 ○農業などを通じて「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を生み出すことで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。							
施策の検証結果状況		年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計	
			S	A	B	C	D		
		H27	0	3	6	1	0	10	
		H28	0	6	2	2	0	10	
		H29	0	6	3	1	0	10	
		H30	0	4	6	0	0	10	
		R1	0	5	5	0	0	10	
R2	0	4	5	1	0	10			

1. まちのたからで雇用を創る



基本目標①「まちのたからで雇用を創る」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が昨年度より1施策減り、4施策（40.0%）となっています。また、B（実施できている）が昨年度に引き続き5施策（50.0%）、C（工夫が必要）が昨年度より1施策増えています。

基本目標に対するコメント (まとはめはP.88参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で人の動き、働き方の変化が起きています。時代の変化を的確にとらえて、新しい取り組みを模索してください。</li> <li>・雇用については、職に就くということのみに取り組むのではなく、出産、子育てや住宅等が総合的に考えられ、働く人が住みやすい町であるべきであり、バランスが大切です。トータルな政策をお願いします。</li> <li>・農の担い手の裾野を広げる施策の工夫が必要です。</li> <li>・地元企業や商工会との連携などから町内雇用の拡大にまでつなげられるように施策の全体像を再検討してください。</li> <li>・日野菜や獣肉という日野ならではの宝を活かし、ビジネスにつなげることで後継者問題も解決できる可能性があります。</li> </ul>
-------------------------------	---

基本目標 (2)	出会いと発見で人の流れを作る
まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。	

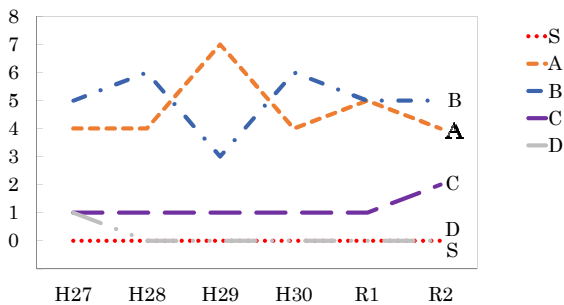
重要業績評価指標 (KPI)								
指標名	基準値 (H26)		H27	H28	H29	H30	R1	R2
1 観光入込客数(年間) 過去3年平均	625,667人 (H24-H26)	目標	628,000人 (H25-H27)	629,500人 (H26-H28)	631,000人 (H27-H29)	633,000人 (H28-H30)	635,000人 (H29-R1)	636,000人 (H30-R2)
		実績	619,500人 (H25-H27)	595,400人 (H26-H28)	569,166人 (H27-H29)	573,333人 (H28-H30)	625,166人 (H29-R1)	572,166人 (H30-R2)
		達成率	98.6%	94.6%	90.2%	90.6%	98.5%	90.0%
2 転入者数(住民基本台帳) 過去3年平均	6784人 (H24-H26)	目標	680人 (H25-H27)	690人 (H26-H28)	700人 (H27-H29)	715人 (H28-H30)	730人 (H29-R1)	740人 (H30-R2)
		実績	717人 (H25-H27)	713人 (H26-H28)	715人 (H27-H29)	696人 (H28-H30)	765人 (H29-R1)	778人 (H30-R2)
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	100.0%	105.1%
3 転出者数(住民基本台帳) 過去3年平均	8064人 (H24-H26)	目標	800人 (H25-H27)	780人 (H26-H28)	760人 (H27-H29)	730人 (H28-H30)	710人 (H29-R1)	710人 (H30-R2)
		実績	843人 (H25-H27)	820人 (H26-H28)	801人 (H27-H29)	766人 (H28-H30)	734人 (H29-R1)	791人 (H30-R2)
		達成率	94.9%	95.1%	94.6%	95.3%	96.7%	89.8%

講ずべき施策に関する基本的方向

○まちの「たから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心を持ち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。  
 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んで良かったと思える地域への愛着を芽生えさせ、育てていくことにより定住を促進します。  
 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。  
 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。

施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	H27	O	4	5	1	1	11
	H28	O	4	6	1	0	11
	H29	O	7	3	1	0	11
	H30	O	4	6	1	0	11
	R1	O	5	5	1	0	11
	R2	O	4	5	2	0	11

2. 出会いと発見で人の流れを作る



基本目標②「出会いと発見で人の流れを作る」を構成する施策の検証結果は、A(優れている)が昨年度より1施策減り、4施策(36.4%)となっています。また、B(実施できている)は昨年度に引き続き5施策(45.5%)、次いでC(工夫が必要)が1施策増え、2施策(18.2%)となっています。

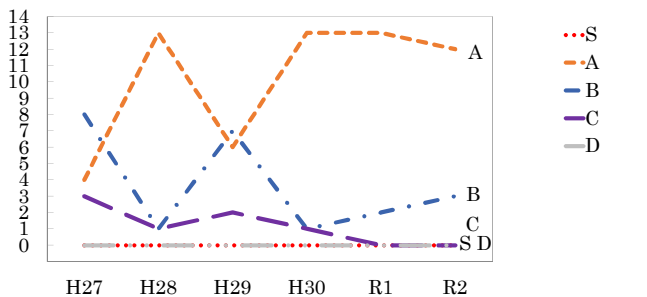
基本目標に対するコメント (まとはめはP.88~P.89参照)

- 基本目標②全体に通じた「具体的な移住、定住のモデル」の設定を行い、施策ごとに果たす役割を明確化する必要があります。そこに動く各施策の連動と基本的方向性を踏まえた政策研究が必要です。
- DXが急速に進んでいます。オンラインでの配信が一般的になると「将来の移住、定住につながる」地域外の方にも学習していただきやすくなります。
- 日野には「住みやすいから」だけではない「地域の歴史、文化の素晴らしさ」や「人のつながり」に魅力を感じ、移住、定住に心を動かしてもらえるような働きかけをしてください。
- コロナ禍でテレワークが広がり、田園回帰の動きも大きくなる可能性があります。地方への移住・定住希望者に日野への移住につながるような的確な情報を届け、しっかりと移住、定住の流れをキャッチしてください。

基本目標 (3)	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる
地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	

重要業績評価指標 (KPI)								
指標名	基準値 (H26)		H27	H28	H29	H30	R1	R2
1 出生数 (住民基本台帳) 過去3年平均	人 (H26) 180.4	目標	179人 (H25-H27)	178人 (H26-H28)	177人 (H27-H29)	176人 (H28-H30)	175人 (H29-R1)	176人 (H30-R2)
		実績	174人 (H25-H27)	174人 (H26-H28)	159人 (H27-H29)	156人 (H28-H30)	160人 (H29-R1)	150人 (H30-R2)
		達成率	97.2%	97.8%	89.8%	88.8%	91.4%	85.2%
2 合計特殊出生率	1.59 (H26 独自推計)	目標	1.59	1.60	1.60	1.61	1.62	1.64
		実績	1.51	1.48	1.38	1.58	1.58	-
		達成率	95.0%	92.5%	86.3%	98.1%	97.5%	-
講ずべき施策に関する基本的方向		○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。 ○子育てサポーター等、現状のサービスの充実や子育てに係る負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。						
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計	
		S	A	B	C	D		
	H27	0	4	8	3	0	15	
	H28	0	13	1	1	0	15	
	H29	0	6	7	2	0	15	
	H30	0	13	1	1	0	15	
	R1	0	13	2	0	0	15	
R2	0	12	3	0	0	15		

3. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる



基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」を構成する施策の検証結果は、A (優れている) が昨年度から1施策減り、12施策 (80.0%) となっています。  
 次いで、B (実施できている) が昨年度より1施策増え、3施策 (20.0%) となっています。

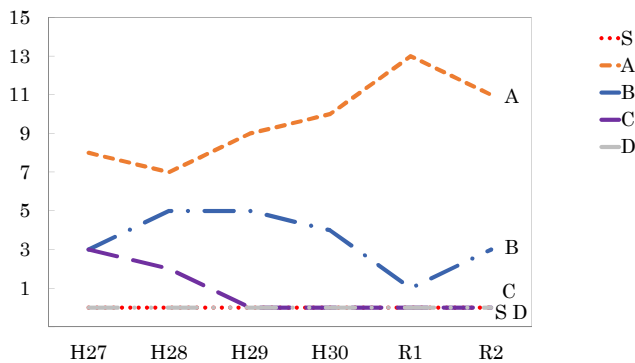
基本目標に対するコメント (まとはめはP.89~P.90参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その時々ニーズにあった切れ目のない支援」「子育てに係る負担軽減」を制度や助成金だけでとらえることなく、社会・地域社会の中で「支援」がなされるように団体育成等幅広い取り組みが求められます。</li> <li>・制度があっても言語や経済的な理由で制度を利用できないケースがあると考えられ、制度を充実させることと共に制度を利用しやすくすることが必要です。</li> <li>・福祉と教育の連携、就学前から小学校、中学校、高等学校、大学等各ステージでの引継ぎをしっかりと行い、支援が途切れないようにしていく必要があります。</li> <li>・総合戦略の視点は「選ばれる町にいかにするべきか」となっています。しかし、子どもが自らの人生を切り拓くための環境を整えることが重要です。</li> </ul>
---------------------------------	---



基本目標 (4)	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	

重要業績評価指標 (KPI)								
指標名	基準値 (H26)		H27	H28	H29	H30	R1	R2
1 人と人（複数の地域コミュニティ）をつなぐ場の創出	0ヶ所	目標	0ヶ所	5ヶ所	10ヶ所	15ヶ所	20ヶ所	20ヶ所
		実績	2ヶ所	5ヶ所	11ヶ所	16ヶ所	20ヶ所	20ヶ所
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
講ずべき施策に関する基本的方向	○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らす人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持てる仕組みをつくります。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。							
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計	
		S	A	B	C	D		
	H27	0	8	3	3	0	14	
	H28	0	7	5	2	0	14	
	H29	0	9	5	0	0	14	
	H30	0	10	4	0	0	14	
	R1	0	13	1	0	0	14	
R2	0	11	3	0	0	14		

4. くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

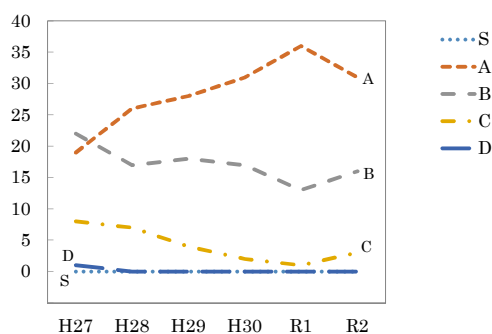


基本目標④「くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が昨年度より2施策減り、11施策（78.6%）となっています。次いで、B（実施できている）が2施策増え、3施策（21.4%）という結果になっています。

基本目標に対するコメント (まとはめはP.90～P.91参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の困りは多様化、複雑化しており、分野を横断しています。福祉分野における各計画の取り組みが連携する中で進むようになれば良いまちになると思います。</li> <li>・暮らしやすいまちをつくるにあたって、町役場（公共）の役割、地縁団体である自治会の役割、ボランティア団体など市民活動の役割、コミュニティビジネスの役割を俯瞰して様々な施策の連携、関係する各課の協議と連携強化によって効果も高めるように努めてください。</li> <li>・若者をいかに取り込むかが課題となっています。マルシェや手作り市の取り組みが異分野や多世代交流へとつながっています。公民館等を活用する中で、事業への参加者ではなく、事業の実施主体を育成するような、きっかけづくりとなる取り組みを進めてください。</li> <li>・弱い立場の方に対する支援は、福祉保健課だけではなく、役場全体で取り組むべきであり、そうすることが魅力あるまちにつながると考えます。</li> </ul>
------------------------------------	---

No.	基本目標	内容		検証結果						検証委員からのコメント
				目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計	
				S	A	B	C	D		
1	まちのたからで雇用を創る	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	H27	0	3	6	1	0	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で人の動き、働き方の変化が起きています。時代の変化を的確にとらえて、新しい取り組みを模索してください。</li> <li>・雇用については、職に就くということのみに取り組むのではなく、出産、子育てや住宅等が総合的に考えられ、働く人が住みやすい町であるべきであり、バランスが大切です。トータルな政策をお願いします。</li> <li>・農の担い手の裾野を広げる施策の工夫が必要です。</li> <li>・地元企業や商工会との連携などから町内雇用の拡大にまでつなげられるように施策の全体像を再検討してください。</li> <li>・日野菜や獣肉という日野ならではの宝を活かし、ビジネスにつなげることで後継者問題も解決できる可能性があります。</li> </ul>
			H28	0	6	2	2	0	10	
			H29	0	6	3	1	0	10	
			H30	0	4	6	0	0	10	
			R1	0	5	5	0	0	10	
			R2	0	4	5	1	0	10	
2	出会いと発見で人の流れを作る	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を広げることで交流から移住・定住に結び付き、魅力あるまちをめざします。	H27	0	4	5	1	1	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標②全体に通じた「具体的な移住、定住のモデル」の設定を行い、施策ごとに果たす役割を明確化する必要があります。そこに動く各施策の運動と基本的方向性を踏まえた政策研究が必要です。</li> <li>・DXが急速に進んでいます。オンラインでの配信が一般的になると「将来の移住、定住につながる」地域外の方にも学習していただきやすくなります。</li> <li>・日野には「住みやすいから」だけではない「地域の歴史、文化の素晴らしさ」や「人のつながり」に魅力を感じ、移住、定住に心を動かしてもらえようような働きかけをしてください。</li> <li>・コロナ禍でテレワークが広がり、田園回帰の動きも大きくなる可能性があります。地方への移住、定住希望者に日野への移住につながるような確かな情報を届け、しっかりと移住、定住の流れをキャッチしてください。</li> </ul>
			H28	0	7	3	1	0	11	
			H29	0	7	3	1	0	11	
			H30	0	4	6	1	0	11	
			R1	0	5	5	1	0	11	
			R2	0	4	5	2	0	11	
3	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が産産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	H27	0	4	8	3	0	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その時々」のニーズにあった切れ目のない支援「子育てに係る負担軽減」を制度や助成金だけでとらえることなく、社会・地域社会の中で「支援」がなされるように団体育成等幅広い取組みが求められます。</li> <li>・制度があっても言語や経済的な理由で制度を利用できないケースがあると考えられ、制度を充実させることと共に制度を利用しやすくすることが必要です。</li> <li>・福祉と教育の連携、就学前から小学校、中学校、高等学校、大学等各ステージでの引継ぎをしっかりと行い、支援が途切れないようにしていく必要があります。</li> <li>・総合戦略の視点は「選ばれる町にいかにつまびきか」となってしまいます。しかし、子どもが自らの人生を切り拓くための環境を整えることが重要です。</li> </ul>
			H28	0	6	7	2	0	15	
			H29	0	6	7	2	0	15	
			H30	0	13	1	1	0	15	
			R1	0	13	2	0	0	15	
			R2	0	12	3	0	0	15	
4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の方を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を継続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	H27	0	8	3	3	0	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の困りは多様化、複雑化しており、分野を横断しています。福祉分野における各計画の取組みが連携する中で進むようには良いまちになると思います。</li> <li>・暮らしやすいまちをつくるにあたって、町役場（公共）の役割、地縁団体である自治会の役割、ボランティア団体など市民活動の役割、コミュニティビジネスの役割を俯瞰して様々な施策の連携、関係する各課の協議と連携強化によって効果も高めるように努めてください。</li> <li>・若者をいかに取り込むかが課題となっています。マルシェや手作り市の取組みが異分野や多世代交流へとつながっています。公民館等を活用する中で、事業への参加者ではなく、事業の実施主体を育成するような、きっかけづくりとなる取組みを進めてください。</li> <li>・弱い立場の方に対する支援は、福祉保健課だけではなく、役場全体で取り組むべきであり、そうすることが魅力あるまちにつながると思います。</li> </ul>
			H28	0	7	5	2	0	14	
			H29	0	9	5	0	0	14	
			H30	0	10	4	0	0	14	
			R1	0	13	1	0	0	14	
			R2	0	11	3	0	0	14	
総合計			H27	0	19	22	8	1	50	
			H28	0	26	17	7	0	50	
			H29	0	28	18	4	0	50	
			H30	0	31	17	2	0	50	
			R1	0	36	13	1	0	50	
			R2	0	31	16	3	0	50	

全施策



総合戦略の全施策の検証結果では、A（優れている）がR1年度実績では36施策であったのに対し、R2年度実績では31施策になり、5施策減少しました。

次に、B（実施できている）が16施策、C（工夫が必要）が3施策の順になっており、R2年度はAが減る中でB・Cが増加しました。

#### 4. 施策検証結果一覧

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
① まちのたからで雇用を創る	1	創業・第2創業の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規創業が1件であったのは、少し残念ですが、2020年のコロナ禍のなかでの創業には価値があります。コロナ禍で地方移住への関心も高まっています。今までは違う創業が起きるのを支援する新しい発想で政策を進めてください。</li> <li>講座の受講者数が近年多くありません。講座のあり方を見直し、受講者数の拡大につながるように工夫する等事業の全体像見直ししてください。</li> <li>本施策のゴールは、創業、第2創業を促すことです。「そのゴールを実現する上で何が必要なのか？」打つべき手だてを再検討して、施策・事業の組み替えが必要ではないでしょうか。</li> <li>今までの考え方は「創業塾参加者→創業」と考えていたので、創業塾参加者を増やす方向での努力がされていきました。発想を変えて、創業を増やすための手だての中で、創業塾の位置づけを見直してください。</li> <li>創業塾の見直しは、知識習得のための座学部分と参加者の交流議論（自発的学び）の部分と切り離すことも考えられます。知識習得の部分は、オンデマンド教材化したり、地方創生力アップの活用をしたりするなどの工夫をしてください。</li> <li>④⑤で地域内経済循環に言及するなどによって効果の高まるような基本目標・基本的方向性を意識している点は評価できます。地域内経済循環を把握する調査と波及効果を推計する手法も研究してください。</li> <li>日野観光案内交流施設「なないろ」の運営が人材育成につながっている点を高く評価します。</li> <li>創業する人たちが地域内経済循環も意識しながらビジネスプランを考え、波及効果が大きくなるようにサポートしてください。</li> <li>創業塾をもっと受講しやすいようにしていくべきです。情報収集と広報活動が重要です。</li> <li>創業塾の学びをもって起業する人を応援してください。創業塾受講なしの起業でも7割の補助を受けられるとのことですが、資金力のある人の起業により、創業塾で学んでこれから起業しようとする人が排除されないように配慮してください。</li> <li>農産物の販売所等を整備し、町を活性化させる等してください。</li> <li>創業支援の補助について、予算を超える申請には、予算確保に取り組み等柔軟に対応してください。</li> </ul>	H27	10	2	2	1	1	16
				量S	質C			B		
				H28	6	2	2	2	2	14
				量B	質C			B		
				H29	4	3	2	2	2	13
				量C	質B			B		
				H30	5	3	2	2	2	14
				量B	質B			B		
				R1	5	3	3	3	3	17
				量B	質B			B		
	R2	5	3	3	3	3	17			
	量B	質B			B					
	2	地域内経済循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内経済循環の推進については、多様な方法があると考えられます。しかし、農泊と住居リフォームなど限られた事業だけになっているように思われます。</li> <li>コロナ禍で農泊などの受入れがストップしたため、KPI「民泊受入人数」が激減し、KPI達成度は達成度が大きく後退したのやむを得ないと考えます。</li> <li>コロナ禍で農村生活体験の再開に向けて、ガイドラインの作成やスキルアップを図る取組みをしたことは評価します。今後質の高い受入れが実現できるように引き続きスキルアップの努力を継続してください。</li> <li>スキルアップの方向性の一つとして、地産地消地消への工夫やそれを支える周辺の取組みとの連携が求められます。地元生産者、事業者の協力によって、価値ある地産地消体験を拡大してください。基本目標・方向性に立ちかえり、施策を再検討してください。</li> <li>基本的方向性で示されているように民間の中での連携、民間との連携による地域内経済循環の推進を進めてください。</li> <li>施策内容で明記されている「地域内経済循環」を把握する調査研究に基づき、日野町の地域経済構造の実態に即した政策立案が求められます。</li> <li>空き家リフォーム、住居リフォーム制度の運用を通じて町並み景観の保全や木質ハイオマスの利用促進など他の施策との連携を深めて、より効果を高める取組みを工夫してください。</li> <li>次期計画にあたっては「地域内経済循環の推進」の方策を工夫してください。</li> <li>コロナ禍で人の動き、動き方の変化が起きています。時代の変化を的確にとらえて、新しい取組みを模索してください。</li> </ul>	H27	8.5	2	1	1	1	13.5
				量A	質C			B		
				H28	10	3	4	2	2	21
				量S	質B			A		
				H29	9	4	3	2	2	20
				量S	質B			A		
				H30	10	3	3	3	3	22
				量S	質B			A		
R1				8	3	2	3	3	19	
量A				質B			A			
R2	4	3	3	2	2	14				
量C	質B			B						
3	企業誘致と企業・異業種間の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>商工会等との連携により企業懇談会を継続的に開催している点は高く評価します。町内雇用確保のためにも引き続き企業誘致に努めてください。</li> <li>企業誘致、異業種間交流など自立つ施策に重点的に取り組まれているが、施策が目指すゴールには「地場産業の活性化」もあります。企業誘致、異業種交流から地場産業の活性化につながるよう構想されていましたが、このような動きが生じるように施策のあり方を再検討してください。</li> <li>③⑤は昨年とあまり変わりありませんでした。新しいアイデアが生まれていないと推察されます。</li> <li>本施策は、連携や交流から新たなビジネスを生んだり、地場産業の活性化につなげることを目指していますが、内部検証は、その具体的な道筋について現段階では具体的な想像できていない印象を持ちました。</li> <li>基本目標・方向性で示されているキーワード「地域資源」「住民主体」「創業」「地域内経済循環」「町内雇用の拡大」を施策の中に落とし込んでください。</li> <li>⑤で「地元企業を持つ技術等を把握し～」との記述がありますが、冊子を作ったり、HPに集約したりすると自然に何か起きるとは考えにくいので、具体的な展開を検討してください。そのために（昨年もコメントしましたが）企業を持つ技術の可能性を評価できる専門職が必要であるのか、不要なのかを検討し、必要であれば雇用することも検討してください。</li> <li>町内企業が求人を出しても町外の応募がほとんどとなっているようです。雇用については、職に就くということのみに取り組むのではなく、出産、子育てや住宅等が総合的に働く人が住みやすい町であるべきであり、バランスが大切です。トータルな政策をお願いします。</li> <li>企業の状況によりませんが、町内へ進出する企業へは早くから地元雇用のPRをお願いします。</li> <li>コロナ禍において、仕事を失った方がいるのであれば、就労してもらおうように取り組んでください。</li> </ul>	H27	5	2	3	2	2	14	
			量B	質B			B			
			H28	5	2	2	2	1	12	
			量B	質C			C			
			H29	6	2	2	1	2	13	
			量B	質C			B			
			H30	7	3	3	2	2	17	
			量A	質B			B			
			R1	8	2	2	2	2	16	
			量A	質C			B			
R2	9	3	2	2	2	18				
量S	質B			B						
4	魅力ある商店づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふるさと日野町がんばろう商品券」発行、「近江日野「三方よし」」ふるさと応援寄附事業」の開始など新たな取組みを行ってきたことを高く評価します。</li> <li>コロナ禍で観光等大きな影響を受けたと思われます。遠方からの交流人口の減少を補うことは難しいかもしれませんが、地元（町内・周辺自治体）住民に日野の良さを再発見してもらえ「ディスカバーご近所」が進むような情報発信の工夫をしてください。</li> <li>次期計画においては、KPIの見直しを行い、複数の指標から施策の成果を測るように工夫をしてください。例えば施策内容にある「後継者の育成」「商店の活性化」を推し量るのに適切な指標を検討してください。</li> <li>②③で「観光交流拠点施設でのチャレンジショップ」と日野の「味覚市」をとり上げ、事業としての定着を目指している点を評価します。この中でもチャレンジショップのような取組みは施策1-1とも関連性が高いのでチャレンジショップや日野の味覚市への参加による実習を取り入れるなど、他の施策との連携を検討してください。</li> <li>④⑤では「ふるさと納税」に軸足を移すように見えますが、基本目標・方向性に示されているキーワード「地域資源」「住民が主体」「創業」「地域内経済循環の活性化」を見守った施策の工夫を行ってください。</li> </ul>	H27	9	3	2	2	2	18	
			量S	質B			B			
			H28	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B			A			
			H29	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B			A			
			H30	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B			A			
			R1	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B			A			
R2	9	3	3	2	2	19				
量S	質B			A						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				年度	①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況		⑤基本目標等 今後の取り組み
					量的検証	質的検証			検証結果	
①まちのたからで雇用を創る	5	農業経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人・農地プラン」の新規作成がなかったのは残念ですが、コロナ禍で人が集うことが制限された令和2年度は致しかたないと考えます。次期総合戦略では、KPIの設定に「担い手の育成・確保」を押し量れる指標を入れるなど工夫をしてください。</li> <li>担い手の育成・確保の方法について、プラン作成以外の多様な方法を研究し、農の担い手の裾野を広げる施策の工夫と視野を広げる必要があります。</li> <li>次期総合戦略では、施策内容に「集落を自分たちで守る」視点も盛り込んでください。</li> <li>担い手の育成・確保だけでも苦勞していると推察されますが、認定新規就農者2件の認定など可能性は十分にあると評価します。こうした従来の取り組みの成果をさらに向上させるとともに基本目標・方向性を踏まえた地元企業・商工会との連携などから町内雇用の拡大にまでつなげられるように施策の全体像を再検討してください。</li> </ul>	H27	10	3	3	3	3	22
				量S	質B			A		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量S	質B			A		
				H29	10	3	2	2	3	20
				量S	質B			A		
				H30	8	3	2	3	2	18
				量A	質B			B		
				R1	7	3	3	2	2	17
	量A	質B			B					
	R2	7	3	3	3	4	20			
	量A	質A			A					
	6	地元野菜生産者の担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>KPIに示されているように野菜生産者が増えていることは高く評価します。②③において「生産者の意識啓発を図る」となっていて、町の側の取り組み、「営農カレンダー」の作成・提供などが進められていますが、生産者側の意識の変化や向上につながっているのでしょうか。</li> <li>⑤にてインショップ出荷の農家増にもかかわらず、売上げが減少傾向にあると内部評価されています。売上げを増やす工夫と生産者の意識向上につながる具体的な取り組み（マルシェ等）が必要です。冊子に加えて体験による学びをつくってください。</li> <li>次期計画では、消費者側の地産地消の機運を高める取組みとの一体的連携を図るなど施策の工夫を行ってください。</li> <li>町としてできることの中で補助事業は重要だと考えますが、②③④では、補助事業中心の思考のように見えます。基本目標・方向性を踏まえて、担い手の裾野を広げる取組みを工夫してください。</li> <li>野菜の流通実態を把握して「地域内経済循環」の構造を明らかにして、生産者だけでなく、消費者意識も変えていく取組み、構造を把握できたなら新しい施策の工夫も可能になると考えられます。所得・雇用の増につなげる多様な手法を検討してください。</li> </ul>	H27	10	2	2	3	3	20
				量S	質B			A		
				H28	9	4	3	2	2	20
				量S	質B			A		
				H29	10	3	3	3	2	21
				量S	質B			A		
				H30	9	4	3	3	2	21
				量S	質B			A		
				R1	10	3	3	2	2	20
	量S	質B			A					
	R2	10	2	3	2	2	19			
	量S	質B			A					
7	日野菜のブランド化の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で飲食店休業により、販売取引先件数、出荷量が減少しており、KPIが低くなっています。作付面積の拡大、生産基盤の整備など日野菜のブランド化のための様々な取組みがなされていることを評価します。</li> <li>ふるさと応援寄附金の返礼品に日野菜漬を登録したり、キャラクター「あのなのな」の着ぐるみ作成したりするなどPRの工夫をしていることも評価します。</li> <li>ブランド化に向けた努力を評価しますが、ブランド化の発想に至った経緯を確認し、原点に立ち返ってください。</li> <li>日野菜ブランド化に向けた取組みは、生産農家を中心的な対象としているように思われます。出荷生産者とならなくても住民が自家用に生産するなど、まちの文化として裾野を広げることも必要ではないでしょうか。</li> <li>生産農家に特化した施策から、基本目標・基本的方向を踏まえた住民主体の新しい施策へと工夫してください。</li> <li>日野菜の生産流通の全体像を把握して地域経済の活性化の方策を工夫してください。</li> <li>日野菜は、漬物が主な商品となります。若い世代の食の趣味趣向に合わなかったり、固さから高齢者は食べにくかったりと消費に課題があると感じます。事実、日野菜漬を食べる人は減少傾向にあります。そんな中で、日野菜漬の生産量を増やして、ビジネスとして成り立つのか検討が必要で、大量生産ではない価値を見出していくべきです。</li> </ul>	H27	9.5	2	2	2	2	17.5	
			量S	質C			B			
			H28	8	3	3	3	3	20	
			量A	質B			A			
			H29	7	3	3	3	2	18	
			量A	質B			B			
			H30	7	3	2	3	2	17	
			量A	質B			B			
			R1	8	3	2	2	2	17	
量A	質B			B						
R2	4	3	3	3	3	16				
量C	質B			B						
8	獣肉の利活用を促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストラン・ホテルの取引数も順調に増加し、一定程度、獣肉の利活用は進んだと評価します。</li> <li>主要な施策の焦点が獣肉を核とした利活用であり、現状から今までの以上の利活用の拡大が見込めないのであれば、次期総合戦略の施策からははずし、獣肉対策と一体となった施策として整理した方が良いかもしれません。昨年の評価でも同様の提案がなされています。</li> <li>KPIにレストラン・ホテルの取引数が挙げられています。日産の獣肉が広く流通していくことを示す指標として使っていますが、取引高を調べたり、ビジネス化の可能性について、費用構造を把握したりする必要があったとされます。統計とまで言わなくても実態を把握することも必要です。</li> <li>獣肉は魚介類に比べ保存がきき、ジビエとしては、需要はあると感じます。付加価値をつけることで商品価値が上がりビジネスとして成り立つと考えます。</li> <li>鹿肉等を町内の旅館料理飲食組合が活用する等により、双方にとって可能性があるのではと感じます。</li> <li>獣肉を使った料理の販売をイベント的でも行ってPRしていくことも必要です。PRを上手にしていってください。</li> <li>獣肉のビジネスとしては、供給量と取扱店の増が必要です。猟銃を持つ人は少ないので獣肉対策のグループを増やす必要があります。</li> <li>日野菜や獣肉という日野ならではの宝を活かし、ビジネスにつなげることで後継者問題も解決できる可能性があります。</li> <li>コストに留意して施策を展開していくべきです。</li> </ul>	H27	10	2	2	2	3	19	
			量S	質B			A			
			H28	10	3	3	3	2	21	
			量S	質B			A			
			H29	10	3	2	2	2	19	
			量S	質B			A			
			H30	10	3	2	2	2	19	
			量S	質B			A			
			R1	10	3	3	2	3	21	
量S	質B			A						
R2	10	3	3	3	3	22				
量S	質B			A						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				年度	量的検証	質的検証			検証結果	
↑ まちのたからで 雇用を創る	9	若者等の就職相談窓口の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の外部検証コメントにて、「コロナ禍の在宅勤務から農村回帰の動き」を指摘しましたが、調査研究を行い、時代の変化の流れを的確につかんでください。</li> <li>・ ②③④⑤どれも従来から行われている雇用政策の枠内の施策ではないでしょうか。従来の施策にもう一工夫をこらして、施策の目指すところ、基本目標・方向性の考え方を従来施策に落とし込んでみてください。</li> <li>・ 本施策は「町のキャリアセンター」構想が発想のスタートでした。一般的な情報提供を行うだけでなく、ターゲットを明確にしたアプローチが必要です。</li> <li>・ ②③④⑤いずれも必要な情報、必要とされるだろう情報を一般的な方法で提供するものと推察します。本施策は、日野に住むことに結びつくような結果を求めているものです。一般的情報提供ではなく、結果に結びつくターゲットを明確にして施策を工夫してください。</li> <li>・ ターゲットを明確にしたアプローチが必要です。進学で日野町を離れた人に広報を送付することで日野とのつながりを継続し、大学等卒業後日野に帰ってきてもらえるような取り組みを考えてください。</li> </ul>	H27	0	3	2	2	2	9
				量的検証	量D	質B			C	
				H28	0	2	2	2	2	8
				量的検証	量D	質C			C	
				H29	0	3	3	3	3	12
				量的検証	量D	質B			C	
				H30	4	3	2	3	2	14
				量的検証	量C	質B			B	
				R1	4	3	3	3	3	16
	量的検証	量C	質B			B				
	R2	2	3	3	2	2	12			
	量的検証	量D	質B			C				
	10	高齢者の生きがい創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高齢者の生きがい創出」は、仕事の面に力点を持ちがちかもしれませんが、②③でも事例が示されているように地域での交流・支え合いも重要です。とりわけ交流の点では、高齢者の知識・技能を次世代に継承していくことも重要となります。</li> <li>・ 次期総合戦略では「生きがい」を広くとらえ、町の未来に継承していく知識・技能のことなども含めた総合的な生きがいづくりを構想してください。そうした施策の芽は、⑤今後の課題でも述べていますが、横連携により、総合的な生きがいづくりとなるように努めてください。</li> <li>・ 高齢者の生きがいづくりを高齢者の世界に閉じるのではなく、多世代交流を促し、知識・技能の継承を意識した町の未来につながる交流を工夫してください。</li> <li>・ 個人の生きがいにあつた仕事を考えていく等の取り組みが必要です。</li> <li>・ シルバー人材センターでの仕事は様々だが、草刈りなどは、経験がない人でもできるように講習会等を実施すると良いのではと考えます。</li> </ul>	H27	10	2	2	2	2	18
				量的検証	量S	質C			B	
				H28	10	2	2	2	2	18
				量的検証	量S	質C			B	
				H29	9	3	3	3	3	21
				量的検証	量S	質B			A	
H30				8	3	2	3	2	18	
量的検証				量A	質B			B		
R1				8	3	3	3	3	20	
量的検証	量A	質B			A					
R2	7	3	3	2	3	18				
量的検証	量A	質B			B					

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
② 出会いと発見で人の流れを作る	1	体験型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020(R2)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大から都市農村交流が完全に止まったため、民泊、大学企業の研修受け入れがともに大幅に減少し、KPIの数値が大幅に落ち込みました。いたしかたないことだと考えます。</li> <li>・大学・企業の研修受け入れについても、特定の大学・企業から繰り返し利用してもらえようような良質な研修を構築する必要があります。</li> <li>・④⑤について、基本目標・基本的方向を踏まえた「取り組み状況」と「今後の取り組み」を評価しなおしてください。ポイントは「交流から移住定住につながる情報発信」「住民の地域への愛着」「移住希望者の視点に立った情報発信」「遊休地・空き地の活用」などです。民泊受け入れ、研修受け入れ事業実施の視点しかありません。「移住・定住につながる交流はあるだろうか」という移住者の視点からの分析も必要です。また、これらの受け入れ事業を確実に実施することから本事業に携わる住民、本事業の意義を理解する住民が増えることは、住民の誇りの醸成、地域への愛着の芽生えにつながる必要があります。その視点を欠いては④⑤は書けません。</li> <li>・棚田保全そのものができなくなり、棚田ボランティアがなくなったことは、大変残念です。所有権の問題などがあり、容易に再開できないことと推察します。体験型観光・将来の移住につながるようなキラーコンテンツイベントとして位置づけて再開を目指すのかどうか早急に判断が必要でしょう。</li> <li>・棚田ボランティアの再開にむけ、棚田保全活動へのボランティア側からの動きが生まれることを期待しましたが、そのような動きはないようです。単なる観光ではなく体験型観光であることから参加者が主体的に日野町に関心を持ってもらえると考えられます。一層の工夫を期待しています。</li> <li>・農業者不在による棚田ボランティアの活動実施は難しくなったとのことですが、棚田は体験型観光、関係人口創出、移住・定住における重要な要素です。西明寺の棚田の活用も視野に入れ取り組みが広がると良いと考えます。このような取り組みが日野菜の生産拡大等につながるように考えてください。</li> <li>・近江日野町人に関する研修は座学だけではなく、移住・定住につながるような関わりが必要です。</li> </ul>	H27	5.3	2	1	1	1	10.3
				量B	質C			C		
				H28	10	4	3	2	2	21
				量S	質B			A		
				H29	8	3	3	3	3	20
				量A	質B			A		
				H30	7	3	3	3	2	18
				量A	質B			B		
	R1	7	3	3	2	2	17			
	量A	質B			B					
	R2	1	3	3	3	3	13			
	量D	質B			B					
	2	観光受入体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、ガイドの育成の提案をしていますが、観光ボランティアの人数を増やす取り組みがなされていません。⑤で課題としていますが、②で書くべき事項(課題)だと考えます。③では、今後の取り組みとして書かれますべきです。</li> <li>・「観光受入体制の整備」のうち、施設等のハードは一定進捗がみられますが、ボランティアの養成・確保などのソフト面の充実が必要です。</li> <li>・昨年度の検証でも指摘しましたが、「集客力のある観光資源」と「町内の歴史的文化資産」を結び手立てと工夫が見えません。</li> <li>・次期総合戦略のKPIは、観光ボランティア数に加え、観光サポーター数、SNSの統計数など、体制整備の進捗、その体制が動いている活動量、活動によって誘客した量など多面的に捉える指標を設定してください。</li> <li>・(基本目標②に共通する課題として)⑤で「将来の移住・定住につながるよう取り組みます」と書いていますが、基本目標②全体に通じた「具体的な移住・定住のモデル」の設定を行い、施策ごとに果たす役割を明確化する必要があります。全体像の構想を欠いたまま、各施策を実践しても効果は上がりません。具体的な移住・定住のモデルを想定し、そこに動く各施策の連動と基本的方向性を踏まえた政策研究が必要です。</li> <li>・観光ボランティアガイド協会との関係もあるようですが、観光ボランティアガイドを増やす取り組みが見えてきません。ソフト面の充実が必要です。</li> </ul>	H27	10	3	3	3	3	22
				量S	質B			A		
				H28	9	2	3	1	2	17
				量S	質C			B		
H29				8	3	3	3	3	20	
量A				質B			A			
H30				6	3	3	2	2	16	
量B				質B			B			
R1	6	3	3	3	3	18				
量B	質B			B						
R2	6	2	2	2	2	14				
量B	質C			B						
3	日野の「たから」情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2-3」は、KPIに「日野大当番仲間」の登録を設定し、実現できなかったため、KPIは50%となり、検証結果がBとなる要因となりました。次期総合戦略では実現が難しい「日野大当番仲間」はKPIに採用せず、他の指標で評価してください。</li> <li>・DXが急速に進んでいます。役場の窓口対応のポット化なども押し寄せてきます。情報発信のあり方を更に見直す必要が出てくるでしょう。</li> <li>・「2-3」は、情報発信の推進に取り組む施策であるが、取り組みの進捗を測る視点として「体制の整備」「体制の稼働」を測ることで一定の進捗を測ることができそうですが、それによってどのような効果が出たのか(アウトカム)評価が一層重要です。</li> <li>・ふるさと納税の返礼品に町の特産品を加えたことで、ふるさと納税額が増え、日野町に関心を持つ人が増えたことは評価します。今後は、ふるさと納税をしてくださった方々が日野町に更に関心を持ち、交流が広がるような取組みが必要です。</li> <li>・ふるさと納税寄附者のなかには、町に関心のない人もいます。ふるさと納税はあくまできっかけであり、その後どのように町とつながっていくのが重要です。</li> </ul>	H27	5	3	3	2	2	15	
			量B	質B			B			
			H28	4	2	3	2	2	13	
			量C	質B			B			
			H29	5	2	2	2	2	13	
			量B	質C			B			
			H30	5	3	3	2	2	15	
			量B	質B			B			
R1	5	3	2	3	2	15				
量B	質B			B						
R2	5	3	3	3	3	17				
量B	質B			B						
4	日野の「たから」の伝承促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により三館の利用者が減少したため、KPIが低下しました。コロナの影響は致し方ないと考えます。</li> <li>・西大路小学校6年生の調べ学習の成果展開催、子どもボランティアガイド養成講座への協力を高く評価します。日野の「たから」の伝承促進に強くつながる施策・事業として評価します。</li> <li>・伝承促進のための取り組みを強化し、住民の学びの場の創出と関心を持つ人の裾野を広げてください。</li> <li>・食体験事業など先進的取り組みもあり、伝承促進のため更なる事業の工夫を行ってください。</li> <li>・伝承のための保存を映像と音声で残す取り組みも必要です。</li> <li>・④⑤の基本的方向を踏まえた状況、今後の取り組みは、伝承から移住・定住へと結びつけていくことになり、施策に一層の工夫が必要です。</li> <li>・「2-4」「2-5」を一体のものとして工夫、「移住・定住モデル」の中で役割の明確化が必要です。</li> </ul>	H27	10	2	2	2	1	17	
			量S	質C			B			
			H28	10	3	3	2	2	20	
			量S	質B			A			
			H29	10	3	3	3	3	22	
			量S	質B			A			
			H30	10	3	3	3	3	22	
			量S	質B			A			
R1	9	3	3	2	2	19				
量S	質B			A						
R2	4	4	4	3	3	18				
量C	質A			B						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				年度	量的検証	質的検証			検証結果	
② 出会いと発見で人の流れを作る	5	伝統文化等後継者育成の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の子どもたちに日野町のことを学んでもらい、後継者育成の取り組みがなされていることを評価します。</li> <li>子どもボランティアガイドの養成もなされており、カルチャー教室での受け身の学びから自分が説明できるようにするという、一段上の学び、アクティブラーニングになっている点の評価します。</li> <li>一方で大人のボランティアガイドの養成もボランティアガイドの予備軍となるような人々を育てることは十分できていないのではないのでしょうか。</li> <li>コミュニティスクールの導入、地域学校協議活動によって、学校教育の充実と地域づくりの新しい可能性を探る必要があります。</li> <li>「日野町を紹介できる気風をはくむ」ことを目標に従来の事業を見直し、更なる工夫を図ってください。</li> <li>次期総合戦略では「2-4」「2-5」の相互の関係を整理し、施策の統合・充実を図ってください。</li> <li>学校と地域が連携し、小中学生が地域で活動することがまちづくりを活気づけることになると考えます。</li> </ul>	H27	10	2	1	2	1	16
				量的検証	10	2	2	2	1	17
				質的検証	質C				B	
				H28	10	2	2	2	1	17
				量的検証	10	3	3	3	2	21
				質的検証	質B				A	
				H29	10	3	2	3	2	20
				量的検証	10	3	2	3	2	20
	質的検証	質B				A				
	H30	10	3	3	2	2	20			
	量的検証	10	3	3	3	3	20			
	質的検証	質B				A				
	R1	8	3	3	3	3	20			
	量的検証	8	3	3	3	3	20			
	質的検証	質B				A				
	R2	10	1	2	1	2	16			
	量的検証	10	3	3	2	1	19			
	質的検証	質C				B				
	H27	10	3	3	2	1	19			
	量的検証	10	3	3	2	1	19			
	質的検証	質B				A				
	H28	10	3	2	2	2	19			
	量的検証	10	3	2	2	2	19			
	質的検証	質B				A				
	H29	8	3	3	3	3	20			
	量的検証	8	3	3	3	3	20			
	質的検証	質B				A				
	H30	5	3	3	3	3	17			
量的検証	5	3	3	3	3	17				
質的検証	質B				B					
R1	0	3	3	3	3	12				
量的検証	0	3	3	3	3	12				
質的検証	質B				C					
R2	10	3	3	3	2	21				
量的検証	10	3	3	3	2	21				
質的検証	質B				A					
H27	10	3	3	2	2	20				
量的検証	10	3	3	2	2	20				
質的検証	質B				A					
H28	5	3	2	3	3	16				
量的検証	5	3	2	3	3	16				
質的検証	質B				B					
H29	8	3	3	2	2	18				
量的検証	8	3	3	2	2	18				
質的検証	質B				B					
H30	8	3	3	3	3	20				
量的検証	8	3	3	3	3	20				
質的検証	質B				A					
R1	10	3	4	3	3	23				
量的検証	10	3	4	3	3	23				
質的検証	質A				A					
R2	10	3	3	2	2	20				
量的検証	10	3	3	2	2	20				
質的検証	質B				A					
H27	10	3	3	3	3	22				
量的検証	10	3	3	3	3	22				
質的検証	質B				A					
H28	10	3	3	3	3	22				
量的検証	10	3	3	3	3	22				
質的検証	質B				A					
H29	9	3	3	2	2	19				
量的検証	9	3	3	2	2	19				
質的検証	質B				A					
H30	9	3	3	3	3	21				
量的検証	9	3	3	3	3	21				
質的検証	質B				A					
R1	10	3	3	3	3	22				
量的検証	10	3	3	3	3	22				
質的検証	質B				A					
R2	10	3	3	3	3	22				
量的検証	10	3	3	3	3	22				
質的検証	質B				A					



基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				年度	量的検証	質的検証			検証結果	
② 出会いと発見で人の流れを作る	9	空き地等を活用した定住促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き地活用実績が初めて出たので、KPIが0%を脱することができましたので、⑥検証結果もC→Bと上がりました。</li> <li>・外部検証でも出されていた住宅メーカーとの連携について、R2(2020)年度、住宅メーカーへの働きかけを行った点は高く評価します。</li> <li>・③空き家、空き地の利活用にとどまらず、受け入れ側の地域の意識改革につながる取り組みをしている点を評価します。</li> <li>・コロナ禍でテレワークが広がり、田園回帰の動きも大きくなる可能性があります。地方への移住、定住希望者に日野への移住につながるような的確な情報を届け、しっかりと移住、定住の流れをキャッチしてください。</li> <li>・市街化調整区域等土地利用に関する制限もあり、難しかった空き地情報登録制度での移住、定住者数について、令和2年度に実績があったことは、丁寧な取り組みによるものと評価します。</li> </ul>	H27	0	2	2	1	1	6
				量D	質C			D		
				H28	0	2	2	3	3	10
				量D	質B			C		
				H29	0	3	3	3	3	12
				量D	質B			C		
				H30	0	4	3	2	2	11
				量D	質B			C		
				R1	0	3	3	3	3	12
	量D	質B			C					
	R2	1	3	3	3	3	13			
	量D	質B			B					
	10	多文化共生の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学講座の受講者数が増加している点は評価します。語学講座から多文化共生を推進するリーダー・ボランティアの育成・発掘ができるように講座の工夫を行ってください。</li> <li>・コロナ禍が収束するまで、対面での国際交流事業は難しいかもしれませんが、オンラインによる交流も検討してください。オンラインで小中学校の交流を行うなど時代の変化を見こした対応も検討してください。</li> <li>・在住外国人への日本語教室等の実施など課題認識を具体的な施策につなげてください。国際親善協会のあり方の検討も含め、町内の体制の再構築も必要ではないでしょうか。</li> <li>・日本語教室は人権保障の観点からも早急に着手してください。また、教室を町民みんなで支えることで住民と在住外国人とのつながりをつくるなど施策の効果が高まる工夫をしてください。</li> <li>・日本語教室等の実施が求められています。国際親善協会は、会の目的が親善であるため、実施体制の整備の検討が必要です。</li> </ul>	H27	9	3	3	2	2	19
				量S	質B			A		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量S	質B			A		
				H29	10	3	3	3	3	22
				量S	質B			A		
				H30	10	2	2	2	2	18
				量S	質C			B		
				R1	10	2	2	3	2	19
	量S	質B			A					
	R2	10	3	2	2	2	19			
	量S	質B			A					
	11	スポーツによる交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍によりスポーツ広場が開催されませんでしたので、KPIが0%となり、⑥検証結果はB→Cとダウンしましたが、いたしかたないと考えます。</li> <li>・スポーツによる交流が移住・定住の促進につながるのか、効果について検討し、次期総合戦略においては、施策として盛り込まないことも検討してください。</li> <li>・社会体育としての取り組みを移住・定住につなげるのは困難であると感じます。スポーツを通じて町民の交流を図り、他の地域ともつながり交流していく視点が必要です。</li> </ul>	H27	9	1	1	1	1	13
				量S	質D			B		
				H28	10	3	2	2	2	19
量S				質B			A			
H29				8	2	2	2	2	16	
量A				質C			B			
H30				7	3	3	2	2	17	
量A				質B			B			
R1				6	3	2	2	2	15	
量B	質B			B						
R2	0	3	3	3	2	11				
量D	質B			C						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかなえる	1	出合いの場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020（R2）年は、コロナ禍のため、婚活イベントが中止となり、事業として進んだという実感がわきにくい年だったと思います。KPIも実績値は変化なく目標値の上昇により達成率が低下しました。それでも検証結果はAとなりました。</li> <li>・地域主体の婚活イベントに若い人たちの結婚に至る出合いの場の創出に加えて、地域のつながりを深めたり、若い参加者と地域のつながりをつくるなどの場としても意識したりと、手法の研究等を行っている点を評価します。</li> <li>・出合いの場を婚活イベントだけに限定せず、様々な行事においても出合いの場となりうることを考えて、行事のソフトな工夫を行ってください。</li> <li>・本施策は「若い方が出合い、結婚し、日野に定住する」というプロセスの中の出合いと結婚の部分までを対象としています。全体のプロセスを分析し、時々のニーズに合致した行政の果たすべき役割を確認してください。行政施策の効果として結婚、日野定住を追求する工夫を行ってください。</li> <li>・クラブキュービッドン会員募集や婚活事業等の効果的な周知が課題です。情報を求めている人に情報が伝わるように成人式等若者、対象者が集まるような場での周知を考えていくべきです。</li> <li>・婚活というと町内在住者にとっては特に参加するハードルが高いため、対象者が参加しやすい工夫をしての事業実施を検討してください。</li> <li>・他自治体においては、様々な企業から婚活事業のスタッフとして参加した者同士が事業実施の準備を通じてカップルとなり結婚へとつながった事例があります。婚活事業以外でも男女の出合いの場という視点を持つことが必要です。</li> </ul>	H27	9	2	2	1	3	17
				量的S	質C			B		
				H28	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				H29	10	3	2	2	2	19
				量的S	質B			A		
	H30	10	3	3	3	3	22			
	量的S	質B			A					
	R1	10	3	2	2	2	19			
	量的S	質B			A					
	R2	9	3	3	3	3	21			
	量的S	質B			A					
2	産み育てやすい環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の参加はなかったようですが、コロナ禍対応でオンライン相談の機会を試行的に設定したことを評価します。オンラインによる相談等多様なやり方を工夫して妊婦の健康を守ってください。</li> <li>・次期計画では、KPIの設定を妊婦健診受診回数に加えて、経済的負担の軽減、経済的支援の延べ件数、出産届時に支援策等の満足度アンケート調査による満足度等を設定してください。</li> <li>・④において妊娠届時アンケートで、妊婦の不安を把握しており、それへの対応策が⑤で記述されると良かったです。現状アンケートで把握した課題と対応がうまくリンクしているでしょうか？地域の民生委員、児童委員、健康推進員等とのつながりをつくることにとどまらず、地域の一般の人と妊婦のつながりをつくるように工夫をしてください。</li> <li>・経済的負担の軽減についても、健診や不妊治療の補助にとどまらない取組みも工夫してください。例えば保育園のバス等古着のリサイクルをすすめたり、子育て仲間を増やせる取組みを検討してください。それが行える団体育成等も必要となります。</li> <li>・PCや携帯電話を使ってのオンライン相談は、申し込みのハードルが高く、小さい子どもがおられると難しい場合もあると聞きます。役場や保健センターは行きやすい場でないと感じている方もおられ、相談に行くことも難しい場合もあります。</li> <li>・自分の子育てが正しいのか不安に感じておられる場合は多く、サポートは必要です。つどいのひろば「ほけっと」やサロン等に保健師等が出向き相談を受けるような取組みを検討してください。</li> </ul>	H27	10	3	2	2	1	18	
			量的S	質C			B			
			H28	10	3	3	2	2	20	
			量的S	質B			A			
			H29	9	3	3	2	2	19	
			量的S	質B			A			
H30	10	2	3	3	2	20				
量的S	質B			A						
R1	9	3	3	2	2	19				
量的S	質B			A						
R2	9	3	3	3	3	21				
量的S	質B			A						
3	乳幼児健診における保健指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本施策は出産後の母子のサポート（健康を守るサポート）が中心であり、その入口として乳幼児健診を位置付けていると思います。健診に来た母子へのマクロな対応に加えて未受診母子へのアプローチもすすめてください。</li> <li>・保護者同士のつながり、先輩パパママとのつながり、地域とのつながり等、多様なチャンネルでつながり、母子へのサポートが多様に行われるように工夫と検討を行ってください。</li> <li>・基本目標・方向性をふまえて「その時々」のニーズにあった切れ目ない支援」「子育てに係る負担軽減」を制度や助成金だけでとらえることなく、社会のなかのつながりや保育園ハザードによる古着リサイクル等も含めた幅広い「支援」となるものも考えると子育て環境の充実する対象がぐっと広がると思います。公共部門だけでなく、社会・地域社会の中で「支援」がなされるように団体育成等幅広い取組みが求められます。</li> <li>・次期計画ではKPIに母子サポートになっている公共・民間、地域の取組みの数等も取り上げても良いかもしれません。民間・地域社会で行われていることについて卸役場が情報収集を行わなければなりません。</li> <li>・乳幼児健診を受診されない理由は、忙しくて行けない場合や受診により発達の評価をされることへの抵抗があると考えられます。児の健全な発達のため、親のサポート、支援が必要です。</li> <li>・乳幼児の発達面や家庭状況が早く見えてくると早期対応ができ、様々な支援につながるから力をいれて対応すべきです。</li> </ul>	H27	9	2	2	2	1	16	
			量的S	質C			B			
			H28	9	2	2	2	2	17	
			量的S	質C			B			
			H29	10	2	2	2	2	18	
			量的S	質C			B			
H30	9	3	3	2	2	19				
量的S	質B			A						
R1	9	3	3	3	3	21				
量的S	質B			A						
R2	9	3	3	2	2	19				
量的S	質B			A						
4	保育所の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのつながりを深めるためにも、園周辺の散歩は良い取組みだと評価します。</li> <li>・施策が保育所の整備、KPIが待機児童ということもあり、公共によるサービス供給体制に力点のある内部評価となっています。</li> <li>・④⑤は基本目標・方向性を踏まえての内部検証を求めていますので「地域とのつながり」「その時々」のニーズにあった切れ目ない支援」といった視点から④「現状を評価」⑤「今後の取り組み」を検討してください。例えば待機児童への「切れ目ない支援」を工夫するといったこととなります。</li> <li>・子育てサポーターの確保・育成の道筋をつけるとともに基本目標③全体の中での位置づけ等も必要です。</li> <li>・KPIも待機児童数だけでなく、他の指標も検討してください。</li> <li>・外国語を母語とする親子への支援については、就学後に日本語での授業についていけなくなることがあると考えられます。未就学の早い時期から保育所等で親とつながり、親も含めた支援やサポートをすることが求められています。</li> <li>・外国語を母語とする児への言語支援については、今後は日本語教育だけではなく、児の母語を学ぶ権利をどう保障するのかという視点も必要になってきます。</li> </ul>	H27	8	3	3	2	2	18	
			量的A	質B			B			
			H28	10	3	3	3	3	22	
			量的S	質B			A			
			H29	10	3	4	2	2	21	
			量的S	質B			A			
H30	10	3	3	4	3	23				
量的S	質A			A						
R1	0	3	3	3	4	13				
量的D	質A			B						
R2	10	3	2	2	2	19				
量的S	質B			A						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				年度	量的検証	質的検証			検証結果	
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	5	子育て期間中の保護者の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020（R2）年は、コロナ禍で各種イベントが取りやめとなり、KPIの施設利用者数が減少しましたので、数量的検証の数値が下がりました。その影響もあり、⑥検証結果もAからBへと下がりました。</li> <li>・子育てサークルの維持や公民館でのサークル活動の運営に負担感を感じている人が増えているようなので、その原因を探り、支援者の育成に努めるとともに負担感の軽減を図ってください。</li> <li>・④⑤において、基本目標・方向性を踏まえて「地域のつながり」「切れ目のない支援」の視点から検証を行い、「切れ目」はどこかを明らかにすることも必要です。その点④においての「困難なこと」として「切れ目」を提示してあり、そのための取組みを⑤で展開されると良いでしょう。「切れ目」を明確にするとその切れ目への支援をする団体の育成、人材育成が求められます。</li> </ul>	H27	10	2	1	2	2	17
				量的S	質C			B		
				H28	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				H29	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				H30	9	3	3	4	2	21
				量的S	質B			A		
				R1	8	3	4	3	3	21
				量的A	質A			A		
				R2	5	3	2	3	2	15
				量的B	質B			B		
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	6	子育て支援員の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援員が昨年15人から6人へと減少したため、KPIの達成度が低下、⑥の評価もA→Bと下がりました。支援員減少の理由を②で明確に述べるべきではないでしょうか。</li> <li>・支援員の確保・養成の実効性が見えません。支援員確保の方法について、確立したものがなく、研修の周知だけしているのではないのでしょうか？</li> <li>・支援員の必要数、緊急度を明らかにして、計画的な養成・確保に努めてください。</li> <li>・高齢者のお手伝いも支援員の補助等、多様な支援の担い手を育て、確保する視点で運用上の工夫を行ってください。</li> <li>・施策が「子育て支援員の確保」なので、支援員について内部検証すると良いのですが、④⑤においては基本目標・方向性を踏まえて「子育てに係る負担の軽減」を実現する補助的な支援の担い手についても検討してください。支援員だけでなく他の支援のあり方（可能性）もあるでしょう。</li> <li>・子育て支援員の人数が大幅に減となりました。減った理由を情報収集、調査、分析し対応策を考える必要があります。</li> </ul>	H27	10	1	3	1	2	17
				量的S	質C			B		
				H28	7	2	2	2	2	15
				量的A	質C			B		
				H29	9	2	2	2	2	17
				量的S	質C			B		
				H30	10	3	2	3	2	20
				量的S	質B			A		
				R1	10	2	3	2	2	19
				量的S	質B			A		
				R2	3	3	2	3	2	13
				量的C	質B			B		
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	7	ファミリーサポートセンターの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーサポートセンターは利用も拡大し、運営も軌道に乗ったと評価します。昨年の外部検証コメントを参考にしながら本施策のファミリーサポートの可能性について検討してください。</li> <li>・依頼会員が協力会員に支援を依頼する場合、ひとり親家庭への利用料金減免制度がありますが、料金が必要です。日本語によるコミュニケーションが困難な両親の依頼会員への登録はありますが、課題も多いと感じます。</li> <li>・制度があっても言語や経済的な理由で制度を利用できないケースがあると考えられ、制度を充実させることと共に制度を利用しやすくすることが必要です。</li> </ul>	H27	0	3	3	2	2	10
				量的D	質B			C		
				H28	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				H29	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				H30	10	4	2	3	3	22
				量的S	質B			A		
				R1	10	3	3	3	2	21
				量的S	質B			A		
				R2	10	2	2	3	3	20
				量的S	質B			A		
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	8	交流できる場の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標③において、公共（行政）がニーズの把握が十分に出来ていないので、行政の関係課連携も出来ず、施策も打ち出せていないように見受けられます。</li> <li>・交流の行事については、地域やサークル等住民側に主導的に立案・実施してもらおう等、運用面での工夫が必要です。</li> <li>・施設整備が完了するとKPIが100%達成となり、A評価を取りやすくなります。むしろ大切なのは運用であり、その部分の動きや成果をあらわすKPIの設定が必要です。</li> </ul>	H27	0	1	2	2	3	8
				量的D	質C			C		
				H28	0	2	2	2	2	8
				量的D	質C			C		
				H29	0	3	3	3	3	12
				量的D	質B			C		
				H30	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				R1	10	3	3	3	3	22
				量的S	質B			A		
				R2	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	9	福祉医療制度の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校3年生までの保険診療の自己負担なしの制度を確立したことでKPIは100%達成となっています。</li> <li>・ 中学生以上の未成年への医療費助成の充実についても、引き続き調査・研究を行い、制度の充実を図ってください。</li> <li>・ 基本目標③の視点は、子育てする親(保護者)の視点から見た子育て環境となっています。今後は、子ども自身の目から見た安心して生きていける生存の基礎環境を作る視点も盛り込んでください。</li> <li>・ 昨年のコメントにも経済的支援だけではない「支援と負担軽減を検討してください」といったことを入れておりました。子どもと保護者にとって「その時々ニーズにあった切れ目のない支援」とはどのようなものであるのか、今後も調査・研究を続けてください。</li> <li>・ 町財政との兼ね合いを考えながらも周辺自治体の動向にも注視し、日野町の子育て施策が総合的に優れていると判断されるように引き続き施策の充実を図ってください。</li> <li>・ 子どもの受診率は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、受診控えがあり大きく減少しました。受診すべき子が受診できるようになるのは、経済的な課題だけではなく、受診が必要な子を医療につなげるような連携した取り組みが大切です。</li> <li>・ 医療費が無償であることで、学校等が保護者に医療受診を勧めやすいと考えられます。安心して医療受診ができる状況となることが、子育て支援の充実につながるという視点が重要です。</li> </ul>	H27	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H29	10	4	4	2	2	22
				量的S	質B			A		
				H30	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R1	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R2	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
	10	障がい児の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の外部検証コメントを踏まえて、2020 (R2) の④⑤について、多少は記述を工夫してくれたものと評価します。地域での生活を意識してくれている点を評価します。</li> <li>・ 障害のあるお子さんへの支援が「切れ目」がないように工夫をしてください。「くれよん」を拠点とした「切れ目」ない支援を行ってください。</li> <li>・ 児童と保護者のエンパワメントにつながる支援を工夫してください。</li> <li>・ 支援が必要な児が就学後、支援・サポートの不足により、不登校につながるようなケースがあると考えられます。福祉と教育の連携、就学前から小学校、中学校、高等学校、大学等各ステージでの引継ぎをしっかりと行い、支援が途切れないようにしていく必要があります。</li> </ul>	H27	0	2	3	3	3	11
				量的D	質B			C		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H29	1	2	2	2	2	9
				量的D	質C			C		
				H30	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R1	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R2	10	3	3	3	3	22
				量的S	質B			A		
	11	子どもの読書活動推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標③の設定内容は、親(保護者)が子育てする環境をつくる視点となっていますが、子ども自身、親自身の成長を支える視点の基本目標、基本的方向性に再編成した方が良いかもしれません。</li> <li>・ 昨年のコメントを踏まえて「生涯使い続ける図書館」の視点からの内部検証を行い、③において高校生への働きかけを行うなどした点、⑤で「今後の課題」として、明確に認識した点は評価します。</li> <li>・ ⑤における「今後の課題」を解消するために、引き続き調査・研究を行い、改善を図ってください。</li> <li>・ 「子どもの読書活動推進」を一つのきっかけにして、生涯図書館を使い続けるまちづくりを進めてください。</li> <li>・ 学校教育との連携が大切です。</li> <li>・ 児童生徒が自ら選択し、学ぶために必要な環境を整え、いつでも学べるような取り組みが必要です。</li> <li>・ 総合戦略の視点は「選ばれる町にいかすべきか」となっていますが、子どもが自らの人生を切り拓くための環境を整えることが重要です。</li> </ul>	H27	10	2	3	2	2	19
				量的S	質B			A		
				H28	9	3	2	3	3	20
				量的S	質B			A		
				H29	9	3	3	4	4	23
				量的S	質A			A		
				H30	8	3	3	3	3	20
				量的A	質B			A		
				R1	7	3	3	3	3	19
				量的A	質B			A		
				R2	7	3	4	3	3	20
				量的A	質A			A		
12	働きやすい職場環境の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3-12「働きやすい職場環境の推進」が、基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」の中にある意味を再確認して施策を工夫してください。とりわけ④⑤に関わって改善する必要があります。</li> <li>・ 女性の就労促進に努力していることは良く分かりましたが、施策内容の「経営や方針決定過程への女性の参画拡大の啓発」が行われていないのではないのでしょうか。「経営や方針決定過程への女性の参画拡大」の進展を測る方法を検討するなど、施策の実施と効果測定の研究が必要です。</li> <li>・ KPIが有給取得率になっていますが、有給取得以外にも残業時間など子育てに関わる指標を設定するなど、指標の設定にも工夫が必要です。</li> <li>・ 家族経営の農業分野以外でも性別に関わらず女性でも経営等に参画できるような啓発、施策、効果測定の研究に取り組んでください。</li> <li>・ ハローワークでは、子育て中の母親等が仕事を探しやすいようにまとめているようですが、小さい子どもがいてもちょっとの短時間でできる仕事、パート未満の仕事のニーズがあると思います。町内企業が検索できるような仕組みがあると良いと感じます。</li> <li>・ 子育て女性等の多様なニーズに対応できるように工夫、研究を進めてください。</li> </ul>	H27	10	2	3	2	2	19	
			量的S	質B			A			
			H28	9	2	2	1	1	15	
			量的S	質C			B			
			H29	9	3	3	2	2	19	
			量的S	質B			A			
			H30	8	3	3	2	3	19	
			量的A	質B			A			
			R1	9	2	3	3	3	20	
			量的S	質B			A			
			R2	10	3	3	2	2	20	
			量的S	質B			A			

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				年度	量的検証	質的検証			検証結果	
③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	13	学童保育所の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な保育ニーズへの対応のためにも幅広い人材の確保・育成に努めてください。そうした人材の確保・人材が学童サービスをつくり、そこにいた学童が高校生になって、ボランティア・アルバイト等様々な形で担い手になってくれるでしょう。また学童保護者がボランティア・アルバイト・支援者等様々な形で担い手になってもらえるような工夫を行ってください。</li> <li>学童出身の高校生・大学生が学童でアルバイトをしていることは、大きな価値と意味があるため大きく評価できます。学童所属の児童の兄弟がアルバイトをしている場合もあり、身近な存在として、児童が将来自分も学童でアルバイトをしようとするモデルになります。</li> <li>指導員、学生アルバイト、学童児童という多世代の交流の場となり、縦のつながりができます。学童のアルバイトは、町に関わる人材です。将来町づくりの担い手となっていくように育成していくべきです。また、このつながりや交流を町内だけにとどめるのではなく、広げていくことを考えるべきです。</li> </ul>	H27	10	2	1	2	2	17
				量S	質C			B		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量S	質B			A		
				H29	10	2	2	2	2	18
				量S	質C			B		
				H30	10	4	3	3	2	22
				量S	質B			A		
				R1	10	2	2	3	2	19
	量S	質B			A					
	R2	10	3	3	2	2	20			
	量S	質B			A					
	H27	10	3	3	2	2	20			
	量S	質B			A					
	H28	5	3	3	2	2	15			
	量B	質B			B					
	H29	7	3	3	2	2	17			
	量A	質B			B					
	H30	10	3	3	3	2	21			
	量S	質B			A					
	R1	10	2	2	2	3	19			
	量S	質B			A					
	R2	6	4	3	3	3	19			
	量B	質A			A					
	H27	10	3	3	2	2	20			
	量S	質B			A					
	H28	3	3	2	2	2	12			
量C	質B			C						
H29	4	3	3	2	3	15				
量C	質B			B						
H30	3	3	2	2	2	12				
量C	質B			C						
R1	1	3	3	3	3	13				
量D	質B			B						
R2	1	3	3	3	3	13				
量D	質B			B						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KP I	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
④くらしやすい地域をつなぐ、安心して住み続けられるまちをつくる	1	進取のまちの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進取のまちの推進」において、自治会活動の支援と活性化は重要ですから、引き続き地域社会を基礎とした自治会活動を支援してください。一方で④にあるように現状を冷静に分析すると行政懇談会等への参加者の年齢層等に偏りにみられるように若者を中心に多様な世代がまちづくりに参加するようになっていく必要性もあります。そのためには、自治会に加えて新しい住民自治・住民活動を育て、安全・安心なまちづくりに努めてください。④⑤において、自治会活動が活発ではあるけれども次の世代のまちづくりの担い手を育てることを自覚して、施策として取り組もうとしている点を高く評価します。</li> <li>②において「年1%のUターン受け入れの取り組み」を受け入れる地域である各地区で啓発していることは高く評価しますが、基本目標②の移住定住促進と連携させて、効果を高める取り組みを検討してください。</li> <li>⑤の「若者会議（仮称）」など、今後のまちづくりに関わる裾野を広げる取り組みが必要です。</li> <li>若い会議では参加してもらえないと考えられます。青年層に興味を持ってもらえるようなテーマの設定やファシリテーターが重要です。</li> <li>同学年が集まる機会を成人式以外に高校生の卒業時や大学卒業時等、節目で行う機会を作ることで青年層同士や地域とのつながりを生み出す場となるような取り組みを検討してください。</li> </ul>	H27	10	3	3	3	3	22
				量S	質B			A		
				H28	10	2	2	2	2	18
				量S	質C			B		
				H29	9	3	3	2	2	19
				量S	質B			A		
				H30	8	3	3	2	2	18
				量A	質B			B		
				R1	7	3	3	3	3	19
				量A	質B			A		
	R2	8	3	3	4	4	22			
	量A	質A			A					
	2	地域福祉活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉協力員は、昨年より9名減、字福祉会は、昨年より2名減となっています。このことへの言及がなされていません。また、増やす方法についても言及されていません。</li> <li>令和2年度は、コロナ禍で十分な活動ができなかったものと推察しますが、「4-2の施策」が基本目標④の中、総合戦略の中に取り上げられている意味を検討してください。</li> <li>4-2の施設を推進するためには、福祉協力員を増やしたり、字福祉会を増やしたりして、地域福祉の体制を整えることが求められます。弱体化して一部の方に過度の負担がかからないようにする先手の取り組みが必要です。昨年度の外部検証でも指摘していますが、自治活動の見直しと地域福祉活動の充実など地域コミュニティの実態にあわせた仕組みづくりが必要ではないでしょうか。</li> <li>地域福祉活動の体制を支える地域の裾野を広げ「誰一人取り残さない」必要な人に必要な支援が届くような仕組みづくりとその担い手を育ててください。</li> <li>シルバー人材センターにおける仕事の需要と供給がマッチしていない場合があると感じます。誰もがその地域において役割を持ち、輝き、生きがいを持った人生を送れるように仕事をマッチングさせるコーディネートが重要です。</li> <li>住民の困りは多様化、複雑化しており、分野を横断しています。福祉分野における各計画の取り組みが連携する中で取り組みが実際に進むようになれば良いまちになると思います。</li> <li>人の一生に何が必要なのかという視点が必要です。</li> <li>地域福祉活動は活動そのものの本質をしっかり捉えて活動するべきです。</li> </ul>	H27	9.6	2	1	2	1	15.6
				量S	質C			B		
				H28	9	3	3	1	1	17
				量S	質C			B		
				H29	9	3	3	2	2	19
				量S	質B			A		
				H30	9	3	3	2	2	19
				量S	質B			A		
R1				8	3	3	3	2	19	
量A				質B			A			
R2	8	2	2	3	3	18				
量A	質B			B						
3	ボランティア団体の組織化の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア団体が4団体増えたことは評価します。また、活動支援のために勤労福祉会館の使用料減免をしたことを高く評価します。</li> <li>4-3では「ボランティアの組織化を図ります」となっていますが、②の内部検証では、PR、啓発にとどまっているように見えます。十分な取組みだったと言えるでしょうか。④は②、⑤は③に入れても良い内容にも見えます。</li> <li>④⑤は、基本目標、基本的方向性を踏まえての検証を行うものであり、②③とは違うことを理解してください。</li> <li>日野町は、自治会活動が活発ですが、自治会活動も参加者の年齢層の偏りが生じるなど課題もあります。4-1での「進取のまちの推進」とも連携しながらボランティア団体を育てる積極的な施策を工夫し、取組んでください。NPO・ボランティア団体を育てる補助金制度を導入するなど政策に幅を持たせてください。</li> <li>前年度の外部検証を読んでから施策の立案に臨むなど、内部検証、外部検証を施策改善のヒント・契機とするように努めてください。</li> </ul>	H27	10	1	1	1	1	14	
			量S	質D			B			
			H28	10	2	2	1	1	16	
			量S	質C			B			
			H29	9	3	2	2	2	18	
			量S	質B			B			
			H30	10	3	2	2	2	19	
			量S	質B			A			
			R1	10	3	2	2	2	19	
			量S	質B			A			
R2	10	2	3	2	2	19				
量S	質B			A						
4	コミュニティビジネスの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティビジネスの創業が昨年度より2件増えたことは評価します。4-4の施策がコミュニティビジネス創業を増やしているのかの検証を行ってください。</li> <li>暮らしやすいまちをつくるにあたって、町役場（公共）の役割、地縁団体である自治会の役割、ボランティア団体など市民活動の役割、コミュニティビジネスの役割を俯瞰して様々な施策の連携、関係する各課の協議と連携強化によって効果も高めるように努めてください。</li> <li>④において「関係課で協議を行い」とどのような成果が出せそうなのか重要となります。ただちに具体的な成果は難しいと思われかもしれませんが、現場の職員の気づきを共有し、障壁となっていることを明らかにしていくことが重要です。</li> <li>コミュニティビジネスとしての自立は容易ではない場合も多いと思われそうです。採算性と課題解決の両立を目指しながらも「基本目標④」の実現のための支援のあり方を検討してください。</li> </ul>	H27	0	2	3	2	2	9	
			量D	質B			C			
			H28	0	2	2	2	2	8	
			量D	質C			C			
			H29	10	3	3	2	3	21	
			量S	質B			A			
			H30	10	3	3	3	2	21	
			量S	質B			A			
			R1	10	3	3	3	3	22	
			量S	質B			A			
R2	10	3	3	3	3	22				
量S	質B			A						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				年度	量的検証	質的検証			検証結果	
④くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	5	異分野・多世代交流の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の中に「公募サポーターの参画を募り」とあり、KPIにも設定しているのに、公募サポーターの活用が十分できなかったことの要因の分析がないように思います。公募サポーター参画によって期待していた効果は必要なかったのか、公募サポーター（公民館サポーター）が1事業以外なかった原因を分析し、対応策を考えてください。</li> <li>・コロナ禍で従来のような事業を行うことが困難ななかで代替事業を工夫している点を評価します。代替事業として行ったウォーキング、歴史散策は、それ自体、地域の学びの機会となる新たな可能性があります。</li> <li>・地域の会議の開催方法もオンラインによる参加を検討するなど、DXの進む時代の変化に対応していく工夫をしてください。</li> <li>・昨年高く評価した中高生ボランティアについて、令和2年度は実現が難しかったのかもしれませんが、地域やまちの年中行事の中で、まちづくりの担い手を育てる工夫をしてください。</li> <li>・若者をいかに取り込むかが課題となっています。マルシェや手作りの市の取り組みが異分野や多世代交流へとつながっています。公民館等を活用する中で、事業への参加者ではなく、事業の実施主体を育成するような、きっかけづくりとなる取り組みを進めてください。</li> <li>・学校教育との連携も重要です。</li> </ul>	H27	0	2	2	2	3	9
				量D	質B			C		
				H28	10	3	2	3	2	20
				量S	質B			A		
				H29	3	3	3	3	3	15
				量C	質B			B		
				H30	2	3	3	3	3	14
				量D	質B			B		
				R1	2	3	3	3	3	14
				量D	質B			B		
	R2	2	3	3	3	3	14			
	量D	質B			B					
	H27	9.6	3	3	3	2	20.6			
	量S	質B			A					
	H28	9	3	3	3	2	20			
	量S	質B			A					
	H29	8	3	3	3	2	19			
	量A	質B			A					
	H30	8	3	3	3	3	20			
	量A	質B			A					
	R1	8	3	3	3	3	20			
	量A	質B			A					
	R2	6	3	3	3	3	18			
	量B	質B			B					
	H27	0	2	2	2	2	8			
	量D	質C			C					
	H28	0	3	3	1	1	8			
	量D	質C			C					
H29	10	2	2	2	2	18				
量S	質C			B						
H30	10	2	2	1	1	16				
量S	質C			B						
R1	10	3	3	3	3	22				
量S	質B			A						
R2	10	3	3	3	3	22				
量S	質B			A						
H27	10	3	3	2	2	20				
量S	質B			A						
H28	10	3	3	2	2	20				
量S	質B			A						
H29	10	3	3	2	2	20				
量S	質B			A						
H30	10	3	3	2	2	20				
量S	質B			A						
R1	10	3	3	3	3	22				
量S	質B			A						
R2	10	3	3	2	4	22				
量S	質B			A						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
④くらしやすい地域をつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	9	障がい福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2には、定員数は増えませんでした。R3.4月に介護タイプのホームを開所することと定員数増ができたことは評価します。</li> <li>空き家を活用したシェアハウスタイプのグループホームの整備計画もあるようですが、当事者のニーズに答え、基本目標④の目標・基本的方向性も踏まえた日野町モデルの新しい施設となるように努めてください。</li> <li>国・県が施設から地域移行へと方針が変わっていますが、基礎自治体である日野町の「障がい福祉サービスの充実」にとって必要なことを当事者のニーズに沿って考えてください。</li> <li>支援者側の人員不足が懸念されます。人材の不足を解消する取り組みを進めサービス事業所等をしっかり支えてください。</li> <li>活動を継続していくには多くの人が支える側となるよう支援の裾野を広げる取り組みが求められています。</li> <li>国や県に対して、現場の視点から地域の実情に合った取り組みとなるようにしっかりと要望してください。</li> </ul>	H27	10	3	2	2	2	19
				量的S	質B			A		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H29	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H30	10	3	3	3	3	22
				量的S	質B			A		
				R1	8	3	3	3	3	20
	量的A	質B			A					
	R2	7	3	3	3	3	19			
	量的A	質B			A					
	10	介護予防の促進・高齢者の自主的な活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>東椋谷地区、西大路地区での支え合いの取組みが、他の地区でも地域の実情に合わせて広がることを大いに期待します。</li> <li>地域交流サロン(高齢者交流サロン)の要件の緩和は、参加できる人だちを増やすことにつながることで評価します。一方で目標としている箇所数へはもう少し隔たりがありますので、目標数が住民ニーズとの関係で過大でないのかを検討するとともに供給を増やすための一層の工夫をしてください。</li> <li>おたっしやサポーターの中から指導員を養成する取組みは高く評価します。引き続き指導員を増やす取組みを続けてください。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大が収束すれば、高齢者と子どもが交流できるような、双方にとって価値のある取り組みや活発な活動を進めてください。</li> <li>サロンに参加するだけでなく、自分たちで主体的にサロンをつくるような取組みがあると良いと感じます。交流サロンをきっかけとして、そこから交流が広がるような活動が大切です。</li> <li>団塊の世代がサポーターとなっており、人手は一定足りている状況のようですが、サポーターもいずれは、サポートを受ける世代になっていきます。サポーターの活動が健康維持につながり、将来的に高齢者が単なるお客さんから主体となるような取組みにつながるとうれしく考えます。</li> </ul>	H27	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H28	9	3	3	2	3	20
				量的S	質B			A		
				H29	8	2	2	2	2	16
				量的A	質C			B		
				H30	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R1	10	3	3	3	3	22
	量的S	質B			A					
	R2	8	3	3	3	3	20			
	量的A	質B			A					
	11	犯罪・事故のないまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「シルバーキャラバン隊の参加が難しい」と⑤において「今後の課題」として示されていますが、時代にふさわしい効果的な啓発方法を工夫するなど高齢化社会の実態に応じた事業を行ってください。</li> <li>町の防犯・事故のないまちづくりの推進の方策が昔とあまり変わっていないように思われます。時代の変化に対応した効果的な啓発方法で実施するように努めてください。</li> <li>目標を達成してもより良い結果となるよう取り組みを進めてください。</li> </ul>	H27	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H28	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				H29	10	3	2	2	2	19
				量的S	質B			A		
				H30	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R1	10	3	3	3	3	22
	量的S	質B			A					
	R2	10	3	3	3	3	22			
	量的S	質B			A					
12	消防団活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心のまちづくりを礎として、消防団員数が定数通り確保されていることを高く評価します。</li> <li>団員確保に苦労されていることが例年の内部検証で伺えます。高齢化・人口減少の局面で従来の体制を維持することの妥当性についても検討し、まち全体の安全を図るために他の施策との連携・協力により効果を高める工夫をしてください。</li> <li>ポンプ操法大会の練習において消防団員が動きを合わせて訓練することも大きな意味があると感じます。過度な負担とならないように消防団と協議する中で精査して行ってください。</li> <li>地域活動の大切さを働きかける必要があります。時代にあわせて何を伝えていくこと(何を継いでいくこと)が大切かを考えることが重要です。</li> </ul>	H27	10	3	3	3	2	21	
			量的S	質B			A			
			H28	10	2	2	2	2	18	
			量的S	質C			B			
			H29	10	2	3	2	2	19	
			量的S	質B			A			
			H30	10	2	3	2	3	20	
			量的S	質B			A			
			R1	10	2	3	3	3	21	
量的S	質B			A						
R2	10	2	2	3	3	20				
量的S	質B			A						



基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
④くらしやすい地域をつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	13	自主防災組織の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4-13施策内容が防災士の育成、防災組織づくりとその強化となっていますが、防災士の育成のところに焦点があたった内部検証になっています。④で自主防災組織へのフォローアップができていないとも検証していますが、自主防災組織の設定と設立後のフォローアップを行い、組織力の強化に努めてください。</li> <li>・施策の内部検証から防災士の数（育成すること）、組織化することまでは達成できているようですが、地域全体の防災力を高める視点でのもう一歩踏み込んだ取組みが必要ではないでしょうか。</li> <li>・コロナ禍で対面による講演会等啓発の機会が減ったようですが、総務省消防庁提供のオンラインでの学びの場の情報提供を行ったり、日野町独自に必要な学習事項については、オンデマンド配信をしたりするなど工夫が必要です。知識の普及については、オンラインの積極的な活用をしてください。</li> <li>・対面による講習会・防災訓練を通じた住民意識の涵養を図ってください。対面ならではの学習効果の高まる工夫が必要です。</li> <li>・防災力の維持のため、地域によっては、高齢者が自警団に加入するケースもあり負担が大きいと感じます。</li> <li>・町として地域防災におけるリーダーである防災士について、しっかり把握できるようにしてください。</li> </ul>	H27	10	2	3	2	2	19
				量S	質B				A	
				H28	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				H29	8	2	2	2	2	16
				量A	質C				B	
				H30	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				R1	8	3	3	3	3	20
	量A	質B				A				
	R2	8	3	2	3	3	19			
	量A	質B				A				
	H27	9	2	3	2	2	18			
	量S	質B				B				
	H28	9	2	2	2	2	17			
	量S	質C				B				
	H29	9	3	3	3	3	21			
	量S	質B				A				
H30	9	3	3	3	3	21				
量S	質B				A					
R1	9	3	3	3	3	21				
量S	質B				A					
R2	8	3	3	3	3	20				
量A	質B				A					

## 5. 施策別検証内容（施策検証シート）





日野町くらし安心とづくり総合戦略

施策検証シート

基本目標No.	1	まちの「だから」である「地或資源」を活かし、住民が主体となって取り組む経済循環の活性化を進め、更なる地域経済の活性化を進めます。																								
基本目標	まちの「だから」で活用を創る	まちの「だから」である「地或資源」を活かし、住民が主体となって取り組む経済循環の活性化を進め、更なる地域経済の活性化を進めます。																								
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地或資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつきます。</li> <li>○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を主とすることで雇用を創ります。</li> <li>○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</li> </ul>																									
実施No.	3	企業誘致と企業・異業種間の交流促進																								
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政基盤の安定や雇用の場の創出のため、新たな工業団地の確保と企業の誘致を図ります。</li> <li>・地元企業と誘致企業の連携を推進し、新たなビジネスに発展するよう協働関係とネットワークの拡大を図ります。</li> <li>・商工会や観光協会、JAグリーン近江、森林組合、工芸職人等と連携し、異業種間交流を促進するとともに流通ルートの整備と地域産業の活性化を図ります。</li> </ul>																									
指標名	新規進出企業数	①重要業績評価指標（KPI1）																								
基準値（H26）	1社	企業・異業種間交流																								
担当部署	商工観光課	【取組の状況】																								
H27	1社(累計)	【今後の取組み】																								
H28	2社(累計)	⑥検証結果																								
H29	3社(累計)	コメント																								
H30	4社(累計)																									
R1	5社(累計)																									
R2	4社(累計)	<p>実施</p> <p>① 新規進出企業数として商工会等と連携して企業懇談会を開催し、地元企業間での情報共有を図るなど、連携・交流の機会の創出に努めました。</p> <p>② 事業主や商工会、金融機関、異業種間、異業種間交流会等に向けて、商工会や事業主、元上司・先輩などへの雇用創出に向け、商工会や事業主、金融機関、異業種間交流会等と情報共有を図りました。</p> <p>③ 市内企業と連携して企業懇談会を開催し、地元企業間の交流・連携を促進し、新たなビジネスに発展するよう協働関係とネットワークの拡大を図ります。</p> <p>④ 市内企業と連携して企業懇談会を開催し、地元企業間の交流・連携を促進し、新たなビジネスに発展するよう協働関係とネットワークの拡大を図ります。</p> <p>⑤ 市内企業と連携して企業懇談会を開催し、地元企業間の交流・連携を促進し、新たなビジネスに発展するよう協働関係とネットワークの拡大を図ります。</p> <p>⑥ 市内企業と連携して企業懇談会を開催し、地元企業間の交流・連携を促進し、新たなビジネスに発展するよう協働関係とネットワークの拡大を図ります。</p>																								
<p>①重要業績評価指標（KPI1）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>達成率</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0%</td> <td>1社(累計)</td> <td>1社</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>100.0%</td> <td>2社(累計)</td> <td>2社</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>100.0%</td> <td>3社(累計)</td> <td>3社</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>100.0%</td> <td>4社(累計)</td> <td>4社</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>100.0%</td> <td>5社(累計)</td> <td>5社</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>			達成率	実績	目標	達成率	100.0%	1社(累計)	1社	100.0%	100.0%	2社(累計)	2社	100.0%	100.0%	3社(累計)	3社	100.0%	100.0%	4社(累計)	4社	100.0%	100.0%	5社(累計)	5社	100.0%
達成率	実績	目標	達成率																							
100.0%	1社(累計)	1社	100.0%																							
100.0%	2社(累計)	2社	100.0%																							
100.0%	3社(累計)	3社	100.0%																							
100.0%	4社(累計)	4社	100.0%																							
100.0%	5社(累計)	5社	100.0%																							
<p>⑥検証結果</p> <p>【今後の取組み】</p> <p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>外部検証</p>																										
<p>基本目標</p> <p>基本的方向</p> <p>実施</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										
<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>																										

日野町くらしを盛りとづくり総合戦略

施策検証シート

基本目標No.	1	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。
基本目標	まちのたからで雇用を創る	
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用を結びつけます。</li> <li>○農業などを通じて「地域資源」を従業員し、付加価値を生み出すことで雇用を創ります。</li> <li>○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</li> </ul>	
施策No.	4	魅力ある商店づくりの促進
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会による経営指導・相談の促進と経営基盤の強化や広域活動、魅力ある商店・商店街づくりと第三者への継承を含めた後継者の育成を支援します。</li> <li>・日野町に伝わる「権ようかんや原産日野菜の漬物等の特産品を情報発信することにより、商店の活性化を図ります。</li> </ul>	

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	⑥検証結果	コメント	
	目標	実績	達成率	目標	実績			
H27	545 人	532 人	97.6%					
H28	546 人	539 人	98.7%					
H29	547 人	539 人	98.5%					
H30	549 人	522 人	95.1%					
R1	550 人	519 人	94.4%					
R2	550 人	528 人	96.0%					
施策	<p>② 新規コロナウイルス感染症の影響を受けた商店への支援のため、商、県が実施する各種支援制度の周知や申請支援に商工会と連携して取り組まれました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと日野町がたんぼろう商品券」を発行し、町内商店への販路拡大と消費喚起を促しました。</li> <li>・町の特産品振興のため、近江日野「三万よし」を創ることを目指し、町の事業者の販路拡大と情報発信を支援しました。</li> <li>・観光協会が実施した「日野の味賞市」では、創業時もない方からJJAや地元商店まで様々な方が出店され、日野菜や地元野菜などの販路を行うことも出店者同士の横のつながりを実現しました。</li> </ul> <p>③ 地元商店の経営指導・相談の促進等による経営基盤強化や第三者継承に向け、様々な支援制度を取り組むなど、引き続き商工会や金融機関と連携して取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ふるさと応援寄附事業の積極的取り組みをします。</li> <li>・観光交流拠点施設でのチャレンジショップや「味賞市」で出店される方の新規出店者を幅広く募集し、事業の定着化を図ります。</li> <li>・各種観光キャンペーンで地元特産品の土産物ハンズレット等を活用したPRなど、様々な取り組みを通じて商業・商店の活性化を図ります。</li> <li>・商工会、JJAグループ近江、地元商店と協力した地元産品の販売促進の拡大に努めます。</li> </ul> <p>④ 《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用ホームページの発信を促し、地元商店の活性化につなかりました。</li> <li>・商工会が実施する商業活性化事業（店舗ソーラー、町内経済活性化など）の共同開催促進と地産地消の推進を図ります。</li> <li>・令和2年3月に町と商工会の共同で開催した経営指導支援計画を基盤に実行する。また、小規模事業者の経営分析や相談・支援に取り組まれました。</li> <li>《実施できていないこと》</li> <li>⑤ 《今後の課題》</li> <li>・まちの地域資源を活かした創業および雇用を創り出すための必要があり、まちの地域資源を研究し、活用する必要がある。</li> <li>・日野菜や地元産品が活用されるようなプラットフォームの取組とそれを促す行政や商工会の働きかけが必要。</li> </ul> <p>⑤ 《基本目標、基本的方向を踏まえ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標、基本的方向を踏まえ、</li> <li>・地域資源を活かした商工業や商店街の活性化に向け、観光振興と連携し、観光と雇用を取り組むほか、商工会や新規コロナウイルス感染症の状況に応じた様々な取り組みを推進します。</li> <li>・ふるさと応援寄附事業の積極的取り組みを推進し、ふるさと応援寄附の魅力を高める。また、ふるさと応援寄附の魅力を高める。また、ふるさと応援寄附の魅力を高める。</li> <li>・ふるさと応援寄附の魅力を高める。また、ふるさと応援寄附の魅力を高める。</li> <li>・ふるさと応援寄附の魅力を高める。また、ふるさと応援寄附の魅力を高める。</li> </ul> <p>⑥ 《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと日野町がたんぼろう商品券」発行、「近江日野」「三万よし」ふるさと応援寄附の開始など新たな取り組みを行うこと。また、ふるさと応援寄附の開始など新たな取り組みを行うこと。</li> <li>・「ふるさと日野町がたんぼろう商品券」発行、「近江日野」「三万よし」ふるさと応援寄附の開始など新たな取り組みを行うこと。また、ふるさと応援寄附の開始など新たな取り組みを行うこと。</li> <li>・「ふるさと日野町がたんぼろう商品券」発行、「近江日野」「三万よし」ふるさと応援寄附の開始など新たな取り組みを行うこと。また、ふるさと応援寄附の開始など新たな取り組みを行うこと。</li> </ul>							

日野町くらし安心とづくり総合戦略 施策検証シート

<p>1</p> <p>まちの「だから」である「地或資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業者による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。</p>	<p>まちの「だから」である「地或資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業者による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。</p>	<p>まちの「だから」である「地或資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業者による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。</p>	<p>まちの「だから」である「地或資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業者による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。</p>
<p>基本目標</p> <p>○「地或資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業者と雇用に結びつきます。</p> <p>○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を主目的として雇用を創ります。</p> <p>○地元企業、商工会、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</p>	<p>基本目標</p> <p>○「地或資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業者と雇用に結びつきます。</p> <p>○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を主目的として雇用を創ります。</p> <p>○地元企業、商工会、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</p>	<p>基本目標</p> <p>○「地或資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業者と雇用に結びつきます。</p> <p>○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を主目的として雇用を創ります。</p> <p>○地元企業、商工会、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</p>	<p>基本目標</p> <p>○「地或資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業者と雇用に結びつきます。</p> <p>○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を主目的として雇用を創ります。</p> <p>○地元企業、商工会、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</p>
<p>5</p> <p>農業経営体の育成</p>	<p>5</p> <p>農業経営体の育成</p>	<p>5</p> <p>農業経営体の育成</p>	<p>5</p> <p>農業経営体の育成</p>
<p>・担い手の育成・確保、後継者・新規就農者の育成に取組む、認定農業者や農事組合法人の育成などで、農業の活性化を図ります。</p>	<p>・担い手の育成・確保、後継者・新規就農者の育成に取組む、認定農業者や農事組合法人の育成などで、農業の活性化を図ります。</p>	<p>・担い手の育成・確保、後継者・新規就農者の育成に取組む、認定農業者や農事組合法人の育成などで、農業の活性化を図ります。</p>	<p>・担い手の育成・確保、後継者・新規就農者の育成に取組む、認定農業者や農事組合法人の育成などで、農業の活性化を図ります。</p>
<p>①重要業績評価指標 (KPI)</p>	<p>①重要業績評価指標 (KPI)</p>	<p>①重要業績評価指標 (KPI)</p>	<p>①重要業績評価指標 (KPI)</p>
<p>人・農地プラン作成件数</p> <p>8 件 (累計)</p>	<p>人・農地プラン作成件数</p> <p>8 件 (累計)</p>	<p>人・農地プラン作成件数</p> <p>8 件 (累計)</p>	<p>人・農地プラン作成件数</p> <p>8 件 (累計)</p>
<p>H27</p> <p>11 件 (累計)</p>	<p>11 件 (累計)</p> <p>100.0%</p>	<p>11 件 (累計)</p> <p>100.0%</p>	<p>11 件 (累計)</p> <p>100.0%</p>
<p>H28</p> <p>15 件 (累計)</p>	<p>15 件 (累計)</p> <p>100.0%</p>	<p>15 件 (累計)</p> <p>100.0%</p>	<p>15 件 (累計)</p> <p>100.0%</p>
<p>H29</p> <p>20 件 (累計)</p>	<p>20 件 (累計)</p> <p>80.0%</p>	<p>20 件 (累計)</p> <p>80.0%</p>	<p>20 件 (累計)</p> <p>80.0%</p>
<p>H30</p> <p>25 件 (累計)</p>	<p>25 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>	<p>25 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>	<p>25 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>
<p>R1</p> <p>30 件 (累計)</p>	<p>30 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>	<p>30 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>	<p>30 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>
<p>R2</p> <p>30 件 (累計)</p>	<p>30 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>	<p>30 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>	<p>30 件 (累計)</p> <p>70.0%</p>
<p>②</p> <p>実施</p>	<p>②</p> <p>実施</p>	<p>②</p> <p>実施</p>	<p>②</p> <p>実施</p>
<p>③</p> <p>実施</p>	<p>③</p> <p>実施</p>	<p>③</p> <p>実施</p>	<p>③</p> <p>実施</p>
<p>④</p> <p>実施</p>	<p>④</p> <p>実施</p>	<p>④</p> <p>実施</p>	<p>④</p> <p>実施</p>
<p>⑤</p> <p>実施</p>	<p>⑤</p> <p>実施</p>	<p>⑤</p> <p>実施</p>	<p>⑤</p> <p>実施</p>
<p>【取組状況】</p>	<p>【取組状況】</p>	<p>【取組状況】</p>	<p>【取組状況】</p>
<p>【今後の取組み】</p>	<p>【今後の取組み】</p>	<p>【今後の取組み】</p>	<p>【今後の取組み】</p>
<p>⑥検証結果</p>	<p>⑥検証結果</p>	<p>⑥検証結果</p>	<p>⑥検証結果</p>
<p>コメント</p>	<p>コメント</p>	<p>コメント</p>	<p>コメント</p>
<p>外部検証</p>	<p>外部検証</p>	<p>外部検証</p>	<p>外部検証</p>

日野町くらしをゆとりとつくりぬき戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組み創出による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業間の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。
基本目標	まちの「たから」で雇用を創る	
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。</li> <li>○農業などを通じて「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を生み出すことで雇用を創ります。</li> <li>○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。</li> </ul>	
施策No.	6	地元野菜生産者の担い手育成

施策内容 • 消費者ニーズに合った農産物や特産品・多品目化を図り、「地産地消」の拡大と担い手の育成につなげるため、生産者の意識啓発を図ります。

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	⑥検証結果	コメント
H27	70 人	70 人	100.0%					
H28	74 人	73 人	98.6%					
H29	76 人	77 人	100.0%					
H30	78 人	77 人	98.7%					
R1	80 人	89 人	100.0%					
R2	92 人	101 人	100.0%					
					施策			
							A	



日野町くらし安心りとづくり総合戦略

基本目標No. 1	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。
基本目標	まちのだからで雇用を創る ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業者と雇用に結びつきます。 ○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化し、さらなる有効活用を主み出すことで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。
基本的方向	

種類No. 7	日野菜のブランド化の促進
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>原産日野菜の種子の安定生産・供給を図り、伝統野菜である原産日野菜のブランド化と年間生産量の増加に向け、関係機関との連携を図ります。</li> <li>原産日野菜を町内で加工・販売することにも、町外でも流通する仕組みづくりと販路拡大を図ります。</li> <li>原産日野菜の有効活用を研究するとともに、情報発信により知名度を高めます。</li> </ul>

①重要業績評価指標 (KPI)		②重要業績評価指標 (KPI)	
指標名	日野菜の出荷量	日野菜の販売取引先件数	日野菜の生産者数
基準値 (H26)	45 t	38 件	38 件
担当部署	農林課	農林課	農林課
	実績	実績	実績
H27	45 t	42 t	41 件
H28	47 t	37 t	53 件
H29	55 t	26 t	41 件
H30	65 t	38 t	43 件
R1	70 t	42 t	45 件

実施	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	外部検証	コメント
<p>① 原産日野菜のほとんどはJA加工施設へ出荷し、農協から販売されている。JAが中心となって、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>② 原産日野菜の生産者から、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。JAが中心となって、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>③ 原産日野菜の生産者から、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。JAが中心となって、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>④ 原産日野菜の生産者から、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。JAが中心となって、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>⑤ 原産日野菜の生産者から、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。JAが中心となって、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p>	<p>・引越希望生産者とJA、農協と連携し、親睦技術研修会や情報交換、補助制度などに取り組んでいる。</p> <p>・かねてから課題の一つである収穫後のピレ加工の作業を軽減できる機械がなかったことから、機械導入に係る経費を助成する。</p> <p>・地域が一丸となり、日野菜振興ができるように、日野菜PRキャンペーン「あいのな」を活用し、原産日野菜の認知度を高めるとともに、日野町の日野菜が産地として知られるよう、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>・JAをはじめ町の地元企業や農協との連携を図り、日野菜振興の促進を図る。</p>	<p>・引越希望生産者とJA、農協と連携し、親睦技術研修会や情報交換、補助制度などに取り組んでいる。</p> <p>・かねてから課題の一つである収穫後のピレ加工の作業を軽減できる機械がなかったことから、機械導入に係る経費を助成する。</p> <p>・地域が一丸となり、日野菜振興ができるように、日野菜PRキャンペーン「あいのな」を活用し、原産日野菜の認知度を高めるとともに、日野町の日野菜が産地として知られるよう、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>・JAをはじめ町の地元企業や農協との連携を図り、日野菜振興の促進を図る。</p>	<p>・コナラ福で飲食店及び業により、販売取りやめ、出荷量が減少しており、KPIが低くなっています。作付面積の拡大、生産基盤の整備など日野菜のブランド化のための取り組みがなされていることを評価します。</p> <p>・ふるさと産物産出の取組に日野菜を登録したり、キャラクター「あいのな」の書籍の取組を推進したりすることにより、認知度を向上させることにより、販路拡大を図る。</p> <p>・日野菜PRキャンペーン「あいのな」を活用し、原産日野菜の認知度を高めるとともに、日野町の日野菜が産地として知られるよう、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p>	<p>・引越希望生産者とJA、農協と連携し、親睦技術研修会や情報交換、補助制度などに取り組んでいる。</p> <p>・かねてから課題の一つである収穫後のピレ加工の作業を軽減できる機械がなかったことから、機械導入に係る経費を助成する。</p> <p>・地域が一丸となり、日野菜振興ができるように、日野菜PRキャンペーン「あいのな」を活用し、原産日野菜の認知度を高めるとともに、日野町の日野菜が産地として知られるよう、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p> <p>・JAをはじめ町の地元企業や農協との連携を図り、日野菜振興の促進を図る。</p>	<p>・コナラ福で飲食店及び業により、販売取りやめ、出荷量が減少しており、KPIが低くなっています。作付面積の拡大、生産基盤の整備など日野菜のブランド化のための取り組みがなされていることを評価します。</p> <p>・ふるさと産物産出の取組に日野菜を登録したり、キャラクター「あいのな」の書籍の取組を推進したりすることにより、認知度を向上させることにより、販路拡大を図る。</p> <p>・日野菜PRキャンペーン「あいのな」を活用し、原産日野菜の認知度を高めるとともに、日野町の日野菜が産地として知られるよう、JAに相談し、販路拡大や加工・販売の促進を図っている。</p>
			B		



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

基本目標No.	1	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む細い創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業間の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。
基本目標	まちのだからで雇用を創る ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業者と雇用に結びつきます。 ○農業などを通して「地域資源」を発見し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を主目として雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信すること、町内雇用の拡大を図ります。	
実施No.	9	若者等の就職相談窓口の整備

• 地元企業および通勤圏内の近隣市の求人情報や就職説明会などを把握し、若者等への情報発信と地元企業との交流により、就職を支援する総合的な相談窓口を整備します。

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内訳検証		外部検証 コメント
	若者等の就職相談件数 0 件				【今後の取り組み】	⑥検証 結果	
		実績	進捗率	実績			
H27	0 件	0 件	0.0%				
H28	0 件	0 件	0.0%				
H29	8 件	0 件	0.0%				
H30	16 件	7 件	43.8%				
R1	24 件	10 件	41.7%				
R2	24 件	7 件	29.2%				

【取り組み状況】		【今後の取り組み】		⑥検証 結果	外部検証 コメント
実績	進捗率	実績	進捗率		
<p>① 若者等には「ほけっと」で開催した、主に卒業後の再就職を支援する女性のための就職支援事業は、若者20人、若者11人、若者関係者には延べ7人の参加がありました。</p> <p>② 地元日野高校が行う就業支援を目的としたキャリア形成教育や地域との連携事業に対する補助制度を創設、活用され、地域の未来を担う人材育成につながりました。</p> <p>③ ハローワークなど関係機関の求人情報や県内・町内企業の情報を通じても開催できるよう従来1階ロビーに配置しました。</p> <p>④ 東近江地域労働対策連絡会へ地元企業の情報提供を行い、学校への就職説明会で情報発信しました。</p>		<p>若者をはじめ、Uターン希望者、再就職を目指す女性などへの充実した支援を推進するため、遊里園やハローワーク、商工会議所の協力を連携して取り組みとします。</p> <p>① 女性活躍推進交付金を活用した「子育て女性の活躍応援プロジェクト事業」は参加者に好評であり、今後も就労支援に取り組みます。</p> <p>② つどいのひろば「ほけっと」にあるハローワーク求人検索・相談への活用拡大につながるよう映像を活用した企業紹介のPV（プロモーションビデオ）等の作成への補助に取り組みます。</p>			<p>• 昨年の外部検証コメントにて「コロナ禍の在宅勤務から農村回帰の動き」を指摘しましたが、調査研究を行い、時代の変化の流れを的確につかんでください。</p> <p>• ②③④⑤どれも従来から行われている雇用政策の枠内の施策ではないので、従来の施策にも工夫をこらして、施策の目指すところ、基本目標・方向性の考え方を従来施策に落とし込んでみてください。</p> <p>• 本施策は「町のキャリアセンター」構想が発想のスタートで、総合的な情報提供を行うだけでなく、ターゲットを明確にしたアプローチも必要です。</p> <p>• ③④⑤いづれも必要な情報、必要とされるであろう情報を一般的に提供し、本施策は、日野を主軸として結びつくような結果を求めてはならず、一般的情報を提供していただく、結果に結びつく工夫を明確にして実施してください。</p> <p>• ターゲットを明確にしたアプローチが必要で、進捗を日野町を離れた人に伝達するための継続として日野町の今後の活動を、入学卒業後日野町に帰ってくるようめざすよう取り組んでください。</p>







日野町くらし安心とづくり総合戦略

基本目標No.	2	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結びつく、魅力あるまちをめざします。
基本目標	出会いと発見で人の流れを作る	
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちの「だから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心をもち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。</li> <li>○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれたい、住んで良かったと思える地域への愛着を芽生えさせ、住んでいくことにより定住を促進します。</li> <li>○移住希望者の拠点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。</li> <li>○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるような活用と情報発信を図ります。</li> </ul>	

施策No.	3	日野の「だから」情報発信の推進
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史郷土事業や近江日野郷土館で調査・発見された「だから」をわかりやすく情報発信するとともに、日野の先進の生き方や人材教育を含めた情報発信に取り組みます。</li> <li>・ まちの情報を広げていくための団体や人材のネットワークの組織として、かつての「日野大当番仲間」のような仕組みをつくり、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用し、町内はもとより、全国・世界に日野町の「だから」を発信するとともに、口コミによる広がりともちあへの支援の拡充を図ります。</li> </ul>	

指標名	①重要業績評価指標（KPI）				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	達成率	
ホームページのアクセス件数	日野大当番仲間の登録件数							
基礎値 (H26)	1,757,532 件	0 人						
担当部署	企画振興課							
H27	1,800,000 件	2,193,415 件	100.0%	0 人	0 人	0.0%		
H28	1,850,000 件	1,728,210 件	93.4%	150 人	0 人	0.0%		
H29	1,900,000 件	2,223,448 件	100.0%	250 人	0 人	0.0%		
H30	1,950,000 件	2,422,817 件	100.0%	400 人	0 人	0.0%		
R1	2,000,000 件	2,400,664 件	100.0%	500 人	0 人	0.0%		
R2	2,500,000 件	3,667,297 件	100.0%	500 人	0 人	0.0%		
施策	<p>① 昨年度から、ホームページが利用者にとって利用しやすくなるように、改善を進めてまいりました。今年度は、ユーザーが知りたかった情報にたどり着きやすいよう、トップメニューのメニューボタンをリニューアルと掲載中のコンテンツ1700ページの細づけを行い出し、情報にたどり着きやすいように改修しました。</p> <p>② 町の歴史、健康、観光などの情報発信により、関係人口の増加に結びつくような情報発信とコロナ禍におけるフレイル予防対策などを意識した動画を配信しました。</p> <p>③ SNSを活用した情報発信については、スマホ携帯の普及率から、活用について意識をした情報収集に取り組みました。</p>							
【今後の取り組み】	<p>① 町の情報で知りたい情報が、身近に入手できるよう、ニーズにあったホームページなどの発信の工夫や、ニーズに合い、使いやすい、分かりやすいホームページとなるようシステム構築を検討します。</p> <p>② さらゆるの構築を機に日野町の発信をすることが、住民のみさんのシビックライヴにつながることから、積極的な情報収集と発信ができるように職員の意識を向上させます。</p>							
【取り組み状況】	<p>① 町の情報で知りたい情報が、身近に入手できるよう、ニーズにあったホームページなどの発信の工夫や、ニーズに合い、使いやすい、分かりやすいホームページとなるようシステム構築を機に日野町の発信をすることが、住民のみさんのシビックライヴにつながることから、積極的な情報収集と発信ができるように職員の意識を向上させます。</p>							
【今後の取り組み】	<p>① 町の情報で知りたい情報が、身近に入手できるよう、ニーズにあったホームページなどの発信の工夫や、ニーズに合い、使いやすい、分かりやすいホームページとなるようシステム構築を機に日野町の発信をすることが、住民のみさんのシビックライヴにつながることから、積極的な情報収集と発信ができるように職員の意識を向上させます。</p>							
⑥検証結果	<p>・「2-3」は、KPIに「日野大当番仲間」の登録を数値し、実績で表わったため、KPI中の数値は実績値と異なる変更が必要であり、検証結果が異なる変更が必要となりました。次期総合戦略では実績が数値し、「日野大当番仲間」はKPIに採用せず、他の指標で評価していただきます。役職の窓口対応のポット化なども押し寄せてきます。情報発信のあり方を更に見直す必要が出てくるでしょう。</p> <p>・「2-3」は、情報発信の推進に取組む施策であるが、取り組みの進捗を測る観点として「体制の整備」「体制の稼働」を測ることによって進捗を測ることができま</p> <p>・「2-3」は、情報発信の推進に取組む施策であるが、取り組みの進捗を測る観点として「体制の整備」「体制の稼働」を測ることによって進捗を測ることができま</p>							
コメント	<p>・「2-3」は、KPIに「日野大当番仲間」の登録を数値し、実績で表わったため、KPI中の数値は実績値と異なる変更が必要であり、検証結果が異なる変更が必要となりました。次期総合戦略では実績が数値し、「日野大当番仲間」はKPIに採用せず、他の指標で評価していただきます。役職の窓口対応のポット化なども押し寄せてきます。情報発信のあり方を更に見直す必要が出てくるでしょう。</p> <p>・「2-3」は、情報発信の推進に取組む施策であるが、取り組みの進捗を測る観点として「体制の整備」「体制の稼働」を測ることによって進捗を測ることができま</p>							





日野町くらし安心づくり総合戦略		施策検証シート		まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流が促され、魅力あるまちを創ります。		
基本目標No.	2	出合いと発見で人の流れを作る		○まちの「だから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することにより、観光客や町外からの観光客の誘致を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えること、日野町に生まれてよかった、住んで良かったと思える地域への愛着を育みます。 ○移住希望者の視点から、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。		
実施No.	5	施策		伝統文化等後継者育成の促進		
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内各地域の伝統文化や歴史資産等を知り、伝統文化等の学習と啓発を行い、伝統文化等の学習と啓発を行い、後継者育成を支援するとともに誰もが誇りをもち、日野町を紹介できる雰囲気をつくります。</li> <li>・町史ダイジェスト版と小学生向け郷土学習資料「わたしたちの日野」を活用し、地区の行事や歴史、しきたりや伝統を知ることで郷土愛を育み、様々な世代が連携した地域づくりを支援します。</li> </ul>				
指標名	①重要業績評価指標(KPI)				外部検証	
	少年・少女カナルチャー教室及び歴史文化講座参加者数					
数値目標	153人	実績	目標	達成率	結果	
担当部署	生涯学習課	実績	目標	達成率		
H27	160人	260人	100.0%			
H28	420人	420人	100.0%			
H29	430人	665人	100.0%			
H30	440人	709人	100.0%			
R1	450人	715人	100.0%			
R2	725人	652人	89.9%			
				① 町内の文化財に関する講演会、町内の地区公民館や語り部会からの要望に即して講演活動や古文書調査事業を行い、学習機会を提供しました(206人)。 ・町史ダイジェスト版となる『ふるさと日野の歴史』を6年児童全員(169人)に配布し、出前授業を開催しました。また、各小学校のふるさと学習に協力し、伝統文化の理解と郷土愛を育むための学習を支援しました(109人)。 ② 文化協会と協力して日野町少年少女カナルチャー教室を創出し、芸術や伝統文化の大切さを伝える機会を創出しました(168人)。 ③ 《実施していること》 ・小学校児童を対象としたふるさと学習を推進し、明日を担う子どもたちの郷土意識の醸成に努めました。 ・ふるさと料事を推進するなかで、地域住民が講師として参加する機会を作り、世代間交流を促進させました。 ・町民と協働して文化財の調査を実施する事業に着手し、たからを再発見する機会づくりと文化財保護意識の向上を図りました。 ・カナルチャー教室を開催し、児童が文化的な活動を通して仲間づくりや文化に触れる機会を創出するとともに子ども達の健全育成を図りました。		
				・引き継ぎ、日野の歴史遺産に関する講演会・学習会を実施し、町史ダイジェスト版「ふるさと日野の歴史」を活用した出前授業をはじめとするふるさと学習の充実を図ります。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化の学習と啓発を進めます。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化に親しむ学習機会を創出します。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化に親しむ学習機会を創出します。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化に親しむ学習機会を創出します。		
				・町内の子どもたちに日野町の歴史や文化を伝える機会を創出し、日野町の魅力を伝えることで交流が促され、魅力あるまちを創ります。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化に親しむ学習機会を創出します。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化に親しむ学習機会を創出します。また、公民館との連携により、日野町少年少女カナルチャー教室を継続し、芸術や伝統文化に親しむ学習機会を創出します。	コメント	



日野町くらし安心とづくり総合戦略

基本目標No.	2	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付け、魅力あるまちを築きます。
基本目標	出会いと発見で人の流れを作る	
基本内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちの「だから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心をもち、住むの魅力を伝えること、日野町に生まれよくなった住人が日野町の良さや魅力を伝えること、日野町で暮らしたいイメージで、移住を後押ししていきながら情報発信と支援の充実を図ります。</li> <li>○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれよくなった住人が日野町に関心をもち、住むの魅力を伝えること、日野町で暮らしたいイメージで、移住を後押ししていきながら情報発信と支援の充実を図ります。</li> <li>○移住希望者の視点から、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押ししていきながら情報発信と支援の充実を図ります。</li> <li>○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。</li> </ul>	
施策No.	7	定住支援相談窓口の整備

・日野で暮らしたいという人に対する総合的な相談窓口を整備します。

指標名	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証
	定住に関する相談件数	10 件	実績	目標	達成率	達成率	
基本目標 (H26)	10 件						
担当部署	企画課	実績	目標	達成率	達成率		
H27	5 件 (累計)	10 件 (累計)			100.0%		
H28	20 件 (累計)	23 件 (累計)			100.0%		
H29	60 件 (累計)	31 件 (累計)			51.7%		
H30	80 件 (累計)	66 件 (累計)			82.5%		
R1	100 件 (累計)	88 件 (累計)			88.0%		
R2	100 件 (累計)	121 件 (累計)			100.0%		

【取組状況】	【今後の取組み】	◎検証結果	コメント
<p>①引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。</p> <p>②引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。</p> <p>③引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。</p>	<p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者が必要とする住まい、仕事、子育てなどに関する情報を体系的に発信し、制度の紹介とともにまちの魅力を伝えることにより相談体制の強化を図ります。</li> <li>・移住後のアフターフォローを視野に入れ、定住につながるよう動かし、相互に地域への愛着が増していくよう活動も紹介し、相対的にまちの魅力を高めたいと考えています。</li> </ul>		
<p>④引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。</p> <p>⑤引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。</p>	<p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者が必要とする住まい、仕事、子育てなどに関する情報を体系的に発信し、制度の紹介とともにまちの魅力を伝えることにより相談体制の強化を図ります。</li> <li>・移住後のアフターフォローを視野に入れ、定住につながるよう動かし、相互に地域への愛着が増していくよう活動も紹介し、相対的にまちの魅力を高めたいと考えています。</li> </ul>		
<p>⑥引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。</p>	<p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者が必要とする住まい、仕事、子育てなどに関する情報を体系的に発信し、制度の紹介とともにまちの魅力を伝えることにより相談体制の強化を図ります。</li> <li>・移住後のアフターフォローを視野に入れ、定住につながるよう動かし、相互に地域への愛着が増していくよう活動も紹介し、相対的にまちの魅力を高めたいと考えています。</li> </ul>		

実施	実施内容	実施状況	実施効果
①	引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。		
②	引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。		
③	引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。		
④	引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。		
⑤	引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。		

実施	実施内容	実施状況	実施効果
⑥	引き続き希望者相談窓口を配置し、日野で暮らしたいという人の相談に際し、制度の紹介とともに地理的特性や行事、祭りの紹介などによりまちの魅力を伝えるように努めました。		

日野町くらしを盛りとづくり総合戦略

基本目標	2	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野町の魅力を伝えることで交流の機会を増やし、魅力あるまちをめざします。
基本目標	出合いと発見で人の流れを作る	
基本目標	〇まちの「だから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住入りに関心を持ち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 〇住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれよかかった、住んで良かったと実感したと語れる地域人の愛着を生み出すことで、育てていくことにより定住を促進します。 〇移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押ししていきけるような情報発信と支援の充実を図ります。 〇遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう活用と情報発信を図ります。	

施策No.	8	空き家を活用した定住促進
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家情報登録制度の周知を図り、定住に結び付けていくため、移住される方に対して町の支援だけでなく、地元自治会と連携した取り組みを推進します。</li> <li>・ 町内における空き家候補地の分析、調査等を実施することにより、空き家の実態及び管理状況を把握し、空き家情報登録制度に登録可能な空き家を把握します。</li> </ul>	

指標名 基準値 H26 H27	①重要業績評価指標 (KPI)			内部検証			外部検証	
	目標	実績	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント	
企業振興課	90 人(累計)	92 人(累計)	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き公民社団法人滋賀県若狭振興協議会との連携を図り、日野町内や周辺地域向けに空き家バンクを推進し、情報共有を図る。</li> <li>・ 空き家バンクの活用を促進するため、空き家の所有者に空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>・ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>・ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> </ul>	【今後の取り組み】			
H27	90 人(累計)	92 人(累計)	100.0%					
H28	105 人(累計)	113 人(累計)	100.0%					
H29	120 人(累計)	127 人(累計)	100.0%					
H30	135 人(累計)	129 人(累計)	95.6%					
R1	150 人(累計)	142 人(累計)	94.7%	<p>施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 空き家バンクの活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>② 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>③ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>④ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>⑤ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> </ul>	【今後の取り組み】			
R2	150 人(累計)	162 人(累計)	100.0%	<p>実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 空き家バンクの活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>② 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>③ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>④ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> <li>⑤ 空き家の活用を促進するため、空き家の活用に関する情報を提供し、空き家の活用を促進する。</li> </ul>	【今後の取り組み】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年で20名増と成果が出ていると感じられます。空き家バンクには解決する問題ではないのですが、所有者の意識を前向きに変えられる啓発をしてください。</li> <li>・ ④において、課をまたいだ連携を行っている点は移住につながる可能性を高めると考えられるので高く評価します。</li> <li>・ ⑤にてテラワークの拡大等による移住希望者のニーズを捉え、時代の変化に対応するための決意表明を高く評価します。</li> <li>・ 登録空き家が増えない理由の分析は納得のいくものでないです。こうした要因を「手放せない」とネガティブに考えず、「いつか帰ってくるかもしれない人」と捉えなおし、帰郷支援についても検討してください。</li> </ul>	

日野町くらし安心りとづくり総合戦略

基本目標No.	2	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。
基本目標	出合いと発見で人の流れを作る	
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちの「だから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心を持ち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。</li> <li>○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれよくなった、住んで良かったと思える地域への愛着を育み、育んでいくことにより定住を促進します。</li> <li>○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。</li> <li>○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるような利用と情報発信を図ります。</li> </ul>	

施策No.	9	空き地等を活用した定住促進
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内における空き地等を活用し、土地所有者と利用希望者をつなぐことにより、移住と定住を促進します。</li> </ul>	

指標名 基準値 (H26)	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	空き地情報登録制度での移住・定住者数				【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント	
	目標	実績	達成率	達成率				
担当部署	企画課	環境課	建設課	農林課				
H27	0人(累計)	0人(累計)	0.0%		<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き公益社団法人滋賀県宅地建物取引業協会の会員業者等と連携し、物件の紹介や成約に向けた働きかけを行いました。(成約実績：3件9人)</li> <li>・これまで空き地情報登録制度を通じた関わりをもった近隣の住メーカ一等人空き地の活用についての働きかけを行いました。</li> <li>・空き家や空き地の登録物件がある地域の自治会活動や自治会費などの情報を紹介する活動への理解や地域住民が移住者を迎えやすい体制づくりを図っています。</li> <li>・全町区長会や行政懇談会、自治会との懇談の機会に、空き家の活用をはじめ、移住者を受け入れやすい地域づくりを働きかけています。</li> </ul>	<p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き公益社団法人滋賀県宅地建物取引業協会の会員業者等と連携し、物件の紹介や成約に向けた働きかけを行います。</li> <li>・空き地や空き家の活用について、効果的な情報発信の手法や仕組み等について調査・研究し、空き地の活用促進を進めます。</li> <li>・出前講座や行政懇談会、自治会との懇談の機会に、空き家情報登録制度を通じて、移住者を迎えることへの理解を促すとともに、地域の魅力を伝える機会を設けます。</li> </ul>	<p>⑥検証結果</p> <p>空き地活用実績が初めて出たので、KPIが0%を脱することができましたので、⑥検証結果もC→Bと上がりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部検証でも出されていた住メーカ一との連携について、R2(2020)年度、住メーカ一への働きかけを行ったことに加え、空き家の活用について、空き家、空き地の活用にとどまらず、受け入れ側の地域の意識改革につながる取り組みをしている点を評価します。</li> <li>・コロナ禍でテレワークが広がっており、田舎回帰の動きも大きくなる可能性があります。地方への移住、定住希望者や日野への移住につながるような野原の移住情報提供を強化し、移住のきっかけづくりを支援します。</li> <li>・市街化調整区域等土地利用に関する制限も厳しくなっており、空き地情報登録制度でかつた空き地情報登録制度での移住、定住者数については、令和2年度に実績があったこととは、丁寧な取り組みによるものについて評価します。</li> </ul>	
H28	10人(累計)	0人(累計)	0.0%					
H29	20人(累計)	0人(累計)	0.0%					
H30	35人(累計)	0人(累計)	0.0%					
R1	50人(累計)	0人(累計)	0.0%					
R2	50人(累計)	9人(累計)	18.0%					

日野町くらしをめぐりとつくり組合戦略

基本目標	2	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流の促進を図ります。
基本目標	10	多文化共生の推進

基本目標	出合いと発見で人の流れを作る
基本目標	○まちの「たから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心をもち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。
基本目標	○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれよかかった、住んで良かったと語れる地域人の愛着を育み、育んでいくことにより定住を促進します。
基本目標	○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。
基本目標	○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう活用と情報発信を図ります。

実施内容	多文化共生を推進するリーダーやボランティアの発掘・育成・確立を図ります。
------	--------------------------------------

指標名	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	コメント	
語学講座の受講者数	14人							
企業振興課	30人(累計)	27人(累計)	90.0%					
H27	60人(累計)	88人(累計)	100.0%					
H28	90人(累計)	121人(累計)	100.0%					
H29	120人(累計)	134人(累計)	100.0%					
H30	150人(累計)	157人(累計)	100.0%					
R1								
R2	170人(累計)	175人(累計)	100.0%					

日野町くらし安心とづくり総合戦略		2		まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流が移住・定住に結び付き、魅力あるまちをめざします。		
基本目標		出合いと発見で人の流れを作る				
基本目標		出合いと発見で人の流れを作る				
基本方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちの「后から」である観光資源・田舎(種々の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心をもち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。</li> <li>○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれたいと憧れる地域への愛着を身伝え、住んで良かった、住んで良かったと伝えたいという思いが、移住を後押しします。</li> <li>○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。</li> <li>○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるような活用と情報発信を図ります。</li> </ul>				
実施No.	11	施策		スポーツによる交流の促進		
施策内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツイベントや各種事業を開催するとともに、ニュースポーツの普及と拡大により、さまざまな人々がスポーツに親しめる可能性を広げ、参加者の拡大を図ります。</li> </ul>				
①重要業績評価指標 (KPI)		【取り組み状況】		【今後の取り組み】		
指標名	みんなのスポーツ広場参加延べ人数				⑥検証結果	
基準値 (H26)	1,269人					
担当部署	生涯学習課					
	実績	目標	達成率	実績	達成率	
H27	1,154人	1,154人	90.9%			
H28	1,400人	1,724人	100.0%			
H29	1,600人	1,423人	88.9%			
H30	1,800人	1,362人	75.7%			
R1	2,000人	1,395人	69.8%			
R2	2,000人	0人	0.0%			
施策		<ul style="list-style-type: none"> <li>①例年、誰もが気軽にスポーツができる場として「みんなのスポーツ広場」を開催してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。</li> <li>②コロナ禍の中、住民の運動啓発を目的として、運動部の配属や全町民を対象とした参加型のスポーツ週間企画を実施しました。</li> <li>③「基本目標、基本的方向を踏まえて」 ・スポーツを通して、住民同士が交流し新たなつながりを生み、いきいきと健康で過ごせる魅力あるまちづくりを目指します。</li> <li>④《実施していること》 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、参加型のスポーツイベントが実施できなかつたため、動画配信や啓発事業など情報発信を強化しました。</li> <li>⑤《実施できていないこと》 ・コロナ禍の状況により、公民館や自治会への出前講座を実施することができませんでした。</li> <li>⑥住民と移住者、若者世代など、より多くの人が楽しみ、交流できるような新たなスポーツイベント等の取り組みが必要です。</li> <li>《実施が困難なこと》 ・コロナ禍の状況により、従来のような多くの人を集めた事業の実施が困難です。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の体力の向上、健康増進を図るだけでなく、スポーツを通して多世代の住民が交流できるような、スポーツに親しむ機会を提供や情報発信、地域への出前講座の取り組みを推進します。</li> <li>③《今後の課題》 ・スポーツイベントへの参加者が固定化している傾向があります。広く住民がスポーツに親しめるよう、新たなスポーツ啓発や情報発信力を強化する必要があります。</li> </ul>		コメント
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍によりスポーツ広場の開催が難しくなりましたが、KPIが0%となり、⑥検証結果はB-Cとダウンしました。ただし、引き続き考えてまいります。</li> <li>・スポーツによる交流が移住・定住の促進につながるの観点から、効果について検討し、次期総合戦略においては、施策として盛り込まないことも検討していただきます。</li> <li>・社会体育としての取組を推進し、定住につながるような施策であると感じます。スポーツを通じて町民の交流を図り、他の地域ともつながり交流していく視点が必要です。</li> </ul>		

日野町くらし安らぎとづくり総合戦略 3 施策検証シート 地域をつなぐ取り組み

基本目標No.	3	地域をつなぐ取り組みを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまをさせます。
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかかえる	
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚に向けて男女の出会場の創出を図ります。</li> <li>○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。</li> <li>○子育てサポート等、現状のサービスの充実や子育てに際する負担の軽減を図ります。</li> <li>○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。</li> </ul>	

施策No.	1	施策	出会いの場の創出
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の出会場の場を提供するとともに、カップルになるためのセミナーなどを開催し、独身男女の結婚に向けた支援を行います。</li> </ul>		

指標名 (H26)	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	コメント	
カップル成立数	17組							
基礎講座 企画振興課								
H27	20組(累計)	19組(累計)	95.0%					
H28	40組(累計)	64組(累計)	100.0%					
H29	60組(累計)	88組(累計)	100.0%					
H30	80組(累計)	100組(累計)	100.0%					
R1	100組(累計)	120組(累計)	100.0%					
R2	130組(累計)	120組(累計)	92.3%					

指標名 (H26)	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	コメント	
カップル成立数	17組							
基礎講座 企画振興課								
H27	20組(累計)	19組(累計)	95.0%					
H28	40組(累計)	64組(累計)	100.0%					
H29	60組(累計)	88組(累計)	100.0%					
H30	80組(累計)	100組(累計)	100.0%					
R1	100組(累計)	120組(累計)	100.0%					
R2	130組(累計)	120組(累計)	92.3%					



日野町くらし安心とづくり総合戦略 3 地域をつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その間々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標No. 3 結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかなえる

基本目標 結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかなえる  
 ○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。  
 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。  
 ○子育てでサポーター等、現状のサービスの充実や子育てに係る負担の軽減などを通して、子ども・子育て支援の充実を図ります。  
 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。

基本目標No. 2 産み育てやすい環境の充実

施策 産み育てやすい環境の充実

施策内容 安心して出産ができるように、妊婦の健康の充実と経済的負担の軽減を図ります。  
 ・不妊治療を受けている夫婦に対して治療費の一部を補助することにより経済的支援を行います。

①重要業績評価指標 (KPI)			
指標名	妊婦健診受診回数 (一人あたり)		
基準値 (H26)	12.7 回		
担当部署	福祉保健課		
	実績	目標	達成率
H27	12.8 回	12.9 回	100.0%
H28	12.8 回	12.8 回	100.0%
H29	12.9 回	12.6 回	98.0%
H30	13.0 回	13.5 回	100.0%
R1	14.0 回	13.5 回	96.1%

実施年度	内訳検証		外部検証
	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	
13年度	<p>① 全ての妊婦に対して妊婦健診の費用助成を行ないました。</p> <p>② 不妊治療を受けている夫婦に対して治療費の一部助成を行いました。</p> <p>③ そのほか、妊婦同士の交流の場をつくり、個別に助産師が相談にのり、妊婦の不安を取り除くことにより、安心して出産できるように、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてサポートを実施しました。</p> <p>④ コロナ禍での相談対応として、オンラインによる妊婦健診の実施を試みましたが、新年度開始(令和元年度開始)を実施し、保護者の費用負担の軽減を図りました。</p>	<p>・妊婦健診の費用助成と不妊治療にかかるとの負担の一部助成を行います。</p> <p>・妊婦健診から出産後にかけて、地域とのつながりづくりができる取組を進めます。</p> <p>・母子健康手帳交付時に、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてオンラインサポートを実施します。</p> <p>③ 今後も子育に関係する外部機関と連携をとり、子育てに際する不安が少しでも少なくなるよう取組を進めます。</p>	<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>
14年度	<p>① 全ての妊婦に対して妊婦健診の費用助成を行ないました。</p> <p>② 不妊治療を受けている夫婦に対して治療費の一部助成を行いました。</p> <p>③ そのほか、妊婦同士の交流の場をつくり、個別に助産師が相談にのり、妊婦の不安を取り除くことにより、安心して出産できるように、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてサポートを実施しました。</p> <p>④ コロナ禍での相談対応として、オンラインによる妊婦健診の実施を試みましたが、新年度開始(令和元年度開始)を実施し、保護者の費用負担の軽減を図りました。</p>	<p>・妊婦健診の費用助成と不妊治療にかかるとの負担の一部助成を行います。</p> <p>・妊婦健診から出産後にかけて、地域とのつながりづくりができる取組を進めます。</p> <p>・母子健康手帳交付時に、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてオンラインサポートを実施します。</p> <p>③ 今後も子育に関係する外部機関と連携をとり、子育てに際する不安が少しでも少なくなるよう取組を進めます。</p>	<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>
15年度	<p>① 全ての妊婦に対して妊婦健診の費用助成を行ないました。</p> <p>② 不妊治療を受けている夫婦に対して治療費の一部助成を行いました。</p> <p>③ そのほか、妊婦同士の交流の場をつくり、個別に助産師が相談にのり、妊婦の不安を取り除くことにより、安心して出産できるように、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてサポートを実施しました。</p> <p>④ コロナ禍での相談対応として、オンラインによる妊婦健診の実施を試みましたが、新年度開始(令和元年度開始)を実施し、保護者の費用負担の軽減を図りました。</p>	<p>・妊婦健診の費用助成と不妊治療にかかるとの負担の一部助成を行います。</p> <p>・妊婦健診から出産後にかけて、地域とのつながりづくりができる取組を進めます。</p> <p>・母子健康手帳交付時に、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてオンラインサポートを実施します。</p> <p>③ 今後も子育に関係する外部機関と連携をとり、子育てに際する不安が少しでも少なくなるよう取組を進めます。</p>	<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>
16年度	<p>① 全ての妊婦に対して妊婦健診の費用助成を行ないました。</p> <p>② 不妊治療を受けている夫婦に対して治療費の一部助成を行いました。</p> <p>③ そのほか、妊婦同士の交流の場をつくり、個別に助産師が相談にのり、妊婦の不安を取り除くことにより、安心して出産できるように、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてサポートを実施しました。</p> <p>④ コロナ禍での相談対応として、オンラインによる妊婦健診の実施を試みましたが、新年度開始(令和元年度開始)を実施し、保護者の費用負担の軽減を図りました。</p>	<p>・妊婦健診の費用助成と不妊治療にかかるとの負担の一部助成を行います。</p> <p>・妊婦健診から出産後にかけて、地域とのつながりづくりができる取組を進めます。</p> <p>・母子健康手帳交付時に、出産後のサポート状況の確認や不安、困りごと等をお聞きし、必要に応じてオンラインサポートを実施します。</p> <p>③ 今後も子育に関係する外部機関と連携をとり、子育てに際する不安が少しでも少なくなるよう取組を進めます。</p>	<p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p>

実施検証シート

日野町くらしをめぐりとづくり総合戦略

基本目標 3 地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかかえる  
 ○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。  
 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。  
 ○子育てサポートセンター等、現状のサービスの充実や子育てに依る負担の軽減などを通して、子ども・子育て支援の充実を図ります。  
 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。

実施No.	3	施策	乳幼児健診における保健指導の充実
-------	---	----	------------------

実施内容  
 ・乳幼児健診の受診を通して、出産後の母子のサポートを図ります。

指標名 基準値 H26 福祉保健課 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				達成率
	目標	実績	目標	実績	
乳幼児健診受診率	98%				
H27	98.0%	97.5%	99.5%		
H28	98.0%	97.8%	99.8%		
H29	98.0%	98.7%	100.0%		
H30	99.0%	98.5%	99.5%		
R1	100.0%	98.3%	98.3%		

指標名	内部検証		外部検証		コメント
	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果		
施策	<p>① すべての乳幼児を対象とした乳幼児健診として、4ヶ月、10ヶ月、1歳半、2歳半、3歳半健診を実施しました。時間的な制約はありますが、個別相談の中で、できるだけ丁寧な聞き取りや適切な指導が行えるよう関係者（医師、栄養士、歯科衛生士、心理士、看護師、保健師）と連携し実施しました。また、主任児童委員や子育て支援センターと連携し、子育て支援に関する情報提供を実施しました。</p> <p>② 健診を通して養育された相談事項については、経過観察を行い、必要に応じて関係機関とも連携を図り、保護者の支援を重視しました。また、関係機関との連携は、保健師の交流及び子育ての相談支援に加え、栄養士・歯科衛生士によるミニ講座を実施し、楽しい生活習慣の啓発を行いました。</p>	<p>引き続き、乳幼児健診等の機会を通じて、子育ての相談に申しこむことで、安心して子育てができていくよう支援してまいります。</p> <p>・乳幼児健診が安心して相談できる場となるよう、情報共有やカンファレンスを行い、きめ細やかな対応に努めます。</p> <p>・乳幼児健診が相談できる場所として認識され、そのことにより保護センター自体が安心して何でも相談できる場となるよう努めます。</p> <p>③ 「ハバママサロン」を「赤ちゃん広場」開館日に合わせて実施し、妊婦さんから子育てや保護者同士の交流を促し、互いに相談ができる「ハバママサロン」の活用を図ります。また「ハバママサロン」を子育ての大事な取り組みの一つとして認識してまいります。妊婦健診等に積極的に参加の機会を確保してまいります。</p>			
R2	<p>《実施していること》                  ・育児の不安や負担感を軽減するために、ハバママサロンや赤ちゃん広場、親子教室での相談支援を実施しました。コロナ感染症予防のため、遠隔実施している保護者同士の交流の機会は十分に提供できず、子育て支援センターは、少人数で参加してもらった工夫をし、広場や教室は継続して実施しました。</p> <p>④                  基本目標 基本的方向を踏まえて                  ・保護者が、子育ての不安や困ったことがあった時に家庭で抱え込まずに相談できるような、機会を確保して関係者同士のつながりをつくることにより、子育ての不安や負担を軽減してまいります。</p> <p>⑤                  《今後の課題》                  ・保護者と地域のつながりをどのようにつくるかについて、必要に応じて関係者で協議をしていく必要があります。</p> <p>《実施が困難なこと》                  ・特にありません。</p>	<p>《基本目標 基本的方向を踏まえて》                  ・保護者が、子育ての不安や困ったことがあった時に家庭で抱え込まずに相談できるような、機会を確保して関係者同士のつながりをつくることにより、子育ての不安や負担を軽減してまいります。</p> <p>⑤                  《今後の課題》                  ・保護者と地域のつながりをどのようにつくるかについて、必要に応じて関係者で協議をしていく必要があります。</p>	A	<p>・本部署は出産後の母子のサポート（健康の入り口）として、乳幼児健診の役割を担っており、健康に安心に子育てできるように努めます。健康に安心に子育てのサポートは医師に任せていただき、保健師が子育てのサポートを担うことにより、先駆的な取り組みや、多様なサポートが実現されるよう努めます。</p> <p>・「ハバママサロン」を「赤ちゃん広場」開館日に合わせて実施し、妊婦さんから子育てや保護者同士の交流を促し、互いに相談ができる「ハバママサロン」の活用を図ります。また「ハバママサロン」を子育ての大事な取り組みの一つとして認識してまいります。妊婦健診等に積極的に参加の機会を確保してまいります。</p>	

日野町くらし安心とつくり組合報告書

地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その間々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

3

基本目標  
結婚・出産・子育ての希望をみんなが支えてくれない

基本目標  
結婚・出産・子育ての希望をみんなが支えてくれない  
○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。  
○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。  
○子育てサポート等、現状のサービスに依る負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。  
○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーキング・ライフ・バランスの実現を図ります。

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

日野町くらし安心とつくり組合報告書

地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その間々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

3

基本目標  
結婚・出産・子育ての希望をみんなが支えてくれない

基本目標  
結婚・出産・子育ての希望をみんなが支えてくれない  
○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。  
○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。  
○子育てサポート等、現状のサービスに依る負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。  
○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーキング・ライフ・バランスの実現を図ります。

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

施策  
保育所の整備

4

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

3 地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標 結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかええる

- 結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。
- 出産に向けての負担の軽減を図ります。
- 子育てサポートセンター等、現状のサービスの充実や子育てに際する負担の軽減などを通して、子ども・子育て支援の充実を図ります。
- 育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。

施策No. 5 施策 子育て期間中の保護者の交流促進

施策内容 気軽に親子が集える場の提供や支援者の育成に努め、保護者および子育てサロン間の密な情報交換を図ります。

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	地域子育て支援拠点の利用者数	達成率	実績	目標	【取組状況】	【今後の取組】	⑥検証結果	コメント
H27	9,500人	100.0%	9,560人					
H28	9,700人	100.0%	9,827人					
H29	9,900人	100.0%	10,348人					
H30	10,000人	97.8%	9,775人					
R1	11,000人	88.3%	9,161人					
R2	11,000人	52.3%	5,750人		<p>地域の子育て支援情報の収集、提供に努め、子育て全般に関する専門的な支援を行う拠点（日野町地域子育て支援センター、つどいのひろばほけっと）として機能しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほけっとが移転したことにより新しい参加者が生まれ交流が広がっています。</li> <li>各公民館で活動されている子育てサロン（子育てサロン）への支援と情報提供に努めています。</li> </ul> <p>実施</p>	<p>子育て支援情報の収集、提供に努め、子育て全般に関する専門的な支援を行う拠点（日野町地域子育て支援センター、つどいのひろばほけっと）として機能するとともに既存のネットワークや子育て支援活動を行う団体等と連携しながら地域支援活動を展開します。</p>	<p>2020（R2）年は、コロナ禍で各種イベントが取りやめとなり、KPIの施設利用者数が減少しましたので、数量的検証の数値が下がりまし、その影響もあり、⑥検証結果もAからBへと下がりまし。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てサロンの維持や公民館でのサークル活動の運営に負担感を感じている人が増えているよ、支援者の育成に努め、要因を探り、支援者の育成に努めるとともに負担感の軽減を図ってください。</li> <li>④⑤において、基本目標・方向性を踏まえて、「地域のつながり」「切れ目のない支援」の視点から検証を行い、「切れ目」はどこかを明らかにすることも必要です。その点④において「困難な点」として「切れ目」を提示してあり、そのための取組みを⑤で展開されると良いです。その「切れ目」を明確にするため、その「切れ目」への支援をすすめる団体の育成、人材育成が求められます。</li> </ul>	

日野町くらし安心とづくり総合戦略

施策検証シート

地域をつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標No.	3
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなですべて支えてかなえる ○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。 ○子育てサポート等、現状のサービスの実践や子育てに際する負担の軽減などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。
実施内容	6 施策 子育て支援員の確保

・子ども・子育て支援新制度に基づく子育て支援員研修を開催し、支援の担い手となる子育て支援員の養成を図ります。

指標名	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	子育て支援員の人数	実績	目標	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント
基礎値 (H26)	0人							
担当部署	子ども支援課	実績	目標	達成率				
H27	6人	6人	100.0%		<ul style="list-style-type: none"> <li>学童保育所やファミサポ、子育てグループ等多様な機会を通じて支援員養成研修の周知を行いました。</li> <li>各公民館での子育てサロンは民生委員を中心にシルバー世代の支援も多く頂いています。その方々や保育士・幼稚園教師の退職者、またファミサポを通じて支援員を募集することによって幅広い年代からの確保を目指しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の子育て支援に力をつけて、支援員の確保は喫緊の課題です。子育てに関する多くの事業で必要でありあらゆる機会を通じて確保に努めます。</li> </ul>		
H28	12人	9人	75.0%					
H29	13人	12人	92.3%					
H30	14人	14人	100.0%					
R1	15人	15人	100.0%					
R2	18人	6人	33.3%	施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>《実施していること》</li> <li>・滋賀県が実施している各種研修に参加し、知識を習得します。</li> <li>・子育て支援員の確保を通じて子育ての負担の軽減や支援の充実につなげられるよう進めています。</li> <li>④ 《実施が困難なこと》</li> <li>・コロナ禍において充実した研修の実施ができませんでした。</li> <li>⑤ 《今後の課題》</li> <li>・研修を受けて習得した知識・技能を地域子育て支援につなげるよう進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</li> <li>・支援員養成研修の情報を広く周知し、支援員確保に努めます。</li> <li>・地域とのつながりを確保するなかで、困難な家庭の把握に努め支援につなげます。</li> <li>・支援二一ノスの把握の把握に努めます。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援員が昨年15人から6人へと減少したため、KPIの達成度が低く、⑥の評価もA-以下となりました。支援員減少の理由を②で明確に述べるべきではないでしょうか。</li> <li>・支援員の確保・養成の効果が、支援員確保の方法について、確立したものがなく、研修の周知だけしているのではないのでしょうか？</li> <li>・支援員の必要数、緊急度を明らかにし、計画的な確保・確保に努めてください。</li> <li>・高齢者のみ手近しい支援員の補助等、多様な支援の担い手を育て、確保する観点で運用上の工夫を行ってください。</li> <li>・施策が「子育て支援員の確保」なので、支援員について内部検証するに良いのですが、④⑤にあいまいな点、方向性を踏まえては基本目標・方向性を踏まえて「子育てに際する負担の軽減」を実現する補助的な支援の担い手について検討してください。支援員だけでなく他の支援のあり方（可能性）もあわせて、減らす理由を情報と取り、調査、方針検討策を考えた必要があります。</li> </ul>

地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代の出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標③

結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかえらる

○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。

○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。

○子育てサポートセンター等、現状のサービスの充実や子育てに係る負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。

○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。

実施No. 7

ファミリーサポートセンターの整備

保護者の都合により、一時的に家庭で保育できない場合の支援としてファミリーサポートセンターを整備します。

指導名 基準 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証			外部検証	
	ファミリーサポートセンターの整備数		提供登録会員数		【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント	
	目標	実績	達成率	目標					実績
H27	0 ヲ所	0 ヲ人	0.0%	0 人	0 人				
H28	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	25 人	54 人	100.0%			
H29	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	30 人	39 人	100.0%			
H30	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	35 人	46 人	100.0%			
R1	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	40 人	58 人	100.0%			
R2	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	60 人	63 人	100.0%			
実施									
<p>令和2年度、提供登録会員数が63名と子育ての協力をいただいた登録会員【協力会員】が5名増えました。また、依頼登録会員が203名と子育ての協力をしている会員【依頼会員】も増加しています。なお、協力会員と依頼会員の両方に登録している両方会員が35名ととなり依頼と協力のサイクルが生まれています。</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>基本目標を踏まえての状況</p>									
<p>《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリーサポートセンターについて、子育て世代での認知は広がっていますが、子育て世代で一段落ついた世代への認知は浸透していません。そのため、より多くの世代への認知の確保を行うために広報に努めています。</li> <li>協会が増えることで地域のつながりが生まれています。地域のつながりが子育て支援への協力関係に変われるよう努めます。</li> </ul> <p>④</p> <p>《実施が困難なこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協会の協力を内容が保育園の送迎など、単純な内容が多く、預かり業務等が少ない状況です。</li> </ul>									
<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てが一段落ついた世代へのファミリーサポートセンター運動の周知や活動の拡充を図ることに努めます。</li> <li>有識ボランティア活動や子育て支援の充実を図ります。</li> <li>協力会員や依頼会員が増えることで子育て支援の充実を図ります。</li> </ul> <p>⑤</p> <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後ますます多様化すると思われる依頼会員からの要望に答えたいです。</li> <li>協会の子どもも増えるよう、依頼会員と協力会員の言葉の壁を取り除けるよう、協力会員においでも外国籍の方を確保する必要がありま</li> </ul>									
<p>ファミリーサポートセンターを地域の子育ての拠点として、地域の皆さんが集える場となるよう努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリーサポートセンターに集まる子育てに関する情報を活かし他の子育て支援施設団体との情報共有を進めます。</li> </ul> <p>⑥</p> <p>ファミリーサポートセンターを、運営も軌道に乗ったと評価します。昨年の外部検証コメントを参考に、ファミリーサポートの可能性について検討してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>依頼会員が協力会員に支援を依頼する機会、ひとりの親家庭への利用料金減免制度があります。コニヤクによるコニヤク会員の登録はありますが、課題も多いと感じます。</li> <li>制度があっても言語や経済的な理由で制度を利用できないケースがあると考えられ、制度を充実させることと共に制度を利用しやすくすることが必要です。</li> </ul>									

日野町くらし安心とづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	地域つながりが深める中で、結婚から子育てまで、その間々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。		
		基本目標	達成状況	
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなが支え合える	○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。 ○子育てサポート等、現状のサービスに依る負担の軽減などを通して、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーキング・ライフ・バランスの実現を図ります。		
基本的方向				
施策No.	8	施策	交流できる場の充実	
施策内容			<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の公園や施設等を活用し、親子や多世代が交流できる場を整備します。</li> </ul>	
指標名	①重要業績評価指標 (KPI)			
基準値 (H26)	0 ヲ所	実績	達成率	
担当部署	関係課	目標	実績	
H27	0 ヲ所	0 ヲ所	0.0%	
H28	0 ヲ所	0 ヲ所	0.0%	
H29	0 ヲ所	0 ヲ所	0.0%	
H30	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	
R1	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	
R2	1 ヲ所	1 ヲ所	100.0%	
指標説明	交流できる場の整備数	実績	達成率	
⑥検証結果	【今後の取り組み】	【取り組み状況】	外部検証 コメント	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度に整備した女性活躍支援施設における、つどいのひろば「ほけっこ」では、子どもの年齢に応じた各種イベントの実施等、親子の交流を深める機会を提供しました。</li> <li>女性活躍支援施設「ほけっこ」において、子育て女性の就労支援として、セミナーや個別相談を実施したり、ハローワークの求人情報を閲覧できるようにしています。</li> <li>健康診断等の機会に、健康づくりと合わせ、松尾公園若生広場にウォーキングコース、健康遊具等の活用についてPRするパンフレットを配布することにも、町のホームページでもPRし、幅広い世代に対して周知を図りました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ほけっこ」や松尾公園若生広場が、親子の交流を深める場に加え、多世代が交流する場となるよう、子育て世代と地域の団体となき、交流が広がるような仕掛けづくりに努めます。</li> <li>「ほけっこ」や松尾公園若生広場が、誰もが利用しやすい場所となるよう、既存の団体等とともに、多様な活用により、既存の団体等と他の団体等との交流が進み、仲間づくりにつながるよう、関係課と連携を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標③において、公共（行政）がニーズの把握が十分に出来ていないので、行政の関係課連携も出来ず、施策も打ち出せていないように見受けられます。</li> <li>交流の行事については、地域やサークル等住民側に主導的に立案・実施してもらいます。</li> <li>施設整備が完了するとKPIが100%達成となり、A評価を取りやすくなります。むしろ大切なのは運用であり、その部分の動きや成果をあらわすKPIの設定が必要でです。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>《実施していること》</li> <li>松尾公園若生広場に整備し遊具を設置したことで、多くの子育て世代が利用し、子育てに対する希望が持てる場面が体感できず、子育てに対する希望が持てる。</li> <li>平成30年度に松尾公園若生広場にウォーキングコース、健康遊具等の整備したことを受け、「健康でー」を創出し、健康推進員が各地域で健康を推進して体を動かす取り組みを広げられるよう、周知を図るイベントを実施しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</li> <li>つどいのひろば「ほけっこ」と松尾公園若生広場の活用を機に、まちのあらゆるところで多世代の交流が生まれ、地域のつながりが深まり、子育て世代に寄り添った取り組みが実現する。</li> <li>健康でーを創出し、健康推進員が各地域で健康を推進して体を動かす取り組みを広げられるよう、周知を図るイベントを実施しました。</li> <li>《今後の課題》</li> <li>多世代交流についてのニーズの把握が曖昧なことにより、関係課の連携に足りなく、住民主体のプログラムを編み立てていくことができていません。親子や多世代を対象とした取組からニーズを掘り起こし、関係課との連携により、住民主体のプログラムの構築に努め、実行していくことが必要です。</li> </ul>	

施策検証シート

日野町くらしを心りとづくり総合戦略 3 地域をつなかりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標	3
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかなえる
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚に向けて男女の出会いの場の創出を図ります。</li> <li>○出産に向けて負担の軽減により支援の充実を図ります。</li> <li>○子育てサポート等、現状のサービスの充実や子育てに係る負担の軽減などを通して、子ども・子育て支援の充実を図ります。</li> <li>○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。</li> </ul>

施策No.	9	施策	福祉医療制度の実施
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子ども安心して医療を受けられるよう、福祉医療費制度を実施します。</li> </ul>		

指標名 基準値 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	対象範囲	実績	達成率	目標	【今後の取組】	◎検証結果	コメント	
H27	小学6年生	小学6年生	100.0%					
H28	中学3年生	中学3年生	100.0%					
H29	中学3年生	中学3年生	100.0%					
H30	中学3年生	中学3年生	100.0%					
R1	中学3年生	中学3年生	100.0%		<p>小学1年生から中学3年生までの児童・生徒を対象に、医療診療を受けた際の自己負担分の助成を行いました。(所得制限なし、通院入院とも：自己負担無)</p> <p>② 施策</p> <p>③ 小中学生を対象とする福祉医療費助成事業は、市町単独事業で実施しているため、県内市町の多くが中学校卒業までの医療費助成を実施している中、自給一の制度として実施できないうかがい必要を願う。また、引き続き県内市町の動向と、町の取組状況を踏みながら、他の子育て支援施策を含め、施策間のバランスを図りながら、制度の充実について調査・研究をしていきたい。</p> <p>【中学生以上の子どもにかかる何らかの医療費助成を実施している市町(令和2年度現任)】 11市町/19市町</p>			
R2	中学3年生	中学3年生	100.0%	<p>《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・子育て支援の充実を図るための施策として、対象範囲を中学3年生までの医療費助成を実施しています。</li> <li>《実施できていないこと》</li> <li>・特にありません。</li> <li>・特にありません。</li> </ul> <p>④ 基本目標、基本的方向の状況</p>	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の経済的負担の軽減を図り、子どもの安心して医療を受けられるよう、引き続ききり物給付による福祉医療費の助成制度を継続して実施します。</li> </ul> <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の生活を支援するため、福祉医療費の助成制度などの経済的な支援の充実に向けて取り組むこと、安心して子どもを産み育てることができるまちとして、多様な子どもや子育て世代に対して切れ目のない支援を継続していく必要があると認識しております。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学3年生までの医療診療の自己負担の軽減を確立しています。</li> <li>・中学以上の未成年の医療費助成の充実について、引き続き調査・研究を行い、制度の充実を図ってまいります。</li> <li>・基本目標③のポイントは、子育てする親(保護者)の視点から見て子育て環境と自らの安心して生きていける生活の基礎環境を作る視点も盛り込んでまいります。</li> <li>・昨年のコメントにも経済的支援だけでなく子育てと負担軽減を両立していただくこと、子どもが安心して育つための環境づくりを、引き続き取り組んでまいります。</li> <li>・支援の充実については、引き続き調査・研究を続けてまいります。</li> </ul>	



日野町くらし安心りとづくり総合戦略 実施検証シート

日野町くらし安心りとづくり総合戦略 地域をつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その階段のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標No.	3	結婚・出産・子育ての希望をみんなが支えてかなえる ○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。 ○出産に向けての負担の軽減により支援の実現を図ります。 ○子育てでサポート等、現状のサービスに依る負担の軽減などを通して、子ども・子育て支援の実現を図ります。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。
実施No.	10	障がい児の支援の実現

実施内容 • 保育所に通園している子どもの支援を療育施設の心理士などが、保育所の保育士とともに支援を行います。

①重要業績評価指標 (KPI)			内部検証		外部検証	
指標名	訪問児童数	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント
事業価値 (H26)	0人					
担当部署	福祉保健課					
目標	実績	達成率	目標	実績		
H27	0人(累計)	0.0%				
H28	60人(累計)	5.0%				
H29	80人(累計)	5.0%				
H30	100人(累計)	100.0%				
R1	120人(累計)	100.0%				
R2	270人(累計)	288人(累計)	100.0%			
					A	

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 3 施策検証シート 地域域のつながりやを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標No.	3
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなが支えかねる ○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。 ○子育てサポート等、現状のサービスの充実や子育てに際する負担の軽減などを通じて、ワグ・ライフ・ハランスの実現を図ります。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワグ・ライフ・ハランスの実現を図ります。
実施No.	11
施策	子どもの読書活動推進

実施内容  
・保護者やボランティア、地域住民が連携し、子どもの成長段階に合わせた読書活動を推進します。

指標名	①重要業績評価指標 (KPI1)				内部検証		外部検証	
	実施校数	読出数 (住民100人あたり)	達成率	実績	【取組状況】	【今後の取組】	⑤検証結果	コメント
基礎情報 (H26)	6校	852冊						
担当部署	図書館	図書館	達成率	実績	目標	実績	達成率	
H27	6校	852冊	100.0%	867冊				
H28	6校	950冊	100.0%	839冊				
H29	6校	1,050冊	100.0%	848冊				
H30	6校	1,200冊	100.0%	805冊				
R1	6校	1,300冊	100.0%	737冊				
R2	6校	1,300冊	100.0%	740冊				
施策					<p>① 市内のすべての小中学校に学校司書室を派遣し、先生方と協力し児童生徒が読書に親しむよう環境整備を行っている。また、学校と連携し、新一年生向け図書館利用案内および児童図書や児童書、幼児園や保育園、こども園では、絵本の読み聞かせが行われ、定期的に移動図書館が訪問し、園児たちが多くの絵本に出会う機会を提供しています。</p> <p>② 多くの絵本や児童書、こども園、小中学校では家族との読書の時間を共有する「ファミリー・読書」が定期的に実施されています。</p> <p>③ 乳幼児向けの絵本コーナーを設置し、定期的に子どもと保護者向けのおはなし会を実施しています。</p> <p>④ 子育て中の保護者にもゆつくり図書館を利用できるように、子育て支援センターの協力で託児サービスを実施しています。</p> <p>⑤ つどいのひろば「ほけっと」に絵本を設置し、定期的に「実施していること」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 託児サービスの子育て支援センターの協力で毎月2回実施しています。</li> <li>・ 幼児園や保育園、こども園を訪問して絵本等の貸出をする移動図書館は好評を得ています。より多くの利用を促進するため、絵本を随時、新しくしています。</li> <li>・ つどいのひろば「ほけっと」や保健センターに絵本、童書、児童支援等の本を設置し、施設を利用する方々へ随時提供しています。</li> <li>・ 読み聞かせなど（読み聞かせなど）</li> <li>・ 絵本が読めない子どもや保護者に参加する人を増やすことができていません。</li> <li>・ 全体的に本の貸出が減少傾向にあり、また感染症の影響により幼児園や保育園での移動図書館の利用も減っています。</li> <li>・ 実施が困難なこと</li> <li>・ 特にありません。</li> </ul>	<p>・ 市内のすべての小中学校に学校司書室を派遣しているが、学校司書が複数学校を兼務しており、子ども達がいづれ学校図書室に行っても学校司書が対応できないようにするため、専任の学校司書がいない校数を増やす動きを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の授業等で学校図書館をもっと活用する、本を全く読まない子どもを減らすための働きかけや、子どもたちが情報リテラシーを身につける機会を増やします。</li> <li>・ 中高校生の年代に对し、生涯にわたり図書館を利用する動機となる働きかけを行います。</li> <li>・ 読み聞かせなどのボランティア活動に参加する人を増やし、スキルアップする機会を提供します。</li> <li>・ つどいのひろば「ほけっと」だけでなく子育てサロン、子育て支援センターの協力で託児サービスを実施し、本や必要な情報に接する機会を増やします。</li> </ul>	<p>・ 基本目標③の設定内容は、親（保護者）が子育てする環境をつくる視点となっていますが、子ども自身、親自身の成長を支える視点も成した方がよいかもしれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年のコメントを踏まえて「生涯にわたる読書」の視点から「高校生の働きかけを行う」などした点で「今後の課題」として、明確に認識した点は評価しています。</li> <li>・ ⑤における「今後の課題」を解消するために、引き続き調査・研究を行い、改善を図っていただきます。</li> </ul>	

白野町くらし安心とづくり総合戦略

基本目標No.	3	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その間々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまをさせます。
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで作って支えたい	
基本目標	結婚に向けて男女の出会いの場の創出を図ります。	
基本目標	○結婚に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。	
基本目標	○子育てでサポーター等、現状のサービスに依る負担の軽減を図ります。	
基本目標	○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。	

施策No.	12	働きやすい職場環境の推進
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業訪問等の機会を通じて、男女の雇用機会均等、ワーク・ライフ・バランス等の啓発により、誰もが働きやすい職場環境づくりを推進します。</li> <li>農林商工自営業者について、関係団体・機関と連携し、経営や方針決定過程への女性の参画拡大の啓発を実施します。</li> </ul>	

指標名	①重要業績評価指標 (KPI)			内部検証		外部検証		
	目標	実績	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント	
基本目標 (H26)	43.4 %							
担当部署	商工観光課	目標	達成率	実績	達成率			
H27	43.4 %	43.4 %	100.0%					
H28	45.0 %	46.2 %	100.0%					
H29	47.0 %	43.3 %	92.1%					
H30	49.0 %	45.8 %	93.5%					
R1	50.0 %	47.8 %	95.6%					
R2	50.0 %	55.7 %	100.0%					
				<p>① 商工会と連携して企業懇話会や企業訪問の際に、働き方改革や女性活躍推進法、ワーク・ライフ・バランス、障がい者雇用等の啓発を行い、誰もが働きやすい職場環境づくりの推進に努めます。</p> <p>② 町内企業の有給休暇取得率の向上や育児休業の促進、障がい者雇用の取組についてヒアリング調査を実施しました。</p> <p>③ 農村女性グループの自主的な活動のサポートを行います。</p>	<p>④ 働き方改革や女性活躍推進法、ワーク・ライフ・バランス等の啓発を行い、誰もが働きやすい職場環境づくりの推進に努めます。</p> <p>⑤ 農林商工自営業者について、関係団体・機関と連携し、経営や方針決定過程への女性の参画拡大の啓発を実施します。</p>	<p>・引き継ぎ企業懇話会や企業訪問、労働講座・人材研修等の機会を通じて、働き方改革や女性活躍推進法、ワーク・ライフ・バランス、誰もが働きやすい職場環境づくり等について啓発を行います。</p> <p>・特に、育休・産休や育児中の短時間休暇制度など、女性が働き続けられる職場環境づくりの取組について企業に働きかけを行います。</p> <p>・また、有給休暇取得率の向上や障がい者雇用の取組についても重点をおきます。</p> <p>・社内企業の人権研修等との連携に努めます。</p>	<p>・引き継ぎ企業懇話会や企業訪問、労働講座・人材研修等の機会を通じて、働き方改革や女性活躍推進法、ワーク・ライフ・バランス、誰もが働きやすい職場環境づくり等について啓発を行います。</p> <p>・特に、育休・産休や育児中の短時間休暇制度など、女性が働き続けられる職場環境づくりの取組について企業に働きかけを行います。</p> <p>・また、有給休暇取得率の向上や障がい者雇用の取組についても重点をおきます。</p> <p>・社内企業の人権研修等との連携に努めます。</p>	<p>・3-12「働きやすい職場環境の推進」が基本目標③「結婚・出産子育ての希望をみんなで作って支えたい」の中にある数値を再確認し、施策を工夫し、改善を図ります。</p> <p>・女性の就業促進に努めていることは良く分かりましたが、施策内容の「産休や方針決定過程への女性の参画拡大」が行われていないのではじめています。</p> <p>「産休や方針決定過程への女性の参画拡大」の進展を測る方法を検討するなど、施策の実施と効果測定の研究が必要です。</p> <p>・KPIが有給休暇率になっていますが、有給休暇以外にも育児時間など、子育てに関わる指標を設定する必要があります。</p> <p>・家族経営の農業分野以外にも性別に関わらず女性でも経営者等に参画できるように啓発、施策、効果測定の研究に取り組んでください。</p>

A

施策検証シート

日野町くらしをめぐりづくり総合戦略  
 基本目標No. 3  
 地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。

基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかなえる
基本内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。</li> <li>出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。</li> <li>子育てサポートターナー等、現状のサービスの充実や子育てに係る負担の軽減などを図ります。</li> <li>育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを図ります。</li> </ul>
施策No.	13
施策	学童保育所の整備

施策内容  
 ・保育ニーズの多様化に対応するため、地域ボランティアなど幅広い人材の確保・育成に努め、児童福祉の推進体制の確立を図ります。

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	◎検証結果	コメント
H27	6ヶ所	6ヶ所	100.0%					
H28	7ヶ所	7ヶ所	100.0%					
H29	7ヶ所	7ヶ所	100.0%					
H30	7ヶ所	9ヶ所	100.0%					
R1	8ヶ所	9ヶ所	100.0%					
R2	9ヶ所	9ヶ所	100.0%				A	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な保育ニーズへの対応のために幅広い人材の確保・育成に努めてください。そうした人材の確保・人材が学童サービスをつくり、そこにいた学童が高校生になって、ボランティア・アルバイト等様々な形で担い手になってくれるでしょう。また学童保護者がボランティア・アルバイト・支援者等様々な形で担い手になってもらえるよう工夫を行ってください。</li> <li>学童出身の高校生・大学生が学童でアルバイトをしていることは、大きな価値と喜びがあるため大きく評価できます。学童所属の児童の居場所がアルバイトをしている場合もあり身近な存在として、児童が将来自分もできるアルバイトをしようとするモチベーションになります。</li> <li>学童職員、学生アルバイト、学童指導員という多世代の交流の場となり、縦のつながりができまします。学童のアルバイトは、他に聞かれる人材です。採用につく成していくべきです。また、このつながりや交流を他団体にこのためではなく、広げたいことを考えるべきです。</li> </ul>
				②	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後、保護者が不在となる小学校児童に適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を推進しています。</li> <li>学童支援員のキャリアアップ研修会への参加を促進し、資質の向上を図る取組を行いました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>町内全ての学童保育所を一つのNPO法人が運営していることから、ひきつぎ連携を図りながら施設の整備・運営を支援していきます。</li> <li>要保護 進歩保護の児童に対する保育料の減免措置を単独で引き続き実施します。</li> </ul>
				③				
				④	<ul style="list-style-type: none"> <li>《実施していること》</li> <li>施設の老朽化が進んでいた西大路小学校区の学童保育所については、西大路小学校の空き教室を改修し、学童保育所に転用しました。</li> <li>コロナ禍による小学校休校中においても、開所して多くの児童の受け入れを行いました。また、昼食については地元飲食店のお弁当を発注し、地域経済に貢献しました。</li> <li>現在高校生・大学生がアルバイトで支援員(現在8名)となり、人材確保と担い手育成に取り組んでいます。</li> <li>《実施が困難なこと》</li> <li>コロナ禍において保護者研修の実施ができず、</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</li> <li>学童保育所の管理運営補助を実施すると共に、研修会を実施し支援員の資質向上に努めます。</li> <li>学童保育所を充実することで、家庭支援につながるプログラムやイベントの実現を図ります。</li> <li>《今後の課題》</li> <li>学童保育所のニーズが増える中、待機児童を出さない取組として小学校空教室の活用など研究します。</li> <li>多様な学童保育ニーズへの対応するために学童出身高校生・大学生アルバイトを積極的に活用いただける場を作り出す。また、経路を確保して保育職や教員へのなり手になって地域内で活躍いただく人材育成に取り組んでいきます。</li> <li>支援員と保護者による研修をすすめる、より良い子育てについて考える機会を作っていくべきです。</li> </ul>	



施策検証シート

日野町くらしをめぐりづくり総合戦略

基本目標No.	3	地域をつなかりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。
基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかかえる	
基本目標方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。</li> <li>○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。</li> <li>○子育てサポートセンター等、現状のサービスの充実や子育てに依る負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。</li> <li>○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。</li> </ul>	
施策No.	15	奨学金制度の充実

実施内容  
 ・経済的理由により就学が困難な子どもへの支援のため、日野町奨学金制度の充実を図ります。

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	目標	実績	達成率	目標	実績	【今後の取組】	⑥検証結果	コメント
H27	6人	6人	100.0%					
H28	8人	3人	37.5%					
H29	10人	4人	40.0%					
H30	12人	4人	33.3%					
R1	15人	2人	13.3%					
R2	15人	2人	13.3%					

Table with 2 columns: 基本目標 (Basic Objectives), 4 (Implementation Details), and 5 (Implementation Details). Content includes 'くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる' and '地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します'.

①重要業績評価指標 (KPI)
1 施策 進取のまちの推進
・地域住民による自主的なまちづくりを進めるため、課題解決のための集落点検と地味計画づくりを促進するとともに支援します。

Table with 3 columns: 指標名 (Indicator Name), 達成率 (Achievement Rate), 進取のまちの推進 (Implementation). Rows include 'まちづくり計画の策定自治会数' and '企業源懇談'.

Table with 3 columns: 実施 (Implementation), 取得状況 (Acquisition Status), and 今後の取り組み (Future Initiatives). Contains a detailed paragraph about the 'まちづくり計画の策定' (Municipality Plan Formulation) process.

Table with 3 columns: 結果 (Results), 外部検証 (External Verification), and コメント (Comments). Includes a large block of text starting with '「進取の手おりの推進」において...'.





日野町くらし安心りとづくり総合戦略

施策検証シート

基本目標①	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちを築いていく。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を待機発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標②	3	ポランティア団体の組織化の促進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民活動のリーダー育成やボランティアの組織化を図ります。</li> </ul>
------	--

指標名	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
	ボランティア団体の登録数	実績	目標	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント
基礎値 (H26)	16 団体							
担当部署	福祉保健課	実績	目標	達成率				
H27	16 団体	16 団体	100.0%					
H28	16 団体	16 団体	100.0%					
H29	16 団体	15 団体	93.8%					
H30	16 団体	16 団体	100.0%					
R1	16 団体	16 団体	100.0%					
R2	16 団体	20 団体	100.0%		<p>②</p> <p>ポランティアの組織の拡大、強化のため、ポランティア連絡協議会において団体のPRを実施しました。また、団体の活動を紹介するポスターやチラシを作成し、活動の啓発に努めました。</p>	<p>ポランティアセンターの登録団体およびポランティア連絡協議会の加入団体の活動がしやすくなるよう、活動拠点となる勤労福祉会館の使用料を減免することとします。</p>	A	<p>・ポランティア団体が4団体増えたことは評価します。また、活動支援のために勤労福祉会館の使用料減免をしたことを高く評価します。</p> <p>・4-3では「ポランティアの組織化を図ります」となっていますが、②の内部検証では、PR、啓発にとまっています。③に身寄ります。十分な取組み、だいたと言えるところが、④は②、⑤は③に入れても良い内容にも見えます。</p> <p>・④⑤は、基本目標、基本的方向性を踏まえての検証を行うものであり、②③とは違うことを理解してください。</p> <p>・日野町は、自治会活動が活発ですが、自治会活動参加者の年齢層の偏りが生じるなど課題もあられます。4-1での「進取のポランティア団体」を育てる観点からポランティア団体を育てる積極的な施策を工夫し、取組んでください。NPO・ボランティア団体を育てる補助金制度を導入するなど政策に幅を持たせてください。</p> <p>・前年度の外部検証を踏んでから施策の立案に際して、内部から施策の検証を実施改善のヒント・契機とするように努めてください。</p>
					<p>③</p> <p>《実施していること》                      ・ポランティアに理解を深めてもらい、ポランティア団体を増加させました。                      《実施できていないこと》                      ・個人ポランティアの活動支援ができていません。</p>	<p>《基本目標、基本的方向性を踏まえて》                      ・ポランティア活動の楽しさ、やりがいを感得してもらおう機会を増やすため、小・中・高等学校や大学と連携して取り組める事業の開始に努めます。</p> <p>《今後の課題》                      ・個人の得意な事や好きな活動でポランティアができるよう、個人登録のポランティアが活動しやすい仕組みづくりをすることが重要です。</p>		
					<p>④</p> <p>《基本目標、基本的方向性を踏まえて》                      ・ポランティアの活動を支援し、活動の場を提供。</p>			



白野町くらし安心りとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標	4	家族での多きずなはもとより、地域での人と人とのつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちを築き、取り組み、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標	5	異分野・多世代交流の創出

基本目標  
くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる  
○地域での人と人とのつながり（きずな）を築くため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。  
○人と場所の機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。  
○住民主体の出会いの場をつくり、地域に響きあぐり、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持つ取り組みをつくり、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組み、取り組んでいくまちをめざします。

基本目標  
くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる  
○地域での人と人とのつながり（きずな）を築くため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。  
○人と場所の機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。  
○住民主体の出会いの場をつくり、地域に響きあぐり、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持つ取り組みをつくり、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組み、取り組んでいくまちをめざします。

基本目標  
くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる  
○地域での人と人とのつながり（きずな）を築くため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。  
○人と場所の機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。  
○住民主体の出会いの場をつくり、地域に響きあぐり、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持つ取り組みをつくり、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組み、取り組んでいくまちをめざします。

指標名	①重要業績評価指標（KPI）			内部検証		外部検証	
	0 事業	1 事業	2 事業	【取組状況】	【今後の取組】	⑥検証結果	コメント
担当事務	生涯学習課	生涯学習課	生涯学習課				
H27	0 事業	0.0%					
H28	1 事業	100.0%					
H29	3 事業	33.3%					
H30	4 事業	25.0%					
R1	5 事業	20.0%					

実施内容	・公民館の行事や講座などに、公サポーター（興味のある人）の参画を募り、行事や講座の企画段階から関わりを持つことで、地域の中分野や世代を越えた人と人をつなぐ仕組みづくりに取り組めます。
指標	公民館サポーター活用数 0 事業 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課
達成率	0.0% 100.0% 33.3% 25.0% 20.0%
実施	各地区公民館では、実行委員会による事業だけでなく、公民館主催の多様な事業開催により、住民の社会活動への参画と交流を図る活動を展開しています。 ・誰もが気軽に立ち寄れる公民館を目指し、事業展開だけでなく、施設内の空間づくりも推進しています。 ・中央公民館主催の町民大学講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。
検証結果	① ② ③ ④ ⑤
コメント	・事業内容の工夫や、施設内のレイアウトの見直しなど、誰もが気軽に立ち寄れる公民館づくりを取り組まれます。 ・実行委員会制度を活かし、地域の事業や仲間と共に創る関係性を醸成することで、地域人材の交流促進を図ります。 ・地域の課題解決のための講座や学習会を開催し、持続可能な地域づくりを考える取り組みを進めます。

施策検証シート

日野くらしをゆりごとくづくり総合戦略

基本目標	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり(きずな)を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標	4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
基本目標	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域での人と人のつながり(きずな)を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。</li> <li>○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を有効活用します。</li> <li>○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らす人同士の「おたがいきま」の助け合い、自らの「自働」を持ち寄り、生きがいを持てる仕組みをつくり出します。</li> <li>○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあうなど、地域のコミュニティ活動を支援します。</li> <li>○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。</li> </ul>

施策No.	6	施策	学びの機会の充実
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしや地域のさまざまな課題が話しあえる学習機会の充実を図ります。</li> <li>・公民館事業の企画・立案に幅広い層が参加する仕組みづくりを進めるとともに、子どもたちの公民館活動、地域行事への参加を促進します。</li> <li>・様々なライフステージの助けとなる本を図書館で貸出すとともに、レファレンスサービスにより情報を提供することで、学び続けることを支援します。</li> </ul>		

指標名 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証			
	1人あたりの公民館の利用回数	3.93回	326冊	レファレンスサービス受付件数	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント			
1,491人	生涯学習課	目標	達成率	実績	目標	達成率				
H27	1,500人(累計)	2,228人(累計)	100.0%	4.14回	3.91回	94.4%	418冊	865冊	100.0%	
H28	2,400人(累計)	4,097人(累計)	100.0%	4.35回	3.96回	91.0%	550冊	1,183冊	100.0%	
H29	4,800人(累計)	6,018人(累計)	100.0%	4.57回	3.58回	78.3%	1,300冊	962冊	74.0%	
H30	7,200人(累計)	7,804人(累計)	100.0%	4.78回	3.35回	70.1%	1,500冊	1,067冊	71.1%	
R1	10,000人(累計)	9,096人(累計)	91.0%	5.00回	4.04回	80.8%	1,500冊	1,100冊	73.3%	
R2	12,000人(累計)	9,721人(累計)	81.0%	5.00回	2.34回	46.8%	1,500冊	1,120冊	74.7%	
										<p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度はコロナ禍で学際や公民館事業を実施するのが困難でした。R3年度もワークシ ン連携が進まない限り、例年通りの事業を重 施するのは難しい状況です。まずは感染拡 大防止の対策を行い、工夫しながら事業が実 施できるように呼びかけます。(生涯学習課)</li> <li>・レファレンスサービス等により、回覧例や ハズアライアメントなどを実施していきま す。</li> <li>・住民の暮らしの暮らしに必要とする本や情報 を提供できるように幅広い資料の収集に努めま す。</li> <li>・外国語を母国語とする住民に対応した資料 の充実を図ります。(図書館)</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度はコロナ禍で学際や公民館事業を 実施するのが困難でした。R3年度もワーク ン連携が進まない限り、例年通りの事業を重 施するのは難しい状況です。まずは感染拡 大防止の対策を行い、工夫しながら事業が実 施できるように呼びかけます。(生涯学習課)</li> <li>・レファレンスサービス等により、回覧例や ハズアライアメントなどを実施していきま す。</li> <li>・住民の暮らしの暮らしに必要とする本や情報 を提供できるように幅広い資料の収集に努めま す。</li> <li>・外国語を母国語とする住民に対応した資料 の充実を図ります。(図書館)</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度はコロナ禍で学際や公民館事業を 実施するのが困難でした。R3年度もワーク ン連携が進まない限り、例年通りの事業を重 施するのは難しい状況です。まずは感染拡 大防止の対策を行い、工夫しながら事業が実 施できるように呼びかけます。(生涯学習課)</li> <li>・レファレンスサービス等により、回覧例や ハズアライアメントなどを実施していきま す。</li> <li>・住民の暮らしの暮らしに必要とする本や情報 を提供できるように幅広い資料の収集に努めま す。</li> <li>・外国語を母国語とする住民に対応した資料 の充実を図ります。(図書館)</li> </ul>

日野町くらし安心りとづくり総合戦略

基本目標①	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人とのつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちを築き、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標		くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
基本目標		○地域での人とのつながり（きずな）を築くため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。 ○人と場所との機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。 ○住民主体の出会いの場をつくり、地域に響かず人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持つ取り組みをつくります。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。
施策No.	7	農林業を活かした中間就労の創出

施策内容  
 ・地域資源である農林業で、一般就労が困難な人を結びつづけることにより、中間就労の場を創出します。

指標名	①重要業績評価指標（KPI）				外部検証
	中間就労の場	実績	目標	達成率	
就業個数（H26）	0ヶ所				⑥検証結果
担当部署	農林課・福祉保健課	実績	目標	達成率	
H27	0ヶ所	0ヶ所	0.0%		【今後の取り組み】 ・お米のブランド化により拡大した販路を活用し、地域の方との共同による米作りを取り組んでいきます。 ・小学校が取り組んでいる学校田からも、「米・食味分析鑑定コンクール」の小学校の部を目標とする。地域と一緒に取り組める活動を推進していきます。 ・おいしいお米を使った加工品の普及にも取り組めます。 ・第6次総合計画の策定を機に、木製名札に続いてSDGsのバッジを作成し、間伐材を活用した商品の普及促進を図ります。名札やバッジを宣伝材料の1つとして位置付け、日野産木材の活用を促ることで、中間就労の受け皿確保を図ります。
H28	1ヶ所	0ヶ所	0.0%		
H29	1ヶ所	1ヶ所	100.0%		
H30	2ヶ所	2ヶ所	100.0%		
R1	3ヶ所	3ヶ所	100.0%		
R2	3ヶ所	3ヶ所	100.0%		・H31の「グローバルGAP」取得に続き、食味分析鑑定コンクールで金賞を受賞と中間就労の農産物の品質の向上に向けた取組を高く評価します。 ・小学校の学校田の米もコンクールに挑戦することでも、日野町の得点を高めます。金賞受賞を高く評価することにより、中間就労の農産物の品質の向上に向けた取組を高く評価します。 ・お米のブランド化により拡大した販路を活用し、地域の方との共同による米作りを取り組んでいきます。 ・小学校が取り組んでいる学校田からも、「米・食味分析鑑定コンクール」の小学校の部を目標とする。地域と一緒に取り組める活動を推進していきます。 ・おいしいお米を使った加工品の普及にも取り組めます。 ・第6次総合計画の策定を機に、木製名札に続いてSDGsのバッジを作成し、間伐材を活用した商品の普及促進を図ります。名札やバッジを宣伝材料の1つとして位置付け、日野産木材の活用を促ることで、中間就労の受け皿確保を図ります。
					・町内の作業所で、農業を通じて中間就労の一歩手前のステップとなる活動を行っており、地域とともに「美味しいお米で創るまちづくりへの挑戦プロジェクト」に取り組む中で、平成30年度に近畿農政局の「近畿ティスカパー農山漁村の宝」を授賞、平成31年度には国際認定規格の「グローバルGAP」を取得したことに続き、今年度は国内外で最大のお米のコンクールとなる「米・食味分析鑑定コンクール」で最高賞の金賞を受賞しました。 ・働き・暮らし応援センターを通じて、専攻りや獣害防止策の設置、薪割り等、地域の困りごとをマッチングしながら、中間的就労事業に繋げていきます。
					《実施していること》 ・金賞を受賞したお米については、高額で買い取るという申し出も複数ありましたが、一度性の利益よりも施策として継続していきけるよう、町内の幼稚園・小学校の給食に活用してもらうことで、日野の農業に興味を持ってもらう学習の機会としました。 ・間伐材の取集や加工で中間就労の場を確保することにも、町においても紙や木製名札の活用に取り組んでいます。 《実施できていないこと》 ・ひきこもっていても現状で困らない人が多く、森島が困難なこと、また、家族も含めて困りの感がない、発見できずしてご相談に結び付けられない現状があります。
					《基本目標、基本的方向を踏まえて》 ・地域と連携した取り組みを進めることで、高齢者や障害者の拡大を防ぐとともに、安全で持続可能な農業を実現していきます。 ・様々な制度を活用することで設備整備が比較的容易な社会福祉法人のメリットを活かし、地域と連携した6次産業の開拓にも取り組めます。 ・開拓することに取り組んでいきます。 《今後の課題》 ・米以外での農福連携を検討 ・6次産業の取り組み

日野町くらし安心のつくりかた

施策検証シート

基本目標№	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。</li> <li>○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を擁護します。</li> <li>○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らしやすさをもたらす。</li> <li>○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあうなど、地域のコミュニティ活動を支援します。</li> <li>○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。</li> </ul>	

実施期	8	施策	障がい者の就労促進
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人が、自分らしくいきいきと暮らせるよう就労を支援します。</li> </ul>		

①重要業績評価指標 (KPI)			
指標名	目標	実績	達成率
働き暮らし応援センター利用者登録者数	82人		
福祉保健課	目標	実績	達成率
H27	82人	105人	100.0%
H28	90人	117人	100.0%
H29	100人	132人	100.0%
H30	110人	135人	100.0%
R1	120人	138人	100.0%

指標名	内部検証			外部検証	
	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント	
H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者雇用促進に主眼を置いて、企業と支援機関等が共同で雇用の現状や課題を共有するため「いしおしアワード」を開催しています。</li> <li>・働き暮らし応援センターの職場訪問や「いしおしアワード」を通じて、協力事業所（企業）を相手取りの取り組みを行っています。</li> <li>・事業所（企業）の障がい者理解を促進するとともに、雇用に関するケースについては、フォロー体制を整えることで就労の継続に取り組んでいます。</li> <li>・高効率化を通じて就労後もフォローを必要とする生徒を把握し、本人や家族と事前に繋がりを作っておくことで、引きこもりの未然防止に努めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業支援については、企業等への障がい者理解の促進が重要となるため、説明は追加しつつ、基本的には同じ内容の就業活動を繰り返し行っています。</li> <li>・引き続き協力事業所の拡充に努めるとともに、相談支援事業所など連携を図りながら、生活面も合わせた就業支援に取り組んでいます。</li> <li>・多くの企業に「いしおしアワード」へ参加いただき、障がいについての理解を促進し、雇用の拡充を促しています。</li> <li>・事業を継続してきたことで繋がることができた企業等には、協力企業として新たな企業への繋がりに取り組むよう働きかけます。</li> <li>・高校生等の就業体験についても、協働いただける方（場所）の拡充を図り、ひきこもってしまっている方（場所）の確保を確保することも、カフェの運営を通じて働く体験ができる場を確保します。</li> </ul>			
R2	<p>実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>② コミュニケーションを苦手とする高校生への支援として、進路相談が本格化する前の段階で就業体験を実施しています。学校以外の場で本人の特性（得意・不得意）を確認することができ、将来の就労に向けた自己理解・自己決定の一助となっております。</li> <li>④ 《実施していること》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き暮らし応援センターや相談支援事業所と連携して就業支援を行なっています。</li> <li>・「いしおしアワード」を通じて企業と支援機関の関わりを深め、障がい者雇用を促進しています。</li> <li>・生活困窮対策として、生活保護となる一歩手前の段階での相談支援を実施し、本人と寄り添いながら就業支援を行うことと自立を促しています。</li> <li>《実施できていること》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業支援と生活支援はセットですが、例えば精神科を連携された場合、アワード等を発給する際に保証人がいないため契約できないといったケースがあり、これまでは保証人不要のアワードを発行して何とか対応してまいりましたが、毎回の課題になっていました。</li> <li>《準備が困難なこと》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備が困難なことになった際に、本人にマッチする求人とタイミングが合わないことがあります。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業支援については、企業等への障がい者理解の促進が重要となるため、説明は追加しつつ、基本的には同じ内容の就業活動を繰り返し行っています。</li> <li>・引き続き協力事業所の拡充に努めるとともに、相談支援事業所など連携を図りながら、生活面も合わせた就業支援に取り組んでいます。</li> <li>・多くの企業に「いしおしアワード」へ参加いただき、障がいについての理解を促進し、雇用の拡充を促しています。</li> <li>・事業を継続してきたことで繋がることができた企業等には、協力企業として新たな企業への繋がりに取り組むよう働きかけます。</li> <li>・高校生等の就業体験についても、協働いただける方（場所）の拡充を図り、ひきこもってしまっている方（場所）の確保を確保することも、カフェの運営を通じて働く体験ができる場を確保します。</li> </ul>			
				A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIがセンター利用者登録者数となり、施策4-8の利用者がどれくらいいるのかというものが明らかになる数値であり、意味がありますが、就労や就業体験受入れ企業数もKPIとして認定しても良いかもれません。</li> <li>⑤ ①において「一人暮らし後の移行先を積極的に意識し、深い取組を基本目標・基本的方向性に基づいて、地域と連携し、住民の主体性を引き出すように努めていきたい。</li> <li>・一人暮らし体験等の取り組みが今後計画されていることを知ることで、できの良い取り組みと感じました。</li> <li>・弱い立場の方に対する支援は、福祉保健課だけでなく、役場全体で取り組むべきであり、そうすることで働きやすいまちになること考えます。</li> </ul>

日野町くらし安心りとづくり総合戦略

施策検証シート

基本目標No.	4	家庭でのきずなはもとより、地域の人と人とのつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めて、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これからの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	
基本方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域での人とのつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。</li> <li>○人と場所の機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。</li> <li>○住民主体の出会いの場をつくり、地域に暮らしやすさや同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持つ取り組みをつくり出します。</li> <li>○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。</li> <li>○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。</li> </ul>	
施策No.	9	障がい福祉サービスの充実

・障がいのある人が地域において、自分らしくいきいきと暮らし続けられるよう、障がい者グループホームの整備を行います。

指標名	①重要業績評価指標（KPI）				内部検証		外部検証	
	グループホームの定員数	実績	目標	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント
基準値（H26）	20人							
担当部署	福祉保健課	実績	目標	達成率				
H27	20人	20人	100.0%					
H28	25人	25人	100.0%					
H29	25人	29人	100.0%					
H30	28人	29人	100.0%					
R1	33人	29人	87.9%					
R2	37人	29人	78.4%					

・わが町の里の機能強化を図る中で、地域生活支援拠点（①相談、②地域の体制づくり、③緊急時の受け入れ・対応、④体験の機会・場、⑤専門的人材の確保・養成）の整備を進めています。

・拠点整備では、障がい者等の重度化・高齢化や網羅しき後に備えるとともに、施設入所者の地域移行や緊急時にも対応できる仕組みを構築します。

・拠点整備にあわせ、障がい者の高齢化に対応できる介護設備を有するグループホームを整備します。

② 構築

・グループホームの整備が進んできたことで、入所施設をコントロールすることなく、生まれ育った地域で住み続けられる体制を整えました。今後は、グループホームだのグループとするのではなく、一人暮らしへのステップとしても活用できる仕組みを構築します。

・令和3年4月に介護タイプのホームを開設することになり、5名の定員と短期入所1床が確保できます。

・空き家を活用することで、自立度の高い人たちが安定したシェアスタタイプのグループホームやキーパーが不足すると、支援を継続することができないため、人材確保に取り組みます。

《基本目標、基本的方向を踏まえて》

- ・グループホームの運営にあたり、地域の人にボランティアとして参加いただけるよう取り組みを進めます。
- ・住まいの場として、将来的に一人暮らしに向けて練習のできる自立訓練を整備します。
- ・特別支援学校の卒業生（保護者を含む）が進学や就職後にも集える拠点を確保することで、余暇も含めた地域活動を推進します。

《今後の課題》

- ・国においても施設からの地域移行が進められ、県でも今後は入所施設を作らないという方針が出されています。地域移行を進めることは大切なことですが、施設整備の主体や財源確保に切ないことでも自治体や法人に委ねられてしまつてお懸念されます。

・R2には、定員数は増えませんが、R3、4月に介護タイプのホームを開設することにより、定員数は増えたと見られます。これは評価し、空き家を活用したシェアハウスの整備計画もあつて、当面のニーズに答え、基本目標④の目標・基本的方向性も踏まえ、日野町モデルの新しい施設となるように努めさせていただきます。

- ・国・県が施設から地域移行へと方針が変わっています
- ・障がい福祉サービスの充実に向けて、事業者のニーズに沿って考えていく必要があります。

A

《実施していること》

- ・一般的なシェアハウスのバリエーションタイプ、強度、重畳障がいに対応する特等制動を軽減した防音タイプ、高齢化に対応する介護設備を整備するタイプ、障がい特性に合わせた形態を受け入れを行っています。
- ・障がい児童のボランティア参加等を通じて、福祉職場に興味・関心を持っていただける取り組みを行っています。
- 《実施できていないこと》
- ・作業所終了後の夕方の支援等、制度が充実することによって新しい課題や要望が出てきます。徐々に対応していますが、人材や財源等も含めて対策だけでは実現が困難な面もあります。
- 《実施が困難なこと》
- ・キーパー、ヘルパー、支援員の確保

基本目標達成に向けた取り組みの状況





日野町くらし安心りとづくり総合戦略

施策検証シート

基本目標No.	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の高齢な自治活動の推進を図るとともに、住民による、自主的な取り組みを支援します。
基本目標	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。</li> <li>○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。</li> <li>○住民主体の出会いの場をつくりにより、地域に響かず人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持つ取り組みをつくります。</li> <li>○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。</li> <li>○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。</li> </ul>	
施策No.	11	犯罪・事故のいまいちづくりの推進

・警察、日野町防犯自治会との連携のもと、各地区自主防犯団体、学校、PTAとの協働により、地域ぐるみで推進します。  
 ・警察、東近江地区交通安全推進会議、交通安全協議会など連携し、交通安全教育・学習を行い、交通安全意識の高揚を図るとともに、住民による、自主的な取り組みを支援します。

指標名	①重要業績評価指標（KPI1）				内部検証		外部検証	
	犯罪認知件数	交通事故発生件数	達成率	実績	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント
基準値（H26）	141 件	56 件						
担当部署	住民課	住民課						
	目標	実績	達成率	実績				
H27	133 件	128 件	100.0%	62 件	48 件	100.0%		
H28	125 件	96 件	100.0%	60 件	57 件	100.0%		
H29	117 件	88 件	100.0%	58 件	45 件	100.0%		
H30	109 件	70 件	100.0%	56 件	32 件	100.0%		
R1	100 件	55 件	100.0%	55 件	40 件	100.0%		
					施策			
R2	93 件	68 件	100.0%	52 件	23 件	100.0%		

・警察、日野町防犯自治会、各地区自主防犯団体と連携し防犯啓発活動を実施しました。自主防犯団体と学校、PTAが協力し見守り活動やパトロールを実施しました。  
 ・東近江警察署から不審情報や犯罪発生情報などの連絡があった場合には、日野メーラーで住民に周知の要があり、緊急時などは、地域の安全なまちづくり協議会へ情報を提供し、気を付けていただくようお願いしました。  
 ・交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け持っていたり、前向きな取り組みを促すこととした早朝パトロール、公民館への啓発手シートの配布を実施し、日野町若狭やシラバ無事故運動に参加していたことにより交通安全意識の高揚を図りました。また、東近江地区交通安全協議会や交通安全協議会も連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。  
 ・地域の取り組みとしてPTA、学校を連携し、交通安全意識の高揚を図りました。

②  
 ・警察、日野町防犯自治会、各地区自主防犯団体と連携し防犯啓発活動を実施しました。自主防犯団体と学校、PTAが協力し見守り活動やパトロールを実施しました。  
 ・東近江警察署から不審情報や犯罪発生情報などの連絡があった場合には、日野メーラーで住民に周知の要があり、緊急時などは、地域の安全なまちづくり協議会へ情報を提供し、気を付けていただくようお願いしました。  
 ・交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け持っていたり、前向きな取り組みを促すこととした早朝パトロール、公民館への啓発手シートの配布を実施し、日野町若狭やシラバ無事故運動に参加していたことにより交通安全意識の高揚を図りました。また、東近江地区交通安全協議会や交通安全協議会も連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。  
 ・地域の取り組みとしてPTA、学校を連携し、交通安全意識の高揚を図りました。

③  
 ・警察、日野町防犯自治会、各地区自主防犯団体と連携し防犯啓発活動を実施しました。自主防犯団体と学校、PTAが協力し見守り活動やパトロールを実施しました。  
 ・東近江警察署から不審情報や犯罪発生情報などの連絡があった場合には、日野メーラーで住民に周知の要があり、緊急時などは、地域の安全なまちづくり協議会へ情報を提供し、気を付けていただくようお願いしました。  
 ・交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け持っていたり、前向きな取り組みを促すこととした早朝パトロール、公民館への啓発手シートの配布を実施し、日野町若狭やシラバ無事故運動に参加していたことにより交通安全意識の高揚を図りました。また、東近江地区交通安全協議会や交通安全協議会も連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。  
 ・地域の取り組みとしてPTA、学校を連携し、交通安全意識の高揚を図りました。

④  
 ・警察、日野町防犯自治会、各地区自主防犯団体と連携し防犯啓発活動を実施しました。自主防犯団体と学校、PTAが協力し見守り活動やパトロールを実施しました。  
 ・東近江警察署から不審情報や犯罪発生情報などの連絡があった場合には、日野メーラーで住民に周知の要があり、緊急時などは、地域の安全なまちづくり協議会へ情報を提供し、気を付けていただくようお願いしました。  
 ・交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け持っていたり、前向きな取り組みを促すこととした早朝パトロール、公民館への啓発手シートの配布を実施し、日野町若狭やシラバ無事故運動に参加していたことにより交通安全意識の高揚を図りました。また、東近江地区交通安全協議会や交通安全協議会も連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。  
 ・地域の取り組みとしてPTA、学校を連携し、交通安全意識の高揚を図りました。

⑤  
 ・警察、日野町防犯自治会、各地区自主防犯団体と連携し防犯啓発活動を実施しました。自主防犯団体と学校、PTAが協力し見守り活動やパトロールを実施しました。  
 ・東近江警察署から不審情報や犯罪発生情報などの連絡があった場合には、日野メーラーで住民に周知の要があり、緊急時などは、地域の安全なまちづくり協議会へ情報を提供し、気を付けていただくようお願いしました。  
 ・交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け持っていたり、前向きな取り組みを促すこととした早朝パトロール、公民館への啓発手シートの配布を実施し、日野町若狭やシラバ無事故運動に参加していたことにより交通安全意識の高揚を図りました。また、東近江地区交通安全協議会や交通安全協議会も連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。  
 ・地域の取り組みとしてPTA、学校を連携し、交通安全意識の高揚を図りました。

・今後も各地区自主防犯団体など関係団体と連携を図り、推進大会や啓発活動などを開催し、地域ぐるみで各種活動を継続して取り組むことにより、住民が主体となるよう活動できるような支援を図ります。  
 ・各地区の自主防犯活動、交通安全対策には、関係する人の顔の見えるつながりが大切です。つながりが築ける地域づくりを進めたいと考えています。  
 ・交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け持っていたり、前向きな取り組みを促すこととした早朝パトロール、公民館への啓発手シートの配布を実施し、日野町若狭やシラバ無事故運動に参加していたことにより交通安全意識の高揚を図りました。また、東近江地区交通安全協議会や交通安全協議会も連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。  
 ・地域の取り組みとしてPTA、学校を連携し、交通安全意識の高揚を図りました。

・「シルバーキヤラバン隊」の参加が難しくなっており、高齢者の交通安全を確保するため、日野町老人クラブ連合会と協議を行い、継続した活動が図られるよう取り組みます。

・「シルバーキヤラバン隊」の参加が難しくなっており、高齢者の交通安全を確保するため、日野町老人クラブ連合会と協議を行い、継続した活動が図られるよう取り組みます。

施策検証シート

日野町くらしを心りとづくり総合戦略

基本目標 4 家庭でのきずなはもとより、地域での人と人とのつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活躍や自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。

基本目標 12 消防団活動の充実

基本目標 12 消防団活動の充実

基本目標 12 消防団活動の充実

基本目標 12 消防団活動の充実

基本目標 12 消防団活動の充実

①重要業績評価指標 (KPI)

指標名	消防団員数			
	目標	実績	達成率	達成率
基準値 (H26)	185 人			
担当部署	目標	実績	達成率	達成率
H27	185 人	185 人	100.0%	
H28	185 人	185 人	100.0%	
H29	185 人	185 人	100.0%	
H30	185 人	185 人	100.0%	
R1	185 人	185 人	100.0%	

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

実施

基本目標①	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすしい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組みっていくまちをめざします。
基本目標	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	
基本目標	○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。	
基本目標	○人と場所の機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。	
基本目標	○住民主体の出会いの場をつくりにより、地域に響く人同士、「おたがさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄り、生かぎを持てる仕組みをつくりたい。	
基本目標	○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあふ」など、地域のコミュニティ活動を支援します。	
基本目標	○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。	

実施No.	13	施策	自主防災組織の育成
-------	----	----	-----------

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の地域での助け合いや防災活動の体制づくりとしての自主防災組織の重要性について、周知するとともに、組織づくりや組織強化に向けた取り組みを支援します。</li> <li>自主防災組織を育成・支援するため、まちの防災リーダーとなる防災士を育成します。</li> </ul>
------	---

指標名	数値(目標)	①重要業績評価指標(KPI)				内部検証		外部検証	
		達成率	実績	目標	実績	【今後の取り組み】	⑥検証結果		コメント
自主防災組織数	8 組織(現状)			4人(累計)					
基準値(H26)									
総務課									
担当部署									
H27	9 組織(累計)	9 組織(累計)	100.0%	9 人(累計)	9 人(累計)	100.0%			
H28	11 組織(累計)	11 組織(累計)	100.0%	14 人(累計)	14 人(累計)	100.0%			
H29	14 組織(累計)	13 組織(累計)	92.9%	18 人(累計)	15 人(累計)	83.3%			
H30	17 組織(累計)	14 組織(累計)	82.4%	20 人(累計)	17 人(累計)	85.0%			
R1	20 組織(累計)	15 組織(累計)	75.0%	20 人(累計)	18 人(累計)	90.0%			
R2	20 組織(累計)	15 組織(累計)	75.0%	20 人(累計)	19 人(累計)	95.0%			
							<p>施策</p> <p>② 防災の推進リーダーとなる防災士として、町で新たに1名の方に資格を取得いただき、男性13名、女性6名の合計19名となりました。</p> <p>③ 町の防災士により、地域の自主防災組織設立に際しての相談支援等、組織数の増加に尽力したくよよう取り組みを進めてきました。</p> <p>④ 新たに自主防災組織の設立はありませんでした。自主防災組織の設置に向けて複数の地区の区長さんが相談に当たられています。</p> <p>⑤ 町民に引き続き防災士資格講習を滋養講習で受講でき、当初から1名の方が受講され資格を取得されました。</p> <p>⑥ 新型コロナウィルス感染症の影響により、防災講習会は中止とし、出前講座の開催回数も大きく減少することとなりましたが、少ない機会の中でも自助、共助の重要性をお伝えしています。</p>		
							<p>【基本目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織の育成</li> <li>自主防災組織の強化</li> <li>自主防災組織の育成</li> </ul> <p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町民に自主防災組織の重要性を周知し、自主防災組織の育成を促す。</li> <li>自主防災組織の育成を促す。</li> <li>自主防災組織の育成を促す。</li> <li>自主防災組織の育成を促す。</li> <li>自主防災組織の育成を促す。</li> <li>自主防災組織の育成を促す。</li> <li>自主防災組織の育成を促す。</li> </ul>		

日野町くらしを心りとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標 4  
 家庭でのきずなほもよより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。

基本目標  
 くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

基本目標  
 ○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。  
 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を統廃します。  
 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らす人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自働」を持ち寄り、自分の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自働」を持ち寄り、自分の「自働」をつくり出します。  
 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。  
 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。

施策No.	14	施策 公共交通の利用促進
施策内容	・ 町営バス利用者のニーズを反映したダイヤやルートの設定、バス停の配置に取り組みととも、交通機関間の接続の向上をバス・鉄道事業者へ働きかけます。	

指標名 基準値 (H26) 担当部署	①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	⑤検証結果	コメント	
町営バス年間利用者数									
59,716 人									
H27	59,700 人	57,176 人	95.6%						
H28	59,750 人	55,074 人	92.2%						
H29	59,800 人	55,069 人	92.1%						
H30	59,900 人	55,072 人	91.9%						
R1	60,000 人	55,077 人	91.8%						
R2	60,000 人	51,489 人	85.8%						
施策 ・ 動態調査を実施し、利用者数や運行状況の把握に努めるとともに、町営バスの年間運賃収入を集計し、利用状況分析しました。 ・ 利便性の向上のため、バス車面のバリアフリー化を進め、低床車両1台を新たに導入しました。このことで町営バス5台中3台のバリアフリー化を行うことができました。 ・ 小学生の公共交通への理解と利用促進を目的とし、県やバス協会と連携して、鉄道やバスの利用に関する学習を町内2校（西大路小学校、桜谷）で開催しました。									
④ ・ 令和3年度から日野町の地域公共交通活性化を目的として、「わたむぎ自動車プロジェクト」を開始しました。 ・ 「わたむぎ自動車プロジェクト」では、地域の潜在的な移動ニーズを掘り起こし、ニーズに対応した実証実験を繰り返し、日野町にあった公共交通体系を構築していきます。									
⑤ ・ 《実施していること》 ・ 町営バス・デマンドタクシーの運行により、公共交通の空白地域をなくし、住民の移動手段を確保しています。 ・ 公共交通でカバーできない移動ニーズについて、地域住民主体の移動支援「おたすけカゴヤ」による取り組みが広がっています。 ・ 小学生を対象に公共交通への理解や利用促進を目的とした取り組みを進めています。 ・ 《実施すべきではないこと》 ・ 小学生や高齢者を中心とした交通弱者対策、また、空白地の解消を目的とした路線形態になっていることから、地域のバス事業者と連携して、公共交通の整備を進めていきます。									
基本目標 基本的方向 の状況 ④ ・ これまで把握、または、対応できていなかった交通ニーズを掘り起こすとともに、人流データの把握等により、住民の移動状況、ニーズを把握することが必要となりました。 ・ 地域の移送・輸送を把握し、ニーズに応じた移送のあり方を検討し、ポランティヤ輸送やシェアサイクルの活用をも兼ね、公共交通全体を再編していくことが必要となつていいます。									
A ・ 「おたすけカゴヤ」の取組みが広がっていることを高く評価します。 ・ ④において、コロナ禍で町営バス利用者が大幅に減少し、その回復が困難であるとも検証されています。面もあっても、アプターアプターコロナの町営バスのあり方について今から検討を始めてください。 ・ ⑤「わたむぎ自動車プロジェクト」、⑤における「ニーズ」に即した移送のあり方「ニーズ」など新しい地域の公共交通のあり方を構築すること、町営バスの利用者増、住民の移動ニーズの確保の総合的検討も求められます。町政の支援とする部分、国・県の支援を活用する部分、住民の互助による部分など、役割分担のあり方も含め検討してください。									

## 6. 地方創生交付金事業の検証

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)			⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価 事業の価値	⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値		
1	三方よし、近江日野まちなか観光交流拠点施設整備事業	拠点整備交付金	26,108,000	指標①	39,500	人	R3.3	18,890	・店舗販売売上高は、コロナ禍でしたが、目標を達成しており、相当の効果があったとして評価します。より一層効果ができるように施設活用の工夫を続けていってほしい。 総合戦略のKPI達成に有効であった	・引き続き、近江日野商人会館、近江日野商人会館と連携し、町の歴史・文化等をテーマとしたイベントや魅力の情報発信に取り組めます。 ・観光交流拠点施設でのチャレンジショップや「味楽市」等を幅広く周知し、人と経済の地域活性化を図ります。 ・SNS等の情報発信を通じて新たな人の流れの創出と交流に努めます。
				指標②	1,875	千円	R3.3	4,325		
				指標③				地方創生に効果があつた		
				指標④						
				指標⑤						
2	近江日野産茶による西大路地区まちづくり活動拠点整備計画	拠点整備交付金	15,217,000	指標①	1,500	人	R3.3	1,877	・お茶生産の後継者と生産者を増やすことが課題であり、増やす努力を進めるべきです。 ・引き継ぎ町の文化であるお茶文化の振興に取り組んでください。 ・お茶の生産と文化を育むことが重要です。	・地域の生涯学習の拠点となる公民館において、茶摘み体験等の近江日野産茶の魅力体験する事業を開催し、地元住民の茶への愛着の醸成と町外からの誘客を図ります。 ・お茶のある日暮らしが町内で継続されるよう努めます。 ・茶葉生産を増やすための取組みを進めます。
				指標②	10	件	R3.3	10		
				指標③	17.0	t	R3.3	10.06		
				指標④				地方創生に効果があつた		
				指標⑤						
3	子育て女性の活躍応援プロジェクト	拠点整備交付金	36,241,000	指標①	8	件	R3.3	5	・施設の利用者は、若い子どもものいる母親が主です。まだ働こうという状況ではないため、幼稚園児の保護者等ももう少し働きたいという人が施設や制度を有効に利用できるような働きかけが必要とされています。 ・施設は限られた人の利用になっており、多くの人が施設を利用できるような取組みを進めるべきです。 ・就労につなぐには子どもを育てる場所、保護者の卒業と制度の両方を考える取組みが大切です。	・育児休業の促進、ワークライフバランス等を推進し、イクボスを推奨します。 ・誰もが働きやすい職場環境づくりを奨励するため、啓発・情報発信することによって、企業の意識改革の推進を図ります。 ・子育て部局と就業部局の真分野で連携を進める中で女性活躍支援施設「ほけつと」において、就労に役立つセミナー等を実施し、再就職を希望する女性の就業支援に努めます。
				指標②	7	人	R3.3	11		
				指標③	7	人	R3.3	2		
				指標④				地方創生に効果があつた		
				指標⑤						
4	「戦国・琵琶湖」体験・体感ツアー深化プロジェクト	推進交付金	10,438,995	指標①					広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。	
				指標②						
				指標③						
				指標④						
				指標⑤						
5	要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト	推進交付金	3,713,000	指標①					広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。	
				指標②						
				指標③						
				指標④						
				指標⑤						
6	風の人と土の人がつながるプロジェクト～移住者の増加による地域活性化にむけて～	推進交付金	850,000	指標①					広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。	
				指標②						
				指標③						
				指標④						
				指標⑤						

## 7. 検証のまとめ

## 1) 量的 (KPI) 検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標 (KPI) について、町が定めている年度別の目標値に対する実績値の達成率についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。 (詳細は、P.7～8参照)

KPIの検証結果	重要業績評価指標 (KPI)の達成度	施策数	比率
量S	100% ~ 90%以上	23施策	46.0%
量A	90%未満 ~ 70%以上	10施策	20.0%
量B	70%未満 ~ 50%以上	6施策	12.0%
量C	50%未満 ~ 30%以上	4施策	8.0%
量D	30%未満 ~ 0%以上	7施策	14.0%

検証した施策の中で最も多いのが量S (達成度100%~90%以上) で23施策 (46.0%) 次いで、量A (達成度90%未満~70%以上) が10施策 (20.0%) という結果になっています。

量Sの評価については、一昨年度は30施策、昨年度は26施策、今年度は23施策と徐々に減ってきています。これは総合戦略の計画期間と関わると考えられます。総合戦略は、期間を1年延長し、平成27年度から令和2年度の6年間を計画期間としました。計画期間が進むと目標値も高くなり、同様の実績では達成度が低くなります。また、令和元年度、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も考えられます。

年度別の目標値については、令和2年度の計画期間最終年度に向けて、計画的に目標値が定められています。今年度はその計画の最終年 (6年目) となり、計画策定当初に各施策が掲げたKPI目標値 (指標) に対して、23施策 (46.0%) のKPI目標値 (指標) が達成できたということになりました。

一方、達成できなかった施策をみると、量A (達成度90%未満~70%以上) は10施策 (20.0%)、量B (達成度70%未満~50%以上) は6施策 (12.0%)、量C (達成度50%未満~30%以上) は4施策 (8.0%)、量D (達成度30%未満~0%以上) は7施策 (14.0%) となり、全体では約8割の施策が、50%以上の達成率を維持している結果となりました。

KPI目標値 (指標) の設定に関しては、事業をモニタリングするためのものと、事業の成果をみることができるものと分けて考える必要があります。KPI目標値 (指標) を達成することで町全体がよくなるような指標を検討するとともに、新たに設定する基本目標および基本的方向に合致した指標となるよう、住民への満足度調査をすることも視野にいれ、成果・評価を表すアウトカム指標となるよう検討が必要です。

CもしくはD評価であった11施策は、次の施策です。事業の目標に無理がないか、ニーズの取り違えはないか、本来の目標に向け、どのような事業実施が妥当かをよく検討し、次年度以降の事業実施につなげる必要があります。



○ CもしくはD評価であった11施策

- (1) - 2 「地域内経済循環の推進」 【評価C】  
KPI「民泊受入人数」 目標：4,250人 実績：16人 達成率：0.4%  
KPI「住宅リフォーム助成による経済波及効果」  
目標：350,000千円 実績：329,000千円 達成率：94.0% 達成率：47.2%
- (1) - 7 「日野菜のブランド化の促進」 【評価C】  
KPI「日野菜出荷量」 目標：70t 実績：32t 達成率：45.7%  
KPI「日野菜の販売取引先件数」 目標：75件 実績：38件 達成率：50.7%  
達成率：48.2%
- (1) - 9 「若者等の就職相談窓口の整備」 【評価D】  
KPI「若者等の就職相談件数」 目標：24件 実績：7件 達成率：29.2%
- (2) - 1 「体験型観光の推進」 【評価D】  
KPI「民泊受入人数」 目標：4,250人 実績：16人 達成率：0.4%  
KPI「大学・企業等の研修受入人数」 目標：500人 実績：119人 達成率：23.8%  
達成率：12.1%
- (2) - 4 「日野の「たから」の伝承促進」 【評価C】  
KPI「伝承促進施設の利用者数」 目標：33,000人 実績：15,500人  
達成率：47.0%
- (2) - 6 「生涯学習の機会の充実」 【評価D】  
KPI「町民大学講座受講者数」 目標：200人 実績：0人 達成率：0.0%
- (2) - 9 「空き地等を活用した定住促進」 【評価D】  
KPI「空き地情報登録制度での移住・定住者数」 目標：50人 実績：9人  
達成率：18.0%
- (2) - 11 「スポーツによる交流の促進」 【評価D】  
KPI「みんなのスポーツ広場参加延べ人数」 目標：2,000人 実績：0人  
達成率：0.0%
- (3) - 6 「子育て支援員の確保」 【評価C】  
KPI「子育て支援員の人数」 目標：18人 実績：6人 達成率：33.3%
- (3) - 15 「奨学金制度の充実」 【評価D】  
KPI「奨学金の貸与人数」 目標：15人 実績：2人 達成率：13.3%
- (4) - 5 「異文化・多世代交流の創出」 【評価D】  
KPI「公民館サポーター活用数」 目標：5事業 実績：1事業 達成率：20.0%

## 2) 質的（取組内容）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）だけでは計れない、取組内容の質的な充実についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。

（詳細は、P.9～10参照）

質的検証結果	質的検証結果の内容	施策数	比率
質S	内容を十分に理解し、取組により達成している	0施策	0.0%
質A	内容を理解した取組を実施し、課題解決や達成に向けた取組ができている	6施策	12.0%
質B	内容を理解し、取組ができている	43施策	86.0%
質C	概ね内容を踏まえているが、取組が不十分	1施策	2.0%
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	0施策	0.0%

検証した施策の中で最も多いのが、質B（内容を理解し、取組ができている）で43施策（86.0%）、次いで、質A（内容を理解した取組を実施し、課題解決や達成に向けた取組ができている）が6施策（12.0%）となっています。

質Bの評価については、昨年度は47施策、今年度は43施策と減少しました。要因として、質Aの評価が4施策増えたことから、施策の内容、基本目標および基本的方向の趣旨に沿って、計画期間6年目として、施策の取組を順当に進めたことによるものと考えられます。

次に、質C（概ね内容を踏まえているが、取組が不十分）については、昨年度に引き続き1施策（2.0%）となりました。C評価となった1施策について、事業等の実施主体を明確にするとともに、その関わりを明確にし、適正な目標設定等に努める必要があります。

### 3) 基本目標別のまとめ

#### 基本目標（1）まちのたからで雇用を創る

検証結果では、A（優れている）が4施策（40.0%）、B（実施できている）が5施策（50.0%）、C（工夫が必要）が1施策（10.0%）という結果になりました。

##### A（優れている）とされた施策

- (1) - 4 「魅力ある商店づくりの促進」
- (1) - 5 「農業経営体の育成」
- (1) - 6 「地元野菜生産者の担い手育成」
- (1) - 8 「獣肉の利活用を促進」

##### B（実施できている）とされた施策

- (1) - 1 「創業・第2創業の促進」
- (1) - 2 「地域内経済循環の推進」
- (1) - 3 「企業誘致と企業・異業種間の交流促進」
- (1) - 7 「日野菜のブランド化の促進」
- (1) - 10 「高齢者の生きがい創出」

##### C（工夫が必要）とされた施策

- (1) - 9 「若者等の就職相談窓口の整備」

『基本目標（1）まちのたからで雇用を創る』にかかる取組については、職に就くということのみに取り組むのではなく、出産、子育てや住宅等が総合的に働く人が住みやすい町となるように取り組むべきです。バランスが大切であり、総合的な政策が求められています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響から、人の動き、働き方の変化が起きています。今後、テレワークや在宅勤務が増加すると考えられることから、雇用の創出だけでなく、ワーキングスペースやシェアオフィス等を活用し、働く人を惹きつける視点が求められています。時代の変化を的確にとらえて、新しい取り組みを模索してください。

コロナ禍で観光等大きな影響を受けたと思われます。遠方からの交流人口の減少を補うことは難しいかもしれませんが、地元（町内、周辺自治体）住民に日野の良さを再発見してもらえるような情報発信の工夫をしてください。

#### 基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る

検証結果では、A（優れている）が4施策（36.4%）、B（実施できている）が5施策（45.5%）、次いで、C（工夫が必要）が2施策（18.2%）という結果になりました。

##### A（優れている）とされた施策

- (2) - 5 「伝統文化等後継者育成の促進」
- (2) - 7 「定住支援相談窓口の整備」
- (2) - 8 「空き家を活用した定住促進」
- (2) - 10 「多文化共生の推進」

#### B（実施できている）とされた施策

- (2) - 1 「体験型観光の推進」
- (2) - 2 「観光受入体制の整備」
- (2) - 3 「日野の「たから」情報発信の推進」
- (2) - 4 「日野の「たから」の伝承促進」
- (2) - 9 「空き地等を活用した定住促進」

#### C（工夫が必要）とされた施策

- (2) - 6 「生涯学習の機会の充実」
- (2) - 11 「スポーツによる交流の促進」

『基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る』にかかる取組については、移住、定住に結びつけるために、どのような人が日野町に移住を希望するのかの把握が重要です。具体的な移住、定住のモデルを想定し、施策ごとに果たす役割を明確化する必要があります。日野には「住みやすいから」だけではない「地域の歴史、文化の素晴らしさ」や「人のつながり」に魅力を感じ、移住、定住に心を動かしてもらえよう働きかけをしてください。

コロナ禍でテレワークが広がり、田園回帰の動きも大きくなる可能性があります。地方への移住、定住希望者に日野への移住につながるような的確な情報を届け、しっかりと移住、定住の流れをキャッチしてください。

#### 基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる

検証結果では、15施策中で最も多いのが、A（優れている）で12施策（80.0%）、次いで、B（実施できている）が3施策（20.0%）という結果になりました。

#### A（優れている）とされた施策

- (3) - 1 「出会いの場の創出」
- (3) - 2 「産み育てやすい環境の充実」
- (3) - 3 「乳幼児健診における保健指導の充実」
- (3) - 4 「保育所の整備」
- (3) - 7 「ファミリーサポートセンターの整備」
- (3) - 8 「交流できる場の充実」
- (3) - 9 「福祉医療制度の実施」
- (3) - 10 「障がい児の支援の充実」
- (3) - 11 「子ども読書活動推進」
- (3) - 12 「働きやすい職場環境の推進」
- (3) - 13 「学童保育所の整備」
- (3) - 14 「児童・生徒の自主的学習支援の推進」

#### B（実施できている）とされた施策

- (3) - 5 「子育て期間中の保護者の交流促進」
- (3) - 6 「子育て支援員の確保」

### (3) - 15 「奨学金制度の充実」

『基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる』にかかる取組については、基本目標全体を通じて、若者が、出会い、結婚、子育てに至るプロセス全体から、出会いや結婚の際、どのような問題があるのかを把握し、その問題に対応した施策となっているか検討することが重要です。

子育て環境の充実は、公共部門だけで対応するのではなく、地域社会の中で子育て支援等に取り組む団体を育成するような幅広い取組みが求められます。学童の学生アルバイト等は、町に関わる大切な人材です。将来町づくりの担い手となっていくように育成していく視点を持ち、このつながりや交流を町内だけにとどめるのではなく、広げていくことを考えるべきです。

基本目標（3）の取組は、親（保護者）が子育てする環境をつくる視点となっていますが、子ども自身、親自身の成長を支える取組みも大切です。「選ばれる町にいかにするべきか」だけではなく、子どもが自らの人生を切り拓くための環境を整える取組みを進めてください。

### 基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

検証結果では、14施策中で最も多いのが、A（優れている）が11施策（78.6%）、次いで、B（実施できている）が3施策（21.4%）という結果になっています。

#### A（優れている）とされた施策

- (4) - 1 「進取のまちの推進」
- (4) - 3 「ボランティア団体の組織化の促進」
- (4) - 4 「コミュニティビジネスの創出」
- (4) - 7 「農林業を活かした中間就労の創出」
- (4) - 8 「障がい者の就労促進」
- (4) - 9 「障がい福祉サービスの充実」
- (4) - 10 「介護予防の促進・高齢者の自主的な活動支援」
- (4) - 11 「犯罪・事故のないまちづくりの推進」
- (4) - 12 「消防団活動の充実」
- (4) - 13 「自主防災組織の育成」
- (4) - 14 「公共交通の利用促進」

#### B（実施できている）とされた施策

- (4) - 2 「地域福祉活動の推進」
- (4) - 5 「異文化・多世代交流の創出」
- (4) - 6 「学びの機会の充実」

『基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる』にかかる取組については、住民が地域の課題に対して主体的に取り組む仕掛けをつくる必要があります。

住民の困りは多様化、複雑化しており、分野を横断しています。暮らしやすいまちをつくるにあたって、町役場（公共）の役割、地縁団体である自治会の役割、ボランティア団体活動の役割、コミュニティビジネスの役割を俯瞰して様々な施策の連携によって効果も高めるように努めてください。

若者をいかに取り込むかが課題となっています。マルシェや手作り市の取り組みが異分野や多世代交流へとつながっています。公民館等を活用する中で、事業への参加者ではなく、事業の実施主体を育成するような、きっかけづくりとなる取り組みを進めてください。

## 4) まとめ

### 1. はじめに

2020年度(令和2年度)の「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」の取り組みの検証をおこないました。総合戦略は、2015年(平成27年)にスタートし、2019年度(令和元年度)に5年目を迎えましたが、一年の延長を行いました。今回、6回目の検証を行いました。6年間検証を継続してきましたので、6年の検証によって成果と課題が明らかとなりました。

本報告書は、50本の施策について、「量的検証」と「質的検証」を行い、その合計点を検証結果としています。また、4つの基本目標につきましては、50本の施策の検証結果を踏まえて、総合的な評価を行いました。本報告書の検証結果は、検証結果を数値化しています。そのため、多くの方は、その「数値」と数値の「変化」に注目しているでしょう。数値化により取り組みの成果を捉えやすくなっていますが、検証の過程では数値的な変化だけでなく、行政内部評価を詳細に検証し、取り組みの在り方も検討してきました。本報告書の最後に、総合計画懇話会(以下、懇話会)による検証過程と今回の検証結果からみえてきた今後の課題について、若干のコメントを記して、まとめにかえたいと思います。

### 2. 評価方法について

本報告書の検証結果は、総合戦略に関わる施策がどの程度成果を上げているのかを総合的に評価するために、「量的検証項目として重要業績評価指標(KPI)(以下、KPIとする)の達成度の評価」と「その施策の中身がどの程度充実したものであったのかを4つの観点から評価する質的検証項目の評価」を行い、これら量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。この評価方法は、数値で測れる「外形的な達成度」とどまらず、「質的・内容的な充実度」も検証しようとする工夫です。一般的に、KPIを設定するとその達成度に目が行きがちですが、設定された数値目標の達成にとどまらず、施策の質的・内容的な充実を図り、効果的な施策の展開をすすめて欲しいので、このような量と質の両面からの評価方法を取り入れました。つまり、公共サービスがどの程度供給されたのかという供給量だけでなく、その供給された公共サービスはどのような内容であったのかを検証して、質的な向上・内容の充実をあわせて評価し、量と質を統合した総合評価をしています。

具体的には、KPIの達成度で測る量的評価(満点10点)、4つの検証観点からの質的評価(1観点5点満点の4つの観点、満点20点)の二つの評価点を出し、その量的検証と質的検証の合計点数によって、5段階の「検証結果」としました。量的検証10点と質的検証20点と配点し、質的検証の配点を2倍にしています。しかし、例年、KPIの達成度が高ければ、検証結果も高い評価を得ています。質的検証で難があっても、KPIが高得点であれば、高い評価を受けている場合もあります。

施策の総合評価には、量的評価と質的評価という異質な検証結果の合計点数を使っており、施策の評価には少し注意が必要ですが、これまでおこなってきた町役場による内部検証を踏まえた、懇話会による外部検証を継続するのであれば、適切な評価を行うとともに、施策の改善も図ることが出来るのでは無いかと考えます。

### 3. 6年間の検証結果から判ったこと ～今後の検証に活かしてほしいこと～

先に述べましたように、量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。6年間の評価の推移を「3. 基本目標別検証結果」の「基本目標別量的（KPI）検証結果（p7）」「基本目標別質的（取組内容）検証結果（p9）」の二つの総括表から概括的に捉えることが出来ます。

「基本目標別量的（KPI）検証結果」をみますと、50施策のうち39施策が、量S（23）、量A（10）、量B（6）となっており、概ね量的な目標は達成していました。しかしながら、2019年度(令和元年度)の評価が、量S（26）、量A（14）、量B（5）でしたので、コロナ禍の影響でKPIの達成度で苦戦した状況も伺えます。

KPIの値が高いと総合評価も高い評価を得られる傾向もありましたので、KPI設定の適切さは検証において重要なポイントとして浮かび上がってきました。KPI設定の適切さには、二つの観点からの適切さを考えなければなりません。第一の観点は、施策の指標としての適切性の観点です。施策の事業効果を表す指標として適切であるのかどうかをしっかりと考える必要があります。事業実施体制の整備や事業実施の利用者数などアウトプットを示すKPI指標もありましたが、アウトプットのKPIにとどまらず、事業効果の実質を表すアウトカム指標を導入することが必要です。アウトプットのKPIの場合、供給体制の整備を行うだけで目標が達成されてしまいます。測定されるべきことは、その供給体制によって、住民の福祉が向上したのかどうか測定されなければならないでしょう。または、その事業の住民満足度を直接測るもしくは住民満足度の向上を示すような代替りの指標を設定することも考えられます。第二の観点は、設定された指標の数値目標が、事業効果を測る水準として適切であるかを考える必要があります。目標値が低ければ、達成は容易であり、目標値が実態とかげ離れて高すぎれば、達成は困難になり、せっかくの取り組みの成果が見えにくくなってしまいます。

次に、「基本目標別質的（取組内容）検証結果」をみますと、「質C」評価が、6年間で18個から1個、質Dは初年度だけ二つありましたが、2年目以降はゼロとなっています。6年間まとめてみると質的な向上がみられることが判ります。質Aは6個、質Bは43個とほとんどの施策がしっかりとした取り組みが出来ているとの判定になっています。2019年度(令和元年度)の質的評価が、質Aは2個、質Bは47個でしたので、質Aが4つ増えています。質的評価が向上していることは評価したいと考えます。役場の内部で、施策の内部検証に際して、しっかりと説明できるように意識して業務を進められているのでは無いかと推察します。今回の総合戦略が、量的評価と質的評価の両面から評価することを行い、量的にも質的にも事業の進展を評価することが出来ていると考えられます。4つの観点からの内部検証を行うことによって、内部検証作業を通じて、事業を担当する職員の皆さんには施策の広がりや深さを考えてもらう工夫として導入しましたが、その効果として、質的な評価の向上もみられたのでは無いでしょうか。次期総合戦略においても、今回の検証方法の考え方を引き継いでもらいたいと考えています。

こうしたことから、次期総合戦略における成果の検証にあたり、次の三つの点を留意してください。

- ①町役場による内部検証を踏まえた、懇話会等による外部検証を行うこと。
- ②KPIの達成度で図る量的評価と4つの観点からの内部検証を行う質的評価を組み合わせるなど、政策の量と質の両面からの総合的な評価を行うこと。



- ③懇話会等による外部検証のプロセスを入れることによって、政策能力の向上が図れるように工夫をすること。

政策の質的向上に向けて

2020年度（令和2年度）の検証過程で、印象的な事例がありました。それは、「基本目標③ 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えかなえる 施策 No.15 奨学金制度の充実」の検証です。この施策は、利用者も少なく、日本学生支援機構の制度の充実も進んでいる中で、町独自の制度の必要性も問われ、検証の中でも制度の廃止も含めて抜本的に改善を求める厳しい意見が出されていました。そうしたなかで、町役場が2020年度に日野高校の生徒に初めてアンケート調査を行いました。その結果、翌年の2021年度利用申し込みが増えるという状況が起きたとの報告がなされました。奨学金制度の廃止も含めて、住民のニーズの実地調査を行ったことが、制度の周知に繋がり、利用の拡大に繋がったという事例となります。住民実態を調査することによって、住民ニーズを把握することができるとともに、住民への制度の周知にもつながり、住民ニーズが充足されたという意味でグット・プラクティス(良い実践例)として特筆されるべきだと考えます。把握した住民ニーズをもとにしながら、財政的制約もありますが、住民のためになる制度設計の検討が可能になります。検証も一つのテコにしながら、住民ニーズの把握とそこからの政策の質的向上を図る好循環を創り出して欲しいと考えています。

#### 4. 人口動態と総合戦略

日野町の人口動態を見ておきましょう。日野町の人口は、2020年10月末で21,518人でした。この数字は、総合戦略策定時（2017年）の人口動態予測と比較してみると、2020年度予測人口22,257人、2025年予測人口21,890人であったことを考えると、総合戦略策定時の見込み以上の人口減少となっています。

総合戦略策定時、国も力を入れて地方創生に取り組む姿勢をしめしていましたが、日野町の人口ビジョンはやや期待も込めた強気の数値設定になっていたものと推測されます。強気の人口目標の設定であったことが、全国の人口動態と同じ動きであったとしても、目標との乖離が大きくなると「無用に」心配になってくるものです。そういった意味でも冷静な目が必要となるのです。

しかし、人口減少に歯止めをかけることを目的とした総合戦略の施策は概ね順調に進んでいると評価されるのに、人口減少は進んでいるという二つの事実は事実として認識しなければいけません。この事実を真摯に受け止めることが必要です。また、この二つの事実から「総合戦略は人口減少の歯止めになっていないのではないか」との見方をされる人もいるでしょう。またある人は、「施策が概ね順調に進捗しても人口減少がすすむのは、施策や戦略の立て方が間違っているのではないかと考える人もいるでしょう。しかし、そのような単純化した推測が難しいのが現実でもあります。単純化してみることができない三つの理由があります。

第一の理由は、日本の出生数減少の現実です。2020年の全国の出生数は84万832人で、2019年より2万4407人（2.8%）減って過去最少でした。減少は5年連続となり、政府の推計よりも3年早く84万人台に突入しました。さらに、婚姻件数は前年より12.3%減の52万5490組と急減し、戦後最少であったと厚生労働省が発表しました。新型コロナウイルスの影響も重なり、日本の少子化が加速している状況にあります。全国の出生数が、5年連続で100万人

を割りこんでしまう状況下にあります。この全国の状態では日野町だけが出生数が飛び抜けて増える  
と考えるのは幻想ではないでしょうか。

第二の理由は、日本全体の少子化・高齢化のなかで、日本中の市町村が総合戦略に取り組んでいる  
のですから今や人の奪い合い状況に陥っているという状況にあるからです。人口増を実現するの  
は困難な仕事です。

第三に挙げられる理由は、「総合戦略の成果」が原因となって、日野町の人口増（自然増と社会  
増）になるという直接的な結果としてあらわれる関係ではないからというものになります。総合戦  
略は、「総合戦略の成果」によって、住みやすい日野町、住み続けたい日野町となることで、人口の  
流出の抑制やUIJ ターンなどの移住者を増やすこと、子育てのしやすい環境をつくること、子育て  
世帯を支えることで出生増につながる基本的な環境をつくり、住み続けたいまちを実現することが  
その果たすべき役割であると言えるでしょう。

## 5. 総合戦略の検証の経験から学び、次の改善に繋げる

最後に、6年間にわたる総合戦略の検証を踏まえ、総合戦略の施策を考える上での着眼点と今後  
の課題を述べておきます。

### ① 政策を考える上での着眼点

総合戦略の個別の施策は、行政区域外の人に移住・定住も考えてもらったり、住民に住み続けたい  
と考えてもらったりできるように施策を工夫しています。そのため、一部の施策は、経済的負担を  
軽減する施策で有り、それは住民に「インセンティブ(誘因)」を与えるような施策となっていま  
す。ここで、着眼点としてあげたいのは、「その施策は、インセンティブ施策であるのか？住民の志  
を育む施策であるのか？」を考えるということです。施策には、イ) 住民にインセンティブを与え  
て、そのよう行動することを促す施策、ロ) その施策の中で、関わった住民の中に「まちづくり  
への志を育む施策」の二つがあることを自覚することです。「まちづくりへの志を育む施策」といっ  
ても、難しいことではなく、例えば、「基本目標③ 施策 No.1 4 児童・生徒の自主学習支援の推  
進」のコメントされているような町内・周辺自治体在住の大学生をアルバイトに採用する」といっ  
た工夫です。先輩の姿を見て、小中学生が自分もやってみようと考えてくれるような機会を埋め込  
み、そうした日常の中からまちづくりへの志を育む取り組みを工夫してください。日常業務の工夫  
の中から日常の住民サービスの中に生涯学習的な機会を創ったり、住民の日常生活の中にまちづく  
りへの志を育む場面を創ったりするということになります。

### ② 今後の課題

基本目標①において、「地域内経済循環」は重要な概念です。地域内経済循環を把握する科学的な  
手法についても研究し、政策の科学的な根拠を持ちながら施策を検討してください。基本目標②に  
おいて、移住・定住の具体的なイメージ（典型的な移住・定住モデル）が一定想定されていない  
と、各施策の整合性がとれないと考えます。基本目標ごとに各施策のシームレスな関係を持つ方が  
良い場合もあるよう見受けられました。

「基本目標① 施策 No.1 創業・第2創業の促進」、「基本目標② 施策 No.6 生涯学習の機会  
の充実」、「基本目標④ 施策 No.1 3 自主防災組織の育成」や保健福祉関係の研修事業等におい

て、2020年度コロナ禍により、感染対策の必要から対面による講習会等が開けませんでした。それは、公衆衛生上の要請によるので仕方がないのですが、今後は、研修会等のオンラインによる開催やオンデマンドの学習教材等も整備し、オンラインによる学びの機会を保障する取り組みも必要ではないでしょうか。コロナ禍における経験を今後を活かし、対面実施による事業だけでなく、オンラインによる事業の可能性も進めてください。

総合戦略は、人口増を目指す政策です。町の人口動態を見ますと近年、外国籍の住民の方も増えています。そうした動向にも注意を払い、外国籍の住民のニーズを的確に捉え、行政サービスの充実を図ってください。

総合戦略は、住み続けたいまちにすることに加えて、総合戦略の検証を通じて、町役場の政策形成能力を高めるとともに、住民主体のまちづくりを進める切り口が明らかとなってきています。今後、町役場の政策能力を高め、住民主体のまちづくりが進展することで、連続的にまちの課題が解決され、まちの魅力をたかめることができたならば、必ず日野町の人口増（自然増と社会増）にプラスに働いてでしょう。そういった意味でも、総合戦略の検証プロセスは政策能力構築に結びついているので、重要なのです。

2020年に始まったコロナ禍は、収束の目処が立たず、不透明な状況が続いています。時代の変化を敏感に捉え、ウィズ・コロナ／アフター・コロナ時代の変化の荒波を乗り越える柔軟な施策の展開の工夫が必要です。多くの施策に、町役場の取り組みと住民の取り組みの協力関係の深化が求められます。次期総合戦略においては、より一層行政と住民の協働による施策の工夫を行ってください。それは、2021年度から始動した「第6次日野町総合計画」の考え方そのものです。第6次総計の「第4章 総合計画の効果を高める仕組み」では、「行政の部署別の機動性の発揮と横連携の強化」、「ともに創るまち」、「住民の暮らしに寄り添いみんなで取り組む」ことを通じて、総合計画の効果を高めると述べられています。住民同志が協力し合う「ともに創る」まちづくり、住民一人ひとりの暮らし方からみんなで取り組むまちづくりへと展開するチャレンジを進めていきましょう。

## 8. 資料編

## 1) 用語解説

用語	解説
PDCA サイクル	Plan-Do-Check-Action の略称。Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと
重要業績評価指標（KPI）	Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと
SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのこと
ファミリーサポートセンター	地域で育児の援助を受けたい人と支援したい人とを結ぶ組織のこと
コミュニティビジネス	地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むことで、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化につながるビジネスのこと
IT	コンピュータやデータ通信などの情報技術の総称のこと
第2創業	既に事業を営んでいる企業・事業者において、業態転換や新事業・新分野に進出する創業のこと
人・農地プラン	集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための未来の設計図のこと
6次産業化	農業などの第一次産業が食品加工・流通販売までの業務を行うこと
地域おこし協力隊	人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域活動を積極的に行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域の維持・強化を図っていくことを目的とした制度のこと

用語	解説
日野大当番仲間	江戸時代、日野には他国で商売を行った「日野商人」が多数存在し、商人相互の扶助のため、日野大当番仲間を組織しました。大当番仲間で、東海道や中山道の各宿場に現在の指定旅館ともいえる日野商人定宿を設けて、旅の便宜を図りました。（日野町にゆかりある人や応援していただける人、興味ある人など、町の内外を問わず、日野の「たから」を情報発信していただける仲間を、つくりつないでいく仕組みとしてその名称を例示しています。）
Facebook	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の一種
Twitter	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の一種
フォローアップ	行なった事柄について、その後も面倒をみること
多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと
ポールウォーキング	ポールを持って行なうウォーキングのこと
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和のこと
レファレンスサービス	図書館の資料を使い、図書館利用者の調べものをサポートするサービスのこと
おたっしゃ教室	介護の原因になりやすい転倒骨折や閉じこもりによる生活機能の低下を防ぐため、機能回復と外出応援を目的とする介護予防事業のこと
デマンドタクシー	指定の場所から目的地まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望に、バス並みの料金で利用できる公共交通サービスこと
アウトカム指標	施策・事業の実施により発生する効果・成果（アウトカム）を表す指標

## 2) 日野町総合計画懇話会の開催

実施日	実施内容	場所
令和3年 5月25日	第1回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和3年 6月23日	第2回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和3年 7月28日	第3回総合計画懇話会	防災センター ホール
令和3年10月 6日	第4回総合計画懇話会	防災センター ホール
令和3年11月 2日	第5回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和3年11月30日	第6回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室

## 3) 日野町総合計画懇話会委員名簿

※敬称略

委員区分	氏名	所属・推薦団体等
学識経験者	会長 只友 景士	龍谷大学政策学部教授
団体等推薦	副会長 山本 身江子	日野町地域女性団体連合会
	田中 嘉浩	農業関係団体
	岡 永治郎	日野町商工会
	齊藤 雅史	日野町企業協議会
	村田 康恵	日野町青年代表
	本居 節子	子育て関係代表

# 日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

— 人と人がつながりいきいきと輝くまち —



---

## 日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証結果報告書（令和2年度）

令和3年（2021年）12月

【発行】日野町総合計画懇話会  
事務局 日野町企画振興課  
〒529-1698 滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地  
電話：0748-52-6552  
FAX：0748-52-2043

---